



平成23年度

年報 第26号

福島県立博物館

年報発刊に 寄せて



東日本大震災の発生以来、すでに一年数カ月の歳月が過ぎました。しかし、わたしたちはいまだに、その途方もない災禍のもとで翻弄され続けています。とりわけ、原発事故にはじまった見えない放射能の恐怖は、福島県民の生活そのものを危機的な状態に追いやり、再生と復興への道筋をかぎりなく困難なものにしています。明日への希望が見えてこないことに、だれもが苛立ちを募らせています。

わたしたちは県立博物館という場所にあって、いま、いったい何をなし得るのか。それが問われてきた一年でありました。文化や芸術の力は、福島の復興に対して大きな貢献をなすことができるはずだと信じながら、なし得たことはあまりにわずかでありました。無念の思いは拭えず、しかし、可能性の萌芽のようなものだけは芽生えています。これから、福島が再生への道を歩んでゆくために、さまざまに文化や芸術の力が求められることになるでしょう。なぜならば、それはどこまでも無償の行為であり、それゆえに、それを仲立ちとしてあらゆる利害や対立を超えてゆくための場をデザインすることができるからです。

さて、いまこそ、福島に生きるすべての人々ともに手を携えて、未来への希望を紡ぐために働きましょう。

福島県立博物館長 赤坂 憲雄

第35回全国高校総合文化祭写真部門

全国高等学校総合文化祭は高校生の文化芸術活動の祭典であり、「文化部のインターハイ」ともよばれている。第35回大会（通称「ふくしま総文」）は福島県を会場として開催されることが以前から決定していたが、平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により、一度は開催自体が危ぶまれた。しかし、会場の変更等により無事福島県で開催することができた。

当館は写真部門の展示会場となり、全国から集まった高校生の素晴らしい作品を展示した。高校生ならではの新鮮な視点からの作品に、来場されたお客様も満足していただけたと思う。



高校生による展示作業



高校生による展示作業



展示風景



写真部門展示受付



全国から集まった高校生

福島県立博物館は、昭和61年に県立の総合博物館として開館し、平成18年に開館20周年を迎えました。博物館は、これまで県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、さまざまな活動をしてきました。

近年、社会情勢の変化により、博物館の存在意義の見直しと博物館ニーズへの積極的対応が要請されております。このため、今回、新しい時代の博物館として目指すべき目標を「使命」としてとりまとめました。ついては、社会に対する責務を明確にするとともに、博物館に対してみなさんのご理解を深めていただくため、その内容を公表いたします。

目 標

福島県は、関東・北陸・東北地方の接するところに位置し、美しく豊かな風土のもと、時代を通して文化交流の地として発展し、特徴のある歴史・文化を形成してきました。また、広大な面積をもつ本県は、中通り・浜通り・会津地域に分かれ、それぞれ異なった風土と生活文化をもっています。

福島県立博物館は、こうしたユニークで多様な歴史・文化が生み出した遺産とその背景にある自然に関する資料を収集・保存し、大切に未来へ引き継ぐとともに、研究を通して、資料のもつ価値を明らかにします。そして、収集した資料や研究の成果を世界に向けて発信するため、さまざまな形で公開します。

また、人々が地域の課題を調査・研究することを支援し、地域文化の新しい価値を創造することに寄与するとともに、みなさんが博物館を利用しやすいように、人と人との交流を大切にす楽しい環境を整えます。

これらを基本に、次のような博物館を目指します。

1. ふくしま発見博物館

ふくしまの文化遺産と自然史資料をもとに、ふくしまの歴史・文化そしてそれを育んだ自然に関する情報を提供し、ふくしまの魅力を再発見する場とします。そして、地域独特の文化の価値を共に学び、新たな文化を創りだす手助けをします。

2. 出会うふれあい博物館

楽しい時が学ぶ時です。かた苦しなく、気軽に入れて人と人が楽しく語り合える博物館を目指します。そのために、居心地がよく、自らが体験でき、楽しさを体感できる空間を演出します。

3. あなたも主役博物館

博物館を利用するみなさんも主役です。博物館はみなさんからの意見・要望を尊重して運営に活かします。また、友の会の会員やボランティアとして博物館の事業に参加することができます。みなさんと共により良い博物館を目指します。

活動の指針

目標を達成するため、次のような機能を充実させます。

【専門機能】

1. 地域の文化遺産の収集と継承

福島県の特徴を現す歴史・文化遺産および自然史資料を系統的に収集し、安全な状態で保存し次世代に伝えます。また、資料情報をデータベースとして整備し活用します。

2. 最新の研究による新たな資料価値の発見

専門的な研究により、収集した資料の価値を明らかにします。また、地域の課題であるテーマを設け調査を行い、その成果を地域文化の発展と創造のために役立てます。

3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援

展示を見るたびに資料の新しい側面を発見できます。新しい資料や研究成果を展示や講座に反映するとともに、利用者のニーズに応じて、資料についてさらに詳しい情報を準備し提供します。また、未来を担う子供たちにも対応したきめ細やかな学習支援を行います。

【交流機能】

4. 楽しめて出会うのある空間の創出

居心地がよく楽しめ、いろいろなことを体験・体感できる博物館を目指します。また、人と人が出会い、楽しく知的なコミュニケーションのとれる場所を提供します。

5. 博物館事業への住民参加

利用者の意見を積極的に取り入れて、博物館の運営に反映させます。また、友の会会員やボランティアの協力を得ながら博物館の事業を推進します。

6. 博物館情報の発信と公開

博物館の資料や研究成果および運営に関する情報を公開するとともに、展示や講座など館活動の情報を広く県内外に発信するため、積極的な広報活動を行います。

7. 地域ネットワークの拠点

福島県の面積は広大で、多くの学校、社会教育・文化施設、市民団体があります。これら関係機関等とのネットワークを作り、情報交換や共同研究、事業の共同実施を進めます。

8. 新しい観光ニーズへの対応

会津という観光地に立地することを踏まえ、地元の市町村や文化・観光施設と連携、共同し、新しいタイプの観光のニーズに対応できるよう努めます。

【運営機能】

9. 使命の明示と事業の点検

博物館の使命と目標を社会に明示し、オープンな運営を目指します。目標に向かって計画を立て、常に成果を点検し、目標を達成できるように努めます。

10. 人材の育成と機能的な組織

博物館の使命を達成するため、優れた人材を育成し、機能的で効果的な組織運営に努めます。

福島県立博物館 中期目標

目標年度：平成25年度

福島県立博物館では、「使命」に基づいて策定した11項目の「活動の指針」それぞれに「重点目標」を定め、それを平成21年度から25年度までの5年間で達成するための具体的な実施計画（中期目標）を定めました。

よりたくさんの方々には博物館を利用していただくため、概ね年間9万人の利用者数を見込み、平成22年度には開館以来の入館者数400万人を突破、25年度には430万人を超えることを目指し努力します。

このたび、平成23年度の中期目標の達成状況を「23年度評価指標」に基づいて評価しました。その結果を公表します。達成度の低かった項目についてはその原因を分析し、事業内容や実施方法を改善します。さらに平成24年度の目標を「24年度評価指標」として設定しました。24年度にはその指標を達成できるように努めます。利用者みなさんには中期目標をご理解いただき、博物館の運営について忌憚のないご意見をいただければと思います。

	平成20年度(実績)	平成21年度(実績)	平成22年度(実績)	平成23年度(実績)	平成24年度(目標)	平成25年度(目標)
入館者数	83,275	93,596	95,556	82,414	90,000	90,000
累計入館者数	3,861,281	3,954,877	4,050,433	4,132,847	4,222,847	4,312,847

※「入館者数」は、企画展開催回数で大きく左右されるため、基準年（平成20年度）同様年間2回の開催を前提として算定している。

平成23年度入館者数 82,414人 目標を達成できず。

機能	活動の指針	重点目標	実現方策	25年度目標	23年度評価指標	23年度実績	達成度	24年度評価指標
専門機能	1. 地域の文化遺産の収集と継承	博物館資料の系統的収集とデータベース化の推進	収集方針に沿って系統的に資料を収集し、具体的な資料整理の年次計画に基づき、整理・登録を進める。	5年間で収蔵資料約1万件の整理登録達成	各分野の整理計画に基づき実施。考古:400件 民俗:450件 歴史:500件 美術:30件 自然:900件 計2280件の整理・登録	考古:168件 民俗:109件 歴史:1件 美術:3件 自然:1084件 計1365件の登録 (達成度60%)	達成せず	各分野の整理計画に基づき実施。考古:300件 民俗:400件 歴史:500件 美術:30件 自然:400件 計1630件の整理・登録
			作業効率を上げるために、機器類の定期的更新を行う。さらに資料データの入力・検索・管理をより効率化するとともに、コンピュータのOSに対応させるため、収蔵資料管理システムを一新する。	年次計画に沿った収蔵資料管理システムの一斉更新	現行データベースソフトの使用限界（平成25年度）に向けたシステムの一新戦略の推進	県情報システム課との情報化構想協議を終了	達成	新収蔵資料管理システムの方式を決定し、本庁と協議し25年度実現を目指す
		二次資料の整理とデータベース化の促進	司書を継続雇用し、学芸員の研究および外部からの図書利用に資するため、年次計画に沿って図書の整理・登録および既存データの修正を進める。また、増加する図書の収蔵スペースを確保する。	図書の既存データ約9000件の修正完了	既存図書のデータ2000件入力	既存図書のデータ6924件入力	達成	既存図書のデータ2000件入力
		博物館資料情報の公開	収蔵資料情報（データベース）の公開はIT化事業の最終目標のひとつ。公開の方法や仕様について検討を進め、収蔵資料管理システムの一斉後、公開に向けた作業を進める。また、整理が終了したコレクション等資料情報の公開を随時実施する。	年次計画に沿ったコレクション等資料情報の公開	福島県立博物館資料百選（各分野20件、計100件）のホームページへの掲載完了	福島県立博物館資料百選（各分野20件、計100件）のホームページへの掲載完了	達成	博物館友の会の協力のもと、福島県立博物館資料百選の図録刊行
		資料の安全な保存	地球環境保全のため、有害ガスを排出する全館蒸気を廃止している。それに代わる方法として、資料を害虫から防ぎ安全に保存するためのIPM（総合的害虫管理）を継続実施する。	年2回の文化財害虫調査を元にしたIPMの継続実施	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）	達成	IPM（総合的害虫管理）の実施（2回）
機能	2. 最新の研究による資料価値の発見	連携した研究活動の推進	研究の質の向上、さらに研究ネットワークを築くため、大学や文化施設あるいは民間の研究団体との共同研究を進める。	共同研究の継続実施（各年度1回以上）	共同研究の継続実施（各年度1回以上） 文部科学省科学研究費を申請できる研究機関としての認定を目指し、査読制度のある学術雑誌等に4件以上の論文掲載	相馬中村層群研究会との共同研究実施 査読制度のある学術雑誌等に論文掲載なし	一部達成せず	共同研究の継続実施（各年度1回以上） 文部科学省科学研究費を申請できる研究機関としての認定を目指し、査読制度のある学術雑誌等に4件以上の論文掲載
		3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	リニューアルの推進	バックヤードを含めリニューアルは、館の最重要課題のひとつ。将来の実現に向けて、リニューアルのコンセプト作りを開始し、可能なものからリニューアルを進める。	リニューアルの推進	リニューアルプロジェクトチームによるリニューアルに向けた議論と情報収集	近年リニューアルを行った博物館4館の視察、リニューアルの経緯、効果について分析	達成
		魅力ある常設展の展開	常設展のリピーター増加をめざし、常設展の小規模展示替え（テーマ展・ポイント展）を毎年実施する。	テーマ展・ポイント展の継続開催	テーマ展・ポイント展の開催（29回）	テーマ展:11回 ポイント展:18回 計29回	達成	テーマ展10回・ポイント展17回計26回の開催

機能	活動の指針	重点目標	実 現 方 策	25年度目標	23年度評価指標	23年度実績	達成度	24年度評価指標
専 門 機 能	3. 来るたびに発見がある展示とニーズに応じた学習支援	オリジナル企画を中心とした企画展等の開催	館オリジナル企画を中心に、学芸員の研究成果、収蔵資料を活用した企画展や特集展を、集客を考慮しバランスよく実施する。	企画展・特集展を各年度4回のペースで開催	企画展・特集展を開催（5回）	企画展：2回・特集展：3回 計5回開催	達成	企画展3回・特集展1回 計4回開催
		きめ細かい解説システムの実施	利用者の様々な質問に対応でき、人的コミュニケーションを大切にした展示解説を維持・発展させる。	展示解説員による解説を中心に、「やさしい展示解説会」(毎週土日)等の継続実施	展示解説員による土日の「やさしい展示解説会」「通し解説」「部屋送り解説」の継続実施	「やさしい展示解説会」62回、通し解説21回、部屋送り解説252回を実施	達成	展示解説員による土日の「やさしい展示解説会」「通し解説」「部屋送り解説」の継続実施
		継続性のある講座の開催	講座の体系化と、ストーリー性をもたせたシリーズ化を進め、利用者の継続参加を促進する。企画展に合わせたタイムリーな連続講座の開催も試みる。	講座・講演会を各年度100回のペースで開催	講座・講演会の開催（100回）	講座・講演会等の行事を116回開催	達成	講座・講演会の開催（100回）
交 流 機 能	4. 楽しめて出会いのある空間の創出	エンタランスホールの多目的利用	エンタランスホールや屋外という開かれた空間を使用し、博物館の展示・資料などと関連をもたせた無料のイベントを開催する。市民団体による企画・運営も検討する。	四季のイベントを中心としたエンタランス周りでのイベントの継続実施（各年度4回）	東日本大震災による被災者を支援するためのメッセージを込めた「ふくしま応援ミュージアムイベント」の開催（7回）	「ふくしま応援ミュージアムイベント」を7回開催 その他被災者支援のためのさまざまなイベント・事業を実施あるいはサポートした。	達成	東日本大震災による被災者を支援するためのメッセージを込めた「ふくしま応援ミュージアムイベント」の開催（8回）
		利用者の快適性と利便性の促進	当館の常設の売店では、館発行の図書・絵葉書のみを販売しており、利用者の多様なニーズに対応していない。20年度秋から企画展開催時を中心に試行しているミュージアムショップの運営とオリジナルグッズの開発を軌道に乗せる。	企画展等に合わせたミュージアムショップの運営とグッズの開発	博物館友の会と連携したミュージアムショップの運営について再検討	ミュージアムショップは開店せず。友の会による他館視察3回、検討会議3回実施したが再開のめど立たず。	達成せず	ミュージアムショップの運営について再検討
		体験型の行事・講座の開催	来館者が参加できる体験型講座を増やす。また、それをイベント等と連結するよう試みる。	体験型の講座・プログラムの実施（各年度50回）	体験型学習の実施（50回）	体験型講座：14回 体験型イベント：2回 ハンズオンコーナー：2回 団体体験：32回 計50回実施	ほぼ達成	体験型学習の実施（50回）
	5. 博物館事業への住民参加	ボランティアの受入	資料整理を中心としたボランティアの受け入れを推進する。	自然資料整理ボランティア（通年）、古文書整理ボランティア（月2回）を中心としたボランティアの受け入れと活動支援	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ	ボランティア自然資料整理：2名 古文書整理：13名 漆の芸術祭（カキコ隊）：40名	達成	事業に合わせたボランティアの継続的受け入れ
機 能	6. 博物館情報の発信と公開	効果的な広報の展開	マスコミを始め、外部の各種メディアへの情報提供を継続するとともに、博物館からの情報発信媒体の内容と体裁の見直しを図る。とりわけホームページによる広報に力を入れる。	ホームページアクセス件数各年度40万件	ホームページアクセス件数45万件	ホームページアクセス件数 426687件（福島県立博物館：314686件 会津・漆の芸術祭：112001件）	達成	ホームページアクセス件数35万件
		7. 地域ネットワークの拠点	市町村との連携促進	市町村の文化施設との共同企画展の実施や、博物館資料を提供し展示協力を行う。移動展用のパッケージ化した展示を用意し、要望があれば22年度から実施する。	パッケージ移動展の普及等による移動展の継続実施	移動展開催（1回以上）	移動展2回開催	移動展開催（1回以上）
	8. 新しい観光ニーズへの対応	各種団体との連携促進	NPOなど地域の文化団体などからの展示会や講座の開催依頼には積極的に対応し、また、共同企画を立ち上げるなど事業の連携を進める。	後援行事の受入を継続実施（各年度10件以上）	後援行事の開催（10件以上）	後援行事を8件開催 会津・漆の芸術祭を継続開催し、展示・イベント、各団体との連携、ボランティア・学生等の受け入れを実施	ほぼ達成	後援行事の実施（10件以上） 会津・漆の芸術祭を継続開催し、展示・イベント、各団体との連携、ボランティア・学生等の受け入れを実施
		観光事業団体との連携	観光事業団体との連携を強め、会津地域への一層の集客を図ると共に、新しい観光ニーズに対応した企画を検討する。	観光事業団体との連携活動（PR・催事等）の実施（各年度1件以上）	観光事業団体との連携（1件以上） 磐梯山ジオパーク構想を進め、日本ジオパークとして磐梯山地域が認定されることを実現	漆の芸術祭で、会津若松市や県の観光事業団体と連携して事業を実施 磐梯山ジオパークが日本ジオパークとして認定	達成	漆の芸術祭で、会津若松市や県の観光協会と連携して事業を実施 観光団体と連携して新島八重の企画展の広報強化 磐梯山ジオパークが世界ジオパークを目指して観光事業団体と連携して活動を推進
運 営 機 能	9. 使命の明示と事業の点検	使命・目標の策定	使命に基づき、平成25年度を目標年度とした中期目標を作成し、それと連動した評価システムを作る。毎年評価・点検を行い、それをもとに計画に修正を加える。	中期目標に基づいた評価・点検の実施と計画の修正（各年度1回）	中期目標に基づいた平成22年度事業の評価・点検の実施と平成23年度計画の策定	22年度評価・点検の実施と23年度計画の策定	達成	中期目標に基づいた平成23年度事業の評価・点検の実施と平成24年度計画の策定
		事業の結果を点検・評価し、それを年報やホームページで公表する。	事業の評価と改善点を毎年公表	中期目標の平成22年度達成状況および23年度評価指標を公表	中期目標の平成22年度達成状況および23年度評価指標を公表	達成	中期目標の平成23年度達成状況および24年度評価指標を公表	

機能	活動の指針	重点目標	実 現 方 策	25年度目標	23年度評価指標	23年度実績	達成度	24年度評価指標
運 営 機 能	9. 使命の明示と事業の点検	利用者ニーズの把握と対応	入館者数など博物館利用に関する統計をとり、これらの分析を行う。	入館者統計の分析に基づいた事業の改善を毎年実施	入館者統計の分析に基づいた展示替え、広報活動等の実施	東日本大震災と原発事故の影響により、予想を超えて県外からの入館者が落ち込み、即座の対応が困難であった	達成せず	県外からの観光客と県内児童に向けたPRの強化
			運営・展示・講座・イベント・広報効果等に関する各種アンケートの基本的様式と項目を、それぞれの目的に沿って定め実施する。	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成維持	新規行事の際には可能な限りアンケートを実施 アンケートによる利用者満足度8割以上の達成 批判的意見に対する適切な処理	合計満足度 82.5% 批判的意見に対して物理的に不可能なもの以外は対応	達成	アンケートによる利用者満足度8割以上の達成 批判的意見に対する適切な処理
	10. 人材の育成と機能的な組織	学芸員の専門性の重視	学会等研修会へ積極的に参加し、学芸員としての専門的能力を向上させる。	学芸員による学会等研修会への参加（各年度5件以上）	学芸員による学会等研修会への参加（6件以上）	日本古生物学会（1人）	達成せず	学芸員による学会等研修会への参加（6件以上）
	11. 危機管理（追加指針）	来館者の生命の危機への対応	地震・火災に対する避難マニュアルを作成し、訓練を実施する。	地震・火災避難訓練の年1回実施	地震・火災の避難訓練実施（1回） 地震・火災時における観客の適切な誘導	避難訓練実施 1回 東北地方太平洋沖地震の余震時における観客の適切な避難誘導の実施	達成	地震・火災の避難訓練実施（1回） 地震・火災時における観客の適切な誘導
		資料の危機への対応	企画展示室や収蔵庫における安定した温湿度条件の確保（特に冬場）のための改善対策を図る。	収蔵庫・展示室の温湿度計測の月1回の継続実施	収蔵庫・展示室における温湿度の計測（月1回）	毎月1回 計12回実施	達成	収蔵庫・展示室における温湿度の計測（月1回）
	（追加）	県内文化財の保全	本県の文化財の研究・収蔵施設の拠点として、県内の文化財（自然史資料も含む）の保全のために努力する。	県内の文化財についての調査研究を継続する。その上で、災害時における被災状況の把握と保全のための対策を、行政および文化施設等と協力して実施	ふくしま歴史資料保存ネットワークと連携した、東日本大震災による被災資料の救出・復元・保管作業の実施	個人、学校、文化施設の被災資料4902点の受入と整理	達成	東日本大震災による被災資料の調査と、被災資料の救出・整理・保管作業の実施
		個人情報保護	県のセキュリティ対策に基づき、個人情報情報は分散しないように一元的に管理し、必要なければ適切に廃棄する。また、コンピュータへのウイルス対策を常時実施する。	県のセキュリティ監査の継続実施（年1回）とチェックのクリア	県のセキュリティ監査によるチェックのクリア	総務課職員については県のセキュリティ監査によるチェックをクリア 学芸課職員についてはFKS（福島県教育センター）のネットワークのセキュリティガイドを順守。 個人情報流出等のセキュリティ上の問題は発生しなかった。	達成	総務課：県のセキュリティ監査によるチェックのクリア 学芸課：FKSのセキュリティガイドの順守

●総 評

中期目標の平成23年度評価指標については大部分、達成あるいはほぼ達成であった。

博物館資料百選の公開については平成22年度には達成されなかった分野があったが、平成23年度にはすべて達成した。

平成23年度入館者数は、目標の90000人に達しなかった。これは、東日本大震災および原発事故の影響により、宮城県や北関東の小中学生の修学旅行生が大幅に減少したこと、本県への観光客が減少したこと、および23年度の企画展の回数が前年度より少なかったことに原因がある。

博物館資料の登録数、学芸員による学会等研修会への参加および公表した論文数などは目標を下回った。これは震災への対応のため資料整理や研究活動に手が回らなかったことが大きな要因。ただし資料登録数については、分野によっては1年をかけて整理した資料を次年度に一気に登録する場合もあるので、達成度評価には注意が必要である。

友の会によるミュージアムショップ運営については、人員の確保などから継続が困難な状況。新たな方策を検討する必要がある。

博物館ホームページへのアクセスの減少も、人々が東日本大震災により本県への観光を避けたことに原因があらう。ただし、ホームページの中に新たに作成した「会津・漆の芸術祭」へのアクセスは10万件以上で興味の深さが窺える。

平成24年度は、東日本大震災からの復興のため、博物館として貢献できる事を積極的に実施したい。特に、被災資料のレスキューや被災者支援のためのイベント等の文化事業を継続して実施、本県を訪れる観光客の増大のための観光事業団体との連携、および本県の文化の発掘と再生を目的とした研究活動を活発に行いたい。

目 次

I	沿 革	1
II	事業の概要	3
	1. 資料収集事業	3
	(1) 収集展示委員会	3
	(2) 受贈・受託	3
	(3) 購 入	3
	2. 保存管理事業	4
	(1) 資料の収蔵	4
	(2) 登録・整理	5
	(3) 貸 出	6
	(4) 保 存	6
	3. 展示事業	7
	(1) 常設展示	7
	(2) 企画展示	11
	(3) 特集展	14
	(4) 移動展	19
	(5) 展示解説	22
	(6) 体験学習室	23
	4. 調査研究事業	25
	(1) 展示資料調査研究	25
	(2) その他の調査研究事業	27
	(3) 職員の研究活動	27
	5. 教育普及事業	29
	(1) 講座・講演会	29
	(2) 学校・文化施設との連携	38
	(3) 生涯学習・研究支援	41
	6. 広報公聴活動および出版事業	43
	(1) 広報活動	43
	(2) 公聴活動	46
	(3) 出版事業	46
	7. 博物館友の会活動への支援	47
	(1) 友の会活動への支援	47
	(2) 友の会の活動状況	47
	8. 連携事業	49
	(1) 会津・漆の芸術祭	49
	(2) 福島の映像文化アーカイブ事業	51
	(3) 磐梯山ジオパーク構想推進事業	52
	9. 東日本大震災からの復興支援	54
	(1) 被災者のための部分開館	54
	(2) ふくしま応援ミュージアムイベント	54
	(3) 館長サタデープロジェクト	58
	(4) 被災文化財・資料への対応	59
III	管理運営	63
	1. 組織・職員	63
	2. 予 算	64
	3. 委員会の開催	65
	(1) 運営協議会	65
IV	利用状況	66
	1. 入館者統計	66
	(1) 平成23年度入館者統計	66
	(2) 入館者の推移	67
	(3) 企画展入館者統計	69
	2. 出版物販売	71
V	法 規	73
	福島県立博物館条例	73
	福島県立博物館運営協議会条例	74
	福島県立博物館条例施行規則	74
	福島県立博物館組織規則	77
	福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則	78
	福島県立博物館収集展示委員会設置要綱	78
	福島県立博物館資料所在調査要領	78
	福島県立博物館資料調査員設置要綱	79
	福島県立博物館友の会規約	79
VI	施設の概要	81
	1. 建築概要	81
	2. 設 備	81
	3. 平面図・各室一覧	82
	4. 施設の修理・改築	84
VII	利用案内	85

I 沿 革

《開館にいたるまで》

- 昭和52年 5月13日 文化を考える県民会議の設置
6～ 8月 文化に関する県民意識調査の実施
- 昭和53年 1月24日 文化を考える県民会議から県の文化振興について知事に報告
7月26日 第1回文化振興会議開催
- 昭和54年 2月 2日 文化振興会議から文化振興の具体策について知事に報告
3月19日 文化施設等整備基金条例制定
4月 1日 福島県教育庁文化課内に文化施設班を設置
12月24日 福島県美術品等取得基金条例制定
- 昭和55年 4月 1日 福島県教育庁文化課内文化施設整備室を設置
- 昭和56年 1月26日 県立博物館基本構想検討委員会から建設基本構想の報告を受ける
2月 3日 県立博物館の建設地を「会津若松市」と決定
- 昭和57年 2月18日 県立博物館収集展示委員会より「県立博物館総合展示及び部門展示計画」の報告
- 昭和58年 7月30日 建築実施設計を委託（株式会社佐藤武夫設計事務所）
展示実施設計を委託（株式会社トータルメディア開発研究所）
- 昭和59年 6月 8日 建設工事契約（㈱清水建設仙台支店・㈱会津土建・㈱秋山建設による共同企業体）
7月 7日 県立博物館建築工事着工（～61.3.25）
7月10日 展示工事委託契約（㈱トータルメディア開発研究所・㈱乃村工藝社・㈱丹青社による共同企業体）
7月13日 展示工事着工（～61.9.10）
- 昭和61年 3月25日 県立博物館条例 同施行規則 同運営協議会条例及び組織規則制定（61.4.1 施行）
3月31日 県立博物館公所開設にともない文化施設整備室を廃止
4月 1日 県立博物館公所開設 高橋富雄が初代館長として就任 運営協議会委員10名委嘱
10月 1日 展示解説員19名採用
10月18日 県立博物館開館
-

《開館してから》

- 昭和61年11月28日 登録博物館の指定（第10号）
- 昭和63年 8月21日 入館者50万人達成
- 平成元年 3月10日 友の会設立
- 平成 2年10月 7日 入館者100万人達成
- 平成 4年 3月31日 日本育英会の第一種学資金の返還を免除される職を置く研究所等の指定（文部大臣）
- 平成 5年 4月 1日 展示解説員22名となる
- 平成 7年 5月 5日 入館者200万人達成
- 平成 8年10月 5日 開館10周年記念式典を催す
- 平成12年10月15日 入館者300万人達成
- 平成13年 1月25日 博物館リニューアル事業に伴い、新基本構想検討委員会により「福島県立博物館新基本構想」が策定される
- 平成14年 3月25日 博物館リニューアルの新基本構想に基づいて「展示替え基本計画」を策定

- 平成15年 3月24日 博物館条例第4条改正により小・中学生及び高校生の普通観覧料を無料とする
- 3月28日 高橋富雄館長 「金曜講座」第393回目開催
- 3月31日 高橋富雄館長退任
- 4月 1日 赤坂憲雄が県立博物館長に就任
前館長高橋富雄に県立博物館名誉館長の称号授与
- 平成16年 4月 8日 赤坂憲雄館長・学芸員 「木曜の広場」第1回開催
- 平成17年 5月 6日 入館者350万人達成
- 平成18年 9月29日 博物館開館20周年を祝う会「おめでとう20歳の博物館」開催
- 平成19年 7月21日 当館と鹿児島県歴史資料センター黎明館との共同企画で企画展「樹と竹―列島の文化北から南から―」を開催
- 平成20年 7月19日 磐梯山噴火記念館および野口英世記念館と連携して共同企画展「会津磐梯山」を開催
- 平成22年 6月26日 県内の5つの文化施設（福島県立博物館、福島県文化センター、文化財センター白河館、アクアマリンふくしま、ふくしま県民の森フォレストパークあだたら）が連携して夏の企画展「山に生き森に遊ぶ―ふくしまの森林文化―」を開催
- 平成23年 3月11日 宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生。会津若松市は震度5強。博物館では設備および資料に若干の被害があり、展示室の安全性の確認と修繕工事のため4月10日まで休館。

II 事業の概要

1. 資料収集事業

(1) 収集展示委員会

ア. 収集展示委員会委員

館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12人を委嘱している。

収集展示委員会委員名簿

氏名	役職名	備考
岡田 茂弘	国立歴史民俗博物館名誉教授	委員長
岡田 清一	東北福祉大学教授	委員
有賀 祥隆	元東北大学大学院文学研究科教授	委員
入間田宣夫	東北芸術工科大学東北文化研究センター教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	委員
斎藤 常正	元東北大学理学部教授	委員
平川 南	国立歴史民俗博物館館長	委員
村川 友彦	元福島県歴史資料館課長	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター教授	委員
柳田 俊雄	東北大学総合学術博物館館長	委員
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	委員

イ. 会議

平成24年2月28日

議題

- ①平成23年度事業の実施状況について
- ②平成24年度事業計画について
- ③平成24年度の企画展等について
- ④使命および中期目標について
- ⑤その他

(2) 受贈・受託

ア. 歴史資料

(ア) 受贈

秋月胤永書	1件	個人
放出綿布購入券	2件	個人
勤書控、葦山笠ほか	10件	個人

(イ) 受託

圓谷氏系図ほか	2件	個人
---------	----	----

イ. 美術資料

(ア) 受贈

金胎玉虫塗コンポート（未完品）ほか	5件	個人
石井柏亭「猪苗代湖図屏風」	1件	個人
玉虫塗沈金透盛皿	1件	個人
遠藤香村筆「諸葛孔明図」ほか	9件	個人
婦人肖像画	1件	個人
根本愚州「周居三害図」ほか	2件	個人

(イ) 受託

田村観瀾「諸画押絵貼屏風」	1件	個人
黒塗菊花型大皿	1件	個人
絹本着色 十六善神像	2件	正徳寺
黒塗葡萄蒔絵瓶子箱ほか	48件	個人

ウ. 民俗資料

(ア) 受贈

袷、羽織	2件	個人
映写機（エルモ製）ほか	7件	個人
雛人形、五月人形ほか	4件	個人
製図用具ほか	17件	個人
虫送り行事の虫かご	1件	個人
焼き物、文書ほか	6件	個人
棹秤、会津木綿の着物ほか	4件	個人
屏風、大福帳ほか	18件	宗教法人法蘭寺
雪踏み俵	1件	個人
辻総	1件	個人
蚕座紙定規	1件	個人
朝日稲荷神社祭礼ポスターほか	12件	個人
奥州富国館製糸場記念誌ほか	18件	個人
給食のミルクの配膳用缶ほか	4件	個人
銭杵ほか	8件	個人
算盤ほか	6件	個人

(イ) 受託

彼岸獅子頭ほか	29件	東神指区長
額（渋沢栄一「富国館」）ほか	4件	個人
絵馬ほか	109件	個人
山姥のかもじ	1件	猪苗代町教育委員会教育長

カエルグッズ	118件	個人
相馬野馬追の用具一式	16件	個人

エ. 考古資料

(ア) 受贈

丹野コレクションほか	1647件	個人
------------	-------	----

オ. 自然資料

(ア) 受贈

化石標本	17件	個人
福島県内生物写真CD	139件	個人

(イ) 受託

南極昭和基地堆積物ほか	2件	個人
-------------	----	----

(3) 購入

ア. 歴史資料

武州豊嶋郡江戸庄図	1件	
-----------	----	--

- 佳人之奇遇 1件
 イ. 美術資料
 根本愚州筆「山水図」 1件
 根本愚州筆「赤壁図」 1件
 菊漆絵膳椀 1件
 鉄錆塗椀 1件

- ウ. 自然資料
 ジュラ紀アンモナイト化石ほか 34件

- エ. 図書資料
 (ア) 一般図書
 考古分野69冊、歴史分野21冊、美術分野35冊、民俗分野68冊、自然分野54冊、保存分野54冊、その他176冊 計477冊

(イ) 定期刊行物

定期刊行物リスト (H24. 3. 31現在)

	定期購読雑誌	分野
1	考古学研究	考古
2	宗教研究	民俗
3	ナショナルジオグラフィック	共通
4	第四紀研究	自然
5	ヒストリア	歴史
6	考古学雑誌	考古
7	日本民俗学	民俗
8	信濃	共通

9	ミュゼ	共通
10	史林	共通
11	史学雑誌	歴史
12	歴史評論	歴史
13	地方史研究	歴史
14	日本史研究	歴史
15	日本歴史	歴史
16	歴史学研究	歴史
17	仏教芸術	美術
18	日本の美術(2011年10月号まで。以後休刊)	美術
19	美術手帳(2012年1月号より)	美術
20	芸術新潮	美術
21	国華	美術
22	古代文化	考古
23	文化財発掘出土情報	考古
24	考古学ジャーナル	考古
25	季刊考古学	考古
26	日経サイエンス	自然
27	科学	自然
28	化学	保存科学
29	海洋	自然
30	地球	自然
31	月刊文化財	共通
32	たくさんのふしぎ	共通
33	ニュートン	共通
34	Journal of the Foraminiferal Research	自然

2. 保存管理事業

(1) 資料の収蔵

ア. 博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、

現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

収集資料数 (平成24年3月31日現在)

分野	件数	備考
考古	20,135	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,106	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	20,956	書籍・文書資料ほか
美術	6,173	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	48,259	化石・岩石・鉱物ほか
合計	108,629	

収蔵指定文化財一覧

(H24年3月31日現在)

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	資料名	点数	単位	備考
1	21	国	重要文化財	絵画	絹本着色阿弥陀二十五菩薩来迎図	1	幅	館蔵
2	1	国	重要文化財	絵画	紙本着色蒲生氏郷像	1	幅	寄託
3	8	国	重要文化財	工芸品	銅鉢	2	口	指定4口中の2口寄託
4	11	国	重要文化財	工芸品	椿彫木彩漆笈	1	背	館蔵
5	4	国	重要文化財	工芸品	白銅三鈷杵	1	点	寄託
6	7	国	重要文化財	工芸品	刺繍阿弥陀名号掛幅	1	幅	寄託

連番	指定順	指定者	指定種別	資料種類	資 料 名	点数	単位	備考
7	14	国	重要文化財	考古資料	会津大塚山古墳出土品	一括		寄託
8	12	福島県	重要文化財	絵 画	絹本着色松平楽翁像	1	幅	館蔵
9	26	福島県	重要文化財	絵 画	絹本着色達磨図	1	幅	寄託
10	27	福島県	重要文化財	絵 画	絹本墨画著色寒山図・絹本墨画著色拾得図	2	幅	寄託
11	16	福島県	重要文化財	絵 画	絹本着色名体不離阿弥陀画像	1	幅	寄託
12	29	福島県	重要文化財	絵 画	絹本着色熊野曼陀羅図	1	幅	寄託
13	30	福島県	重要文化財	絵 画	絹本着色普賢菩薩像	1	幅	寄託
14	9	福島県	重要文化財	彫 刻	木造地藏菩薩坐像	1	軀	寄託
15	5	福島県	重要文化財	彫 刻	銅造聖観音菩薩立像（羽黒山湯上神社）	1	軀	寄託
16	6	福島県	重要文化財	彫 刻	銅造聖観音菩薩立像（福聚寺）	1	軀	寄託
17	24	福島県	重要文化財	工 芸 品	銅鉢	1	口	寄託
18	19	福島県	重要文化財	工 芸 品	青磁牡丹唐草文大瓶	1	口	寄託
19	17	福島県	重要文化財	工 芸 品	刺繍阿弥陀三尊来迎掛幅	1	幅	寄託
20	10	福島県	重要文化財	書 跡	紙本墨書猪苗代兼載書八代集秀逸	1	巻	寄託
21	13	福島県	重要文化財	書 跡	相馬家系図	1	巻	寄託
22	33	福島県	重要文化財	典 籍	家世実紀	277	冊	館蔵
23	31	福島県	重要文化財	古 文 書	築田家文書	一括		寄託
24	37	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本着色飯豊山山道絵図	1	巻	寄託
25	2	福島県	重要文化財	考古資料	福島信夫山出土品	一括		館蔵
26	18	福島県	重要文化財	考古資料	金銅製双魚袋金具	2	枚	館蔵
27	20	福島県	重要文化財	考古資料	原山1号墳出土埴輪	一括		館蔵
28	28	福島県	重要文化財	考古資料	常世原田遺跡出土品	一括		館蔵
29	34	福島県	重要文化財	考古資料	流廃寺跡出土金銀象嵌鉄剣	1	口	寄託
30	3	福島県	重要文化財	考古資料	田村山古墳出土品	一括		寄託
31	32	福島県	重要文化財	考古資料	森北1号墳出土品	一括		寄託
32	36	福島県	重要文化財	考古資料	相馬・双葉地方の弥生時代石器	一括		館蔵
33	23	福島県	重要文化財	歴史資料	絹本着色恵日寺絵図	1	幅	寄託
34	25	福島県	重要文化財	歴史資料	陸奥内会津城絵図	1	鋪	館蔵
35	15	福島県	重要有形民俗文化財	有形民俗文化財	上行合人形	368	点	寄託
36	22	福島県	天然記念物	化 石	パレオパラドキシア化石梁川標本	1	体	館蔵
37	35	福島県	重要文化財	考古資料	荒屋敷遺跡出土品	一括		寄託
38	38	福島県	重要文化財	考古資料	松野千光寺経塚出土品	一括		寄託

イ. 図書および映像資料

(ア) 収蔵図書数（平成24年3月31日現在）

考古分野：22,314冊 民俗分野：4,310冊
 歴史分野：9,367冊 美術分野：3,501冊
 自然分野：15,400冊 保存分野：1,490冊
 その他：50,977冊 合計：107,359冊

(イ) 収蔵映像資料数（平成24年3月31日現在）

収蔵映像資料総数：1,370点

資料の登録・管理をはじめ、データのバックアップ、システムのアップデートなどのメンテナンスなどを継続して実施した。

イ. 資料の登録

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

登録資料数（平成24年3月31日現在）

資料類別	登録資料 （平成23年度）	登録資料 （累計）
考古資料類	168	11,001
民俗資料類	109	13,485
歴史資料類	1	35,508
美術工芸品類	3	6,214
自然標本類	1,084	22,959
合 計	1,365	89,167

(2) 登録・整理

ア. 資料管理システムの運用

平成14年度に現在の資料管理システムを導入し、それに伴い館内ネットワークを構築し、サーバー・クライアント方式で資料の登録・管理を実施している。その後、老朽化により故障がちとなった一部機器類を平成19年度末に更新している。平成23年度は、博物館

ウ. ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

(ア) 自然資料整理

猪俣桂次 週4日通年 標本への注記(受入番号書き込み) 22点 教材用標本へのシール貼り 512点 計534点
桑原 功 鈴木敬治植物化石コレクションのうち、第四紀植物化石のクリーニング・整理・同定作業 延

日数86日 作業点数約600点

(イ) 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者14名のうち13名が、延べ63日参加し、築田則光家寄託資料・大澤基宏家文書・山本重義家文書・福嶋義子家文書の再整理作業(表題・年代・法量などのデータの見直し)を行った。再整理が終了したのは272点。参加者は天野真貴子、五十嵐晴日子、大竹フミ、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、佐藤敏子、鈴木清二、芳賀幸雄、星甚恵、星弘明の諸氏。

(3) 貸出

ア. 博物館資料

貸出資料

資料名	貸出先	期間	展覧会名
三貫地貝塚出土骨角器 5点	福島県文化財センター白河館	平成23年4月1日～平成24年3月31日	同館常設展「暮らしをささえた道具たち」
新生代植物化石 温帯-冷温帯植物群と暖帯-亜熱帯性植物群	ふくしま海洋科学館	平成23年4月1日～平成24年3月31日	同館常設展
土偶 三島町荒屋敷遺跡 1点 土版 三島町荒屋敷遺跡 2点 土偶(複製品) 三島町小和瀬遺跡 1点	栃木県立博物館	平成23年9月16日～11月20日	企画展「土偶の世界-縄文人のこころ-」
九戸出陣陣立書	八幡平市博物館	平成23年10月7日～12月3日	企画展「岩手の戦国を彩った近江の武将たち」
跡見塚古墳群出土玉類 8件318点	須賀川市博物館	平成24年1月25日～平成25年1月24日	常設展「須賀川の歴史」

イ. 写真資料

写真資料貸出転載許可件数103件
美術分野51枚、歴史分野76枚、考古分野32枚、民俗分野2枚、自然分野14枚
その他施設・館外観写真等1枚 計176枚

内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相(酸・アルカリガス度、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度)及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

館内における生息害虫等の状況を確認するため保存環境調査は、7月12日～29日、11月9日～12月9日の2回にわたり実施した。

(4) 保存

ア. 防虫作業等

(ア) 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫(一時、第1～第6収蔵庫)、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主要なスペースについて昆虫、室

(イ) 燻蒸庫による燻蒸

第1回(7月6日)～第3回(3月15日)まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約430件の燻蒸を実施した。

3. 展示事業

(1) 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々の暮らしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

従来、部門展示の歴史美術では年間7～8回のテーマを設けた中規模展示を開催しているが、他の常設展示では小規模な展示替えを不定期に実施していたのみであり、来館者に常設展示の固定化と捉えられてしまう懸念があった。

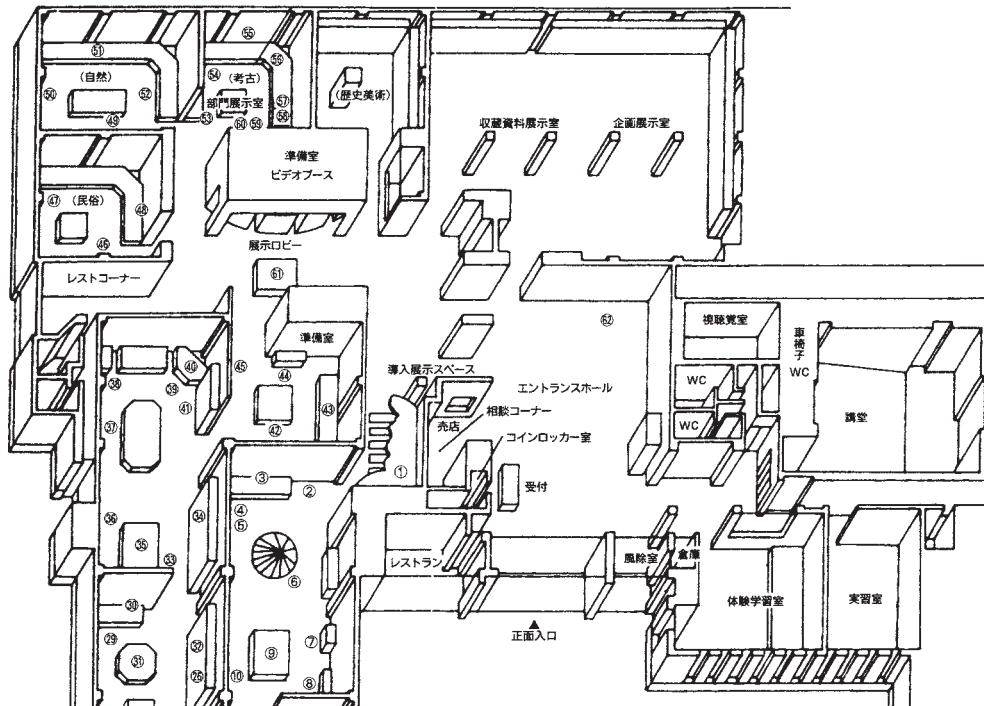
そこで平成21年度からは、期間を区切って展示替えを行う、「テーマ展示」と「ポイント展示」を新たな範疇として常設展示に加えることとし、今年度も継続して実施した。「テーマ展示」

は特定のテーマ・ストーリー設定に基づく中規模の展示であり、「ポイント展」は1点ものの資料や数点の特色ある資料に着目して紹介する小規模展示である。どちらの展示も学芸員が日頃行っている資料収集と専門的な研究の成果を反映させて資料の持つ価値を再評価しようとする試みである。テーマ展の中でも、考古分野では部門展示室を地元会津の各教育委員会と協力して地元に関わる資料を展示しようとする試みを今年度も継続し、会津美里町の協力により会津美里町と関係のある考古資料の展示をした。

テーマ展・ポイント展として常設展示の中で独立的に扱うことにより、広報がしやすくなった。また展示室内にもアクセントが生まれることでメリハリの利いた展示となり、常設展示自体がリフレッシュした効果もあった。

ア. 展示構成

福島県立博物館の展示構成



《総合展示》

- ① 清戸追横穴壁画
- 原始
- ② 福島最古の人間
- ③ 水河時代の生活
- ④ 最終氷期後半の環境
- ⑤ 環境の変化と生業
- ⑥ 縄文のムラ
- ⑦ 縄文人
- ⑧ 信仰と墓地
- ⑨ 稲作の開始
- ⑩ 再葬の墓
- 古代
- ⑪ 会津大塚山古墳
- ⑫ 原山1号墳の主
- ⑬ 群集する古墳
- ⑭ ムラの暮らし
- ⑮ 陸奥国の成立
- ⑯ 公民の生活
- ⑰ 在地の仏教
- 中世
- ⑱ 阿津賀志山の合戦
- ⑲ 神仏習合の世界
- ⑳ 好嶋庄の村むら
- ㉑ 南党と北党
- ㉒ 国人一揆
- ㉓ 戦国の群雄
- 近世
- ㉔ 奥羽仕置と諸藩の成立
- ㉕ 学問と文化
- ㉖ 庶民の信仰
- ㉗ 会津農書の世界
- ㉘ 町のにぎわい
- ㉙ 山国の神と人
- ㉚ 産業の発達
- ㉛ 海のなりわい
- ㉜ ゆれうごく封建社会
- 近・現代
- ㉝ 戊辰戦争
- ㉞ 自由民権運動
- ㉟ 福島県の成立
- ㊱ 安積開拓事業
- ㊲ 庶民の生活
- ㊳ 日本の花形産業
- ㊴ 15年戦争下の生活
- ㊵ 戦後の社会
- ㊶ 変わりゆく社会
- 自然と人間
- ㊷ 福島の盆地と平野
- ㊸ 福島の鉱山
- ㊹ 福島の火山と湖
- ㊺ 福島の河川

《部門展示》

- 民俗(ふくしまの子供の世界)
- ㊻ 七歳まではカミのうち
- ㊼ 遊びをせんとや生まれけむ
- ㊽ 小さき者の声
- 自然(県土の形成)
- ㊾ 基盤形成の時代
- ㊿ 海の時代
- ㊽① 山脈形成の時代
- ㊽② 段丘形成の時代
- 考古(容器と利器の変遷)
- ㊽③ 旧石器時代
- ㊽④ 縄文時代
- ㊽⑤ 弥生時代
- ㊽⑥ 古墳時代
- ㊽⑦ 奈良・平安時代
- ㊽⑧ 中世
- ㊽⑨ 近世
- ㊽⑩ 近・現代
- 歴史美術(福島の美術)
- ㊽⑪ ロビー・エントランスホール
- ㊽⑫ 白水阿弥陀堂模型
- ㊽⑬ 二本松提燈祭竹田町太鼓台

イ. テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が3年目である。全10回実施。「ふくしまの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪」展は会津美里町教育委員会との共催事業である。また「ふくしまの大地をつくる石たち」は収蔵資料展示室を会場とした。

- ①「天神さまー絵巻物から郷土玩具までー」（部門：歴史美術展示室）
平成23年2月26日(土)～4月17日(日)
- ②「ふるさとの考古資料1【会津若松市】遺跡探訪」（部門：考古展示室）
平成22年5月29日(土)～平成23年5月15日(日)
- ③「大和川酒造コレクション展Ⅰ」（部門：歴史美術展示室）
平成23年4月23日(土)～平成23年6月5日(日)
「大和川酒造コレクション展Ⅱ」（部門：歴史美術展示室）
平成23年6月7日(火)～平成23年7月18日(月・祝)
- ④「ふるさとの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪」（部門：考古展示室）
平成23年6月4日(土)～平成24年5月13日(日)
- ⑤「けんぱくの宝2011」（部門：歴史美術展示室）
平成23年8月13日(土)～9月25日(日)
- ⑥「山内清司漆芸展ー自然と語らうー」（部門：歴史美術展示室）
平成23年10月8日(土)～12月4日(日)
- ⑦「吉祥 めでたいものたち」（部門：歴史美術展示室）
平成23年12月10日(土)～平成24年1月22日(日)
- ⑧「ふくしまの大地をつくる石たち」（収蔵資料展示室）
平成23年12月10日(土)～平成24年1月29日(日)
- ⑨「松平定信編集『集古十種』刊本のいろいろ」（部門：歴史美術展示室）
平成24年1月28日(土)～2月26日(日)
- ⑩「旧家の美術」（部門：歴史美術展示室）
平成24年3月3日(土)～4月15日(日)



「ふるさとの考古資料2【会津美里町】」展示風景 1



「ふるさとの考古資料2【会津美里町】」展示風景 2



「大和川酒造コレクション展」展示風景



「大和川酒造コレクション展」展示解説会

ウ. ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が3年目である。全18回実施。

- ①「十三参りに着た手織りの着物」(部門：民俗展示室)
平成23年4月12日(火)～5月11日(水)
- ②「葦名亀若丸朱印状 ー南奥羽戦国史の明暗ー」(総合：中世展示室)
平成23年4月16日(土)～6月3日(金)
- ③「ゼンマイ綿の着物」(部門：民俗展示室)
平成23年4月21日(木)～6月3日(金)
- ④「恐竜が食べた!? 植物の化石」(部門：自然展示室)
平成23年4月23日(土)～6月3日(金)
- ⑤「飯豊山山道絵図」(常設展示室：ロビー)
平成23年5月28日(土)～6月24日(金)
- ⑥「風船爆弾関係資料」(総合：近現代展示室)
平成23年7月9日(土)～9月2日(金)
- ⑦「落下傘で作った着物」(部門：民俗展示室)
平成23年7月31日(日)～8月31日(水)
- ⑧「磐梯山をジオパークにしよう」(エントランスホール)
平成23年8月20日(土)～9月4日(日)
- ⑨「はじまりの考古学 ー注口土器のはじまりー」(総合：原始展示室)
平成23年8月30日(火)～平成24年3月18日(日)
- ⑩「はじまりの考古学 ー米作りと石の道具ー」(総合：原始展示室)
平成23年8月30日(火)～平成24年3月18日(日)
- ⑪「はじまりの考古学 ー塩づくりのはじまりー」(総合：原始展示室)
平成23年10月18日(火)～平成24年3月18日(日)
- ⑫「ふくしまの教育資料」(総合：近現代展示室)
平成23年10月22日(土)～11月25日(金)
- ⑬「くらしの石 ー稲荷原石で作った火の道具ー」(部門：民俗展示室)
平成23年12月1日(木)～平成24年2月3日(金)
- ⑭「旧石器時代の斧」(総合：原始展示室)
平成23年12月20日(火)～平成24年3月18日(日)
- ⑮「はじまりの考古学 埋められたお経 ー会津の経塚ー」(総合：古代展示室)
平成23年12月20日(火)～平成24年3月18日(日)
- ⑯「番付で再発見! 若松城下のくらし」(部門：近世展示室)
平成24年1月28日(土)～平成24年3月2日(金)
- ⑰「近代化遺産 ー旧南会津郡役所ー」(総合：

近代展示室)

- 平成24年1月28日(土)～平成24年3月2日(金)
⑱「ちいさな雛祭」(部門：民俗展示室)
平成24年2月23日(木)～平成24年4月3日(火)



ゼンマイ綿の着物



恐竜が食べた!? 植物の化石



葦名亀若丸朱印状



ちいさな雛祭

(2) 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を期間を限定して開催している。平成23年度は3回の企画展を予定したが、震災の影響で夏の企画展の開催が取りやめとなり、2回になった。

ア. 秋の企画展

「生誕400年記念 保科正之の時代」

(ア) 会 期 平成23年10月8日(土)～11月27日(日)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 6,136人

(エ) 担当学芸員 歴史分野：阿部綾子

(オ) 趣 旨

兄である三代将軍徳川家光から後事を託され、甥にあたる徳川家綱を補佐した保科正之。わずか11歳の幼将軍を守り立て、存在感を示した。この時代、幕府は武断政治から文治政治へと大きく舵を切ったが、正之はその立役者の一人となった。一方、会津藩23万石の藩主としても領内整備に力を入れ、他藩の模範たるべく様々な施策を行った。

本展示会は、保科正之生誕400年の節目の年に、「大老」や「半天下」と呼ばれた正之の一生を見つめ直すことを主眼として開催した。また正之と親交の深かった大名家に残された諸資料を紹介することで、正之が活躍した時代背景にも目を向けた。

(カ) 展示構成

プロローグ 数奇な運命

第一章 奥州の咽喉・会津へ

第二章 臣下の立場で

—幼将軍の後見—

第三章 二つの保科家

第四章 ゆかりの諸大名

第五章 人柄と学問

エピローグ 正之が遺したもの

(キ) 展示資料総数

書状、画像、刀剣、書籍、絵図など108点

(ク) 主な展示資料

志津祈願文

個人（さいたま市立博物館寄託）

保科正之画像 狩野探幽筆

土津神社（福島県猪苗代町）

保科正之書状

財団法人藩老本多蔵品館ほか

徳川家康書状・保科氏系図・保科正貞画像

個人（保科家伝来）

太刀 銘 包永〈重要文化財〉文化庁

徳川家綱画像 狩野養信摸写

公益財団法人徳川記念財団

陸奥之内会津城絵図〈県指定重要文化財〉

福島県立博物館

松雲公日記 前田綱紀筆

財団法人前田育徳会

御覚書〈重要文化財〉彦根城博物館

上杉氏系図〈国宝〉米沢市上杉博物館

(ク) 関連行事

①記念講演会1「保科正之とその同志たち～江戸儒学の黎明期～」

講師：東京大学人文社会系研究科准教授
小島 毅氏

日時：10月16日(日) 13時30分～15時

会場：福島県立博物館講堂

②記念講演会2「保科正之はなぜ神に祀られたか」

講師：歴史学博士 真壁俊信氏

日時：11月27日(日) 13時30分～15時

会場：福島県立博物館講堂

③シンポジウム「保科正之とその時代～ゆかりの大家からさぐる～」

講師：財団法人前田育徳会理事 菊池紳一氏、米沢市上杉博物館学芸員 角屋由美子氏、彦根城博物館学芸員 野田浩子氏

日時：11月6日(日) 13時30分～16時20分

会場：福島県立博物館講堂

④会津慶長地震シンポジウム

講師：元国交省 鈴木尉元氏、新潟大学 堀 健彦氏

日時：11月19日(土)

会場：福島県立博物館講堂・エントランスホール

⑤保科正之展リレー解説会①・②（福島県立博物館・若松城天守閣郷土博物館合同）
 講師：若松城天守閣郷土博物館 学芸員 中岡 進氏

福島県立博物館 学芸員 阿部綾子

日時：【第①回】10月9日(日) 13時30分～15時30分

【第②回】10月22日(土) 13時30分～15時30分

会場：福島県立博物館 及び 若松城天守閣郷土博物館 の各展示会場

(ロ) その他

本展開催にあたり、芸術文化振興基金による助成をうけた。



「保科正之の時代」リレー解説会



「保科正之の時代」シンポジウム「保科正之とその時代」



「保科正之の時代」シンポジウム「会津慶長地震」



「保科正之の時代」リーフレット



「保科正之の時代」展示風景

イ. 冬の企画展

「小さなもの集まれ！ 一雑道具から古民家模型まで」

(ア) 会 期 平成24年2月18日(土)～5月13日(日)

(イ) 会 場 企画展示室

(ウ) 入館者数 3,384人 ※平成23年度分のみ

(エ) 担当学芸員 民俗分野：榎 陽介・内山 大介・二瓶浩伸・佐々木長生

(オ) 趣 旨

1000点を超える雑道具の川内コレクションと、全国の茅葺古民家模型を製作している菅野清八さんの作品という二つの柱を中心として企画展開した展覧会。このほか、裁縫雛型や着物雛型、柳津町圓蔵寺の門前に伝えられてきた信仰の彫刻、微細彫刻、さらに、スイーツ・デコレーション、縄文時代のミニチュア土器や石器までも展示するという、理屈抜きで楽しめるものばかりを集めた展覧会。

(カ) 展示構成

- ① 小さな雑道具—川内コレクション—
- ② 全国古民家模型
- ③ ちっちゃな着物・裁縫雛型
- ④ いろいろまだある小さなもの

(キ) 関連行事

- ① 講演会「茅葺屋根の古民家に魅せられて」
講師：菅野清八氏
日時：3月18日(日) 13時30分～
会場：福島県立博物館講堂
- ② ギャラリー・トーク「雑道具川内コレクションについて」
講師：川内由美子氏
日時：4月8日(日) 13時30分～
会場：福島県立博物館講堂・企画展示室
- ③ 展示解説会
2月18日(土)、3月20日(火・祝)、4月15日(日)

(ク) 成果と課題

良くも悪くもコレクションの展覧会であった。展示図録には詳細に記したが、川内さんと菅野さんから別々に展示の提案をいただいていた。その二つを主要な柱として展覧会を作ったのがこの展示である。まだ会期が終了していないので現時点での問題などを記すことにする。まず、第一には驚くべきほどの低予算であったこと。23年度分の予算は200万円を切った。実際、輸送

費と印刷費を足してもこれを超えることはなかった。それでも展覧会が可能であった理由は大きなコレクションが中心であったということにあるだろう。第二にはコレクション所蔵者の力が大きかったこと。とくに雑道具のコレクターの川内さんには、資料撮影に立ち会っていただいたし、展示図録をサムネイルで出力した画像を張り付けたラフレイアウトを作成していただいた。さらに展示作業をご自分でなさった。資料があまりにも繊細であり、所蔵者ご自身で動かしていただいたほうがよいということがあったからである。そのため、展示自体が川内さんの考えを反映したものになった。第三に説明は最低限にとどめた。とくに雑道具は個別に資料名のキャプションを置くだけで、うるさいものになって、鑑賞する視線をさえぎってしまったと思う。その代り、展覧会を始めたのちに、川内さんからのご提案で、ケースに番号をふり、ケースの配置図を作り、そのなかに何が入っているか書いた簡易的な解説シートを作った。第四に、気持のよい空間となったということ。これはコレクション自体の力によるのだと思うが、展示室自体が人の気持ちをやわらげ幸福感でいっぱいにするような、そんな力をもつようになった。



「ちいさなもの集まれ！」リーフレット



「ちいさなものの集まれ！」展示風景



「ちいさなものの集まれ！」展示解説会3



「ちいさなものの集まれ！」展示解説会1



「ちいさなものの集まれ！」記念講演会



「ちいさなものの集まれ！」展示解説会2

(3) 特集展

ア. 春の特集展「永山巨コレクション展 ―集め続けて30年、資料が語る炭鉱（ヤマ）のくらしー」

主催：福島県立博物館

協力：常磐炭田史研究会

(ア) 会 期 平成23年3月5日(土)～5月15日(日) (3月12日(土)～3月25日(金)の期間は、東日本大震災により閉館)

(イ) 会 場 企画展示室 (常設展料金)

(ウ) 入館者数 5,762人 (会期中の常設展入館者数)

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎

(オ) 関連行事

展示解説会

講師：野木和夫氏・熊沢幹夫氏

日時：4月30日(土) 13時30分～14時30分

※この特集展については、年報第25号（平成22年度分）に詳しく掲載。



「永山巨コレクション展」リーフレット



「永山巨コレクション展」展示風景



「永山巨コレクション展」展示解説会

イ. 夏の特集展 I 「災厄退散(わざわいくるな) 福運招来(ふくよこい) 一村・家・人を護る呪物」

- (ア) 会 期 平成23年 6月25日(土)～7月24日(日)
- (イ) 会 場 収蔵資料展示室(常設展示料金)
- (ウ) 入館者数 5,687人(会期中の常設展示入館者数)
- (エ) 担当学芸員 民俗分野：榎 陽介・二瓶浩伸・内山大介・佐々木長生

(オ) 趣 旨

予定していた企画展「東北考古学の挑戦——挙公開！東北大学所蔵の考古資料——」が震災の影響のため中止となったので、急遽開催することになったピンチヒッターの展覧会。中身は当館で開催した「境の神・風の神」(1988年4月～6月)と「豊かなる世界へ」(2000年1月～3月)という二つの展覧会のエキスを混ぜ合わせたもの。収蔵庫にある、展覧会に合わせて製作してもらった資料を中心に展示した。

そもそもかつて人々は天変地異、疫病や不幸の連続になすすべもなくただ呆然と立ち尽くしていただけではなく、実際の効果は別としても、いろんな仕組みを考え出して自らを守って、幸せな生活がおくれるようにしていた。今回の特集展では福島県内外のわら人形を中心に紹介した。これらの人形は、あるときは村の外からの災厄を防いでくれ、あるときは村の中から災いとなるものを外に出してくれる。

他にも奥会津と中通り北部に分布している、上棟式に際し男女の生殖器を模した作りものを奉納する習俗を紹介した。さらに、三島町や金山町に伝承されてきた雛流し行事の雛たちも展示した。

(カ) 主な展示資料

ニンギョウサマ(西会津町屋敷)、ニンギョウサマ(西会津町萱本)、ニンギョウ(会津美里町下町)、ニンギョウサマ(会津美里町市野)、ニンギョウサマ(いわき市遠野町東山)、アンバサマ(いわき市岩間町岩下)、オニンギョウサマ(田村市船引町芦沢屋形)、カゼブクロサマ(浅川町福貴作)、ヤクバラニンギョウ(秋田県西和賀町白木野)、ジンジョサマ男女(秋田県大館市山田)、ワラニンギョウ(山形県最上郡舟形町長沢)、オカマサマ(二本松

市石橋地区)、火伏せ(三島町名入地区)、火伏せ(南相馬市鹿島町)、流し雛(金山町水沼)、流し雛(三島町高清水)

(キ) 関連行事

展示解説会

日時：7月9日(土) 15時～(民俗講座終了後)

会場：福島県立博物館特集展会場

(ク) 成果と課題

ともかくも急ごしらえの展覧会であった。収蔵資料でどうにかできないかということから発想された。もちろん、展示した資料の多くが、災いに対してどう生きていくかという人々の対応の結実としてみる事ができるもので、この時期として展示する意味はあったと思う。しかし、多くの方々に見ていただいたわけではない。むしろひっそりと開催したということになるだろう。



「災厄退散・福運招来」ポスター



「災厄退散・福運招来」展示風景



「災厄退散・福運招来」展示解説会

ウ. 夏の特集展Ⅱ

「喜多方「100年カエル館」コレクション展～明治から平成へ、受け継がれるカエルグッズ～」

主催：福島県立博物館・喜多方100年カエル館

(ア) 会期 平成23年8月13日(土)～9月19日(月・祝)

(イ) 会場 企画展示室(常設展料金)

(ウ) 入館者数 13,798人(会期中の常設展入館者数)

(エ) 担当学芸員 展示班：榎陽介・高橋充・高橋満

(オ) 趣旨

予定していた夏の企画展が震災の影響で中止・延期になったため急遽開催をすることになった展覧会の第二弾。その発端は喜多方100年カエル館からの1本のメールだった。震災のため観光客が減少している会津のために何かしたい、それで自分たちが持っているカエルグッズの展覧会をしないか、という提案だった。カエルと当館との

間に関係があるわけではなかったが、明るく楽しめる展覧会になるのではと思い、開催に向けて動くことになった。100年カエル館は、喜多方市で長く建設会社を営んできた高山家が三代にわたって蒐集してきたカエルグッズを展示していた施設だったが、現在は閉鎖している。三代目の高山姉妹は東京で広告会社を経営していた。ここではカエルに関する展示企画やトークイベント、新聞の発行などを通して、カエルの文化史の掘り起こしなどを行ってきた。そのコレクションの特徴は、初代から三代目まで、ジャンルや趣味にこだわることなく幅広く集めてきたことから、カエルをモチーフにしたモノを通して人とカエルの関係性が見えてくるような多岐にわたった分類が可能になっていることにある。また、コレクションのなかには明治から昭和にかけて東京を活動拠点にカエルのモノの蒐集を行った小沢一蛙のコレクションの一部を遺族より寄贈を受けた蒐集品も含まれている。こうした多彩なコレクションの中から選りすぐりのカエルたちに登場してもらおう展示となった。

(カ) 展示構成

- ①材質で楽しむカエルグッズ : 木製 石製 土製 金属製 きものなど
- ②造形や意味を楽しむカエルグッズ
- ③用途で楽しむカエルグッズ : マグカップ 雨具 など
- ④五大大陸をカエルグッズで楽しむ : 中南米 アジア・アフリカ・オセアニア 北米 ヨーロッパ
- ⑤名作童話に登場したカエルたち
- ⑥日本のカエル・キャラクター
- ⑦欧米のブランドもののカエル
- ⑧カエルがテーマのアーティストの作品
- ⑨小沢一蛙コレクション

(キ) 展示資料

上記テーマの資料2,300点

(ク) 関連行事

ギャラリートーク

講師：喜多方100年カエル館学芸員 高山ビッキ氏

日時：9月18日(日) 13時30分～

会場：企画展示室

(ケ) 成果と課題

展覧会については、スペースを限定したものをこちらで提案していたが、高山さん姉妹は全面的な展示を強く希望して大きな

展示となった。直前まで「全国高校総合文化祭」の写真部門を展示していたため、極めて限られた時間に資料の輸送及び展示を行わなければならなかった。喜多方からの輸送には公用車を使用し、何日間もかかってしまった。炎天下の作業は厳しいものであり、あまりの資料の多さに作業が追い付かない状態だった。展示作業は高山さん側から提供されたイメージ写真を参考に、こちらの学芸員も手の空いているものはすべて出て作業するという、総動員体制で行った。その展示をお二人がすべてチェックし手直しをした。本来予算の裏付けのない展覧会なのでチラシもポスターも作ることができなかった。ところ高山さんはデザイナーにたのみチラシを作成することまで行ってくださった。出来上がった展示室は、おそらく我々が手掛けていたものとはたいへん異なった姿となっていた。まさしく、コレクターの展覧会であって、その収集者の視点が貫かれているユニークさを持っていた。別料金の企画展ではないので正確に入館者を数えたわけではないが、多くの方に喜ばれて迎えられた展覧会だったと思う。テレビ局の生中継などもあって、急遽開催した展覧会としては入館者に恵まれていた。

所蔵者の高山さんはカエルに福島再生を託した意味づけをしていたが、展覧会全体がそうになっていたわけではない。むしろ理屈抜きで驚き楽しむものとしてあった。今回はさらにカエルグッズの販売がレストランであって、そのことも人気を呼んだ。すべてにわたって異例な展覧会であったが、この時期だからこそ開催しようという流れになったのだろう。ふつうの状態だったら展覧会をしませんかというお誘いの言葉は私たちのところまでとどいたかどうか…。よい経験をさせていただきといえるかもしれない。また、時間との戦いになった展示作業では、自発的に手伝いに参加してくれた学芸員の多さが印象に残った。



「喜多方「100年カエル館」コレクション展」リーフレット



「喜多方「100年カエル館」コレクション展」展示解説会

エ. 第35回全国高等学校総合文化祭写真部門展示

共催：福島県高等学校文化連盟写真専門部会

(ア) 会 期 平成23年8月3日(水)～8月7日(日)

(イ) 会 場 企画展示室 (無料)

(ウ) 入館者数 2,735人 (主催者発表による)

(エ) 担当学芸員 展示班：榎 陽介・高橋 充・高橋 満

(オ) 経 過

第35回全国高等学校総合文化祭は通称ふくしま総文といい、高校生の文化系の総合祭典である。平成23年度の福島県での開催が決まって以来、2年ほど前から当館での写真部門の開催を打診されていた。一時は東日本大震災の影響で、開催自体が危ぶまれていた。反対意見も多く出たし、参加予定の父母からも福島開催となると子女を福島県内に送り出すことへの危惧もあったようだ。しかし、開会式典が福島市の施設から会津若松市の風雅堂になったり、部門によっては他県での開催となる変更もあったが、ともかくも開催できるようになった。6月15日に準備、16日には審査が行われ入選作が決まった。会場のレイアウトは担当の先生が描き、こちらの施設では足りない壁面は臨時に設置することになった。準備と運営は高校生が参加することが原則で、多くの高校生が加わっていた。

(カ) 成果と課題

ふくしま総文の運営は学校の先生方によってなされた。担当の先生方は通常の学校での業務をこなしながらの作業であった。開催場所の提供という当館の立場からすればとくに問題になるようなことはなかったが、ただ、写真などの平面を壁面に展示するということに対応した施設ではないため



「喜多方「100年カエル館」コレクション展」展示風景 1



「喜多方「100年カエル館」コレクション展」展示風景 2

に、あらたに壁を設置したりしなければならなかった。たとえば、企画展示室の2面には壁付きのケースが設置されているが、覆い隠す移動壁はすべてを隠すことはできないので、実行委員会で新たに臨時の壁面を作らなければならなかった。また、こちらで購入していたパネルも活用したが、必要な分量には数枚不足するために新たに実行委員会に購入してもらうなどのことがあった。

いわば、天から降ってわいたような事業であったが、当館として提供できるものはすべて提供し、協力し、無事開催できたことは幸いだった。



全国からの高校生であふれる展示室



高校生による展示作業



写真部門展示風景

(4) 移動展

県立博物館の企画展の一部や、当館の収蔵品を市町村の博物館・資料館で公開して欲しいという要望も多いために移動展を実施している。利用を促進するために移動展のパッケージプラン（別表）を用意し、その中から選んでいただくということも試みてきた。

移動展パッケージプラン一覧

No.	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
1	考古	A	福島県立博物館所蔵 県指定考古資料展	1～2ヶ月	30～40点	県指定品である優品の紹介
2	考古	B	三貫地貝塚展	1～6ヶ月	約40点	新地町にある縄文時代貝塚の特集
3	考古	B～C	さわってみよう、縄文人・古代人のどうぐ・うつわ・かざり	1～6ヶ月	約41点	ハンズオン＋実物資料 原始・古代を実感
4	自然	A	謎の海獣 パレオパラドキシア	協議	約60点	梁川町発掘の1600万年前の化石
5	自然	B～C	見る・さわる 世界の化石	協議	約880点から選択	ハンズオン＋実物資料 生物の歴史と化石の楽しさを提供
6	美術	A	けんぱくの宝	協議	約15点	一級の美術工芸品
7	美術	B	近くで見よう ハンズオン対応資料展	協議	約20点	ハンズオン ふれて学ぶ美術品

No.	分野	規模	タイトル	期間	資料点数	概要
8	民俗	B～C	東北の仕事着	1～2ヶ月	約1200点から選択	コレクション資料 体験講座も可
9	民俗	A～B	郷土玩具	1～2ヶ月	約1900点から選択	コレクション資料 県内各地の郷土玩具
10	民俗	B～C	ふくしまの火伏せ	1～2ヶ月	3セット	安達(中)・三島(会)・鹿島(浜)の火伏とは
11	民俗	B～C	東日本のわら人形	1～2ヶ月	約20点	関東以北、村を守る想いとは
12	歴史	B	お金の歴史	2ヶ月程度	約250点	お金の歴史をわかりやすく
13	分野横断	A	県立博物館移動展 はま・なか・あいつの名品	1～2ヶ月	約280点	けんぱくの所蔵する各地の名品が大集合
14	分野横断	A	博物館がやってきた!! ー県立博物館収蔵庫のヒ・ミ・ツー	1～2ヶ月	約280点	普段は入れないけんぱく収蔵庫のヒミツとは
15	分野横断	A	未来へ伝える 県立博物館の宝展	1～2ヶ月	約50点	考古・美術の一級資料をご紹介します
16	分野横断	A	さわって感じる 化石・古代・美しさ展	1～2ヶ月	約730点から選択	大ハンズオン展、ふれて感じる展覧会です

※規模欄の記号は以下を表します。なお、この表示はおおよその目安であり、出品資料の詳細は担当学芸員と相談のうえ決定します。

A：広いフロア・多くの展示設備を必要とし、美専車で輸送が必要な大規模プラン。展示室内か入口に監視員要。

B：美専車不要の資料、未指定品で構成する中規模プラン。一定のフロア、展示設備が要。展示室内か入口に監視員要

C：美専車不要の資料、未指定品で構成する小規模プラン。展示室入口に監視員か資料保全の図れる展示ケース等が必要

内容の詳細は、当館HP <http://www.general-museum.fks.ed.jp/> をご覧ください

移動展 出品可能個別資料一覧

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
1	民俗	渡部つとむコレクション	約1200点	無	不要	相談	寄託資料：仕事着・子供祝着など 寄託資料
2	民俗	大竹コレクション	約1500点	無	不要	相談	こけし、郷土玩具など
3	民俗	東日本のわら人形	約20体	無	※要	可	企画展「境の神・風の神」で製作したもの。美専ではなくとも業者による輸送が必要
4	民俗	会津の雪の装い	約10点	無	不要	可	ハンズオン：カンジキ各種、菅笠、ゲンベエ、雪踏み俵、蓑など
5	民俗	オカマサマ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。旧安達町：屋根裏に下げていたセット。男性、女性、牛蒡、鯉節、干し柿、鶴、亀など
6	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	企画展「豊かなる世界」で製作したもの。三島町名入地区：男性、女性 製作時の写真
7	民俗	火伏せ	1セット	無	不要	可	南相馬市鹿島区：蛇、牛蒡、魚
8	民俗	皮箕	2	無	不要	可	サワグルミ製 三島町他
9	民俗	オリッカ	3	無	不要	可	サワグルミ制 会津美里町
10	民俗	苧引き鉄	3	無	不要	可	
11	民俗	苧引き用舟	3	無	不要	可	くり抜き
12	民俗	麻糸	1袋	無	不要	可	
13	民俗	糸車	2	無	不要	可	麻糸よりかけ用

No.	分野	資料名	数量(最大)	指定	美専	露出展示	その他条件
14	民俗	地機	1	無	不要	可	糸がかけてある
15	民俗	鯨鉢	3	無	不要	可	本郷焼
16	民俗	切立	3	無	不要	相談	本郷焼 一部寄託資料も
17	考古	三貫地貝塚出土縄文土器(複製)	10	無	不要	可	ハンズオン
18	考古	平安時代土器(複製)	10	無	不要	可	ハンズオン
19	考古	首飾り(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
20	考古	古墳時代鏡(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
21	考古	大窪横穴須恵器類	10	無	不要	可	
22	考古	勿来金冠塚古墳出土冑	1式	無	不要	不可	
23	考古	勿来金冠塚古墳冑(複製)	1	無	不要	可	ハンズオン
24	歴史	いわき地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
25	歴史	相双地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
26	歴史	県南地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
27	歴史	県中地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
28	歴史	県北地区に関する古文書等歴史資料	10	無	不要	不可	1ヶ月程度
29	歴史	南会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度
30	歴史	北会津地区に関する古文書等歴史資料	20	無	不要	不可	1ヶ月程度

ア. 福島県立博物館移動展「さわって感じて見てあそぼう！ー化石・民具・古代の資料ー」

(ア) 会 期 平成23年10月1日(土)～10月16日(日)

(イ) 会 場 小野町ふるさと文化の館・美術館

(ウ) 入館者数 618人

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎・相田 優・船尾武彦、民俗分野：榎 陽介・内山大介、考古分野：田中 敏

(オ) 趣 旨

小野町文化の館での移動展は平成21年度に引き続き2回目であるが、今回は小野町文化の館からの希望で自然・民俗・考古の3分野から「さわって感じて見て」という趣旨で資料の選定を行った。前回は民俗分野の「郷土の仕事着展」ということで実施したが、小野町文化の館には特に自然分野の展示がないということで、普段なかなか見られない化石の資料を中心に展示を構成した。また、実際に手にとって見たり体験したりできるように化石や民具、古代の資料を選定し、展示を工夫した。

(カ) 展示資料

当館が所蔵する化石・民具・古代の資料約200点

(キ) 関連行事

①体験講座「化石クリーニング」

講師：当館学芸員 竹谷陽二郎・相田 優・船尾武彦

日時：平成23年10月9日(日) 13時30分～15時30分

②体験講座「糸紡ぎ」、展示解説「化石」

講師：当館学芸員 榎 陽介・相田 優
日時：平成23年10月13日(日) 11時～14時30分

(ク) 成果と展望

① 当館までなかなか足を運んでいただけない遠方の地域の方々にも見て触れていただける貴重な機会となった。特に、小野町ふるさと文化の館では今までになかった自然分野の企画を紹介することができ、化石などに対する興味関心を広げることができた。入場者数は多いとは言えないかもしれないが、何度も足を運んでくれた小学生があったり、サーベルタイガーやマンモスが大人気となり、それを調べるための図鑑や資料をあらためて要請されるなど興味関心を浸透させることができたことは確かである。

② 実際に手に触れ体験できる資料を中心に展示し、資料が持つ様々な魅力に直接触れてもらうことができた。それによって、民具を身につけた子供の姿を親御さんが撮影して一緒に楽しんだり、銅鐸の音を鳴らし、音の鳴る仕組みに興味を持ってじっくり観察する小学生の姿が見られたりなど、親しみやすい展示となった。

③ 体験講座「化石クリーニング」は親子で参加という形にしたことにより、親子

で協力したり教えあったりしたことにより楽しかったという声が随所に聞かれ、体験講座「糸紡ぎ」と展示解説は学校(学年・学級)単位で参加してもらったため、先生のご協力を得たり、学習の一環という意識もありより効果的な講座になった。

- ④ 福島県立博物館は、唯一県立の博物館として、福島県内全域の人々に福島県の文化や自然のすばらしさを伝えていく責務がある。移動展は特にその一つの方法であり、今回のようにほとんど予算もかからず実施できる企画は貴重であると考えられる。



「さわって感じて見てあそぼう！」小学生への展示解説



「さわって感じて見てあそぼう!」「さわれる化石」展示風景



「さわって感じて見てあそぼう！」展示風景

イ. 「永山亘コレクション展」

主催：福島県立博物館 いわき市石炭・化石館

(ア) 会 期 平成23年12月17日(土)～平成24年2月28日(火)

(イ) 会 場 いわき市石炭・化石館 エントランスホール

(ウ) 入館者数 8,777人(会期中のいわき市石炭・化石館入館者数)

(エ) 担当学芸員 自然分野：竹谷陽二郎

(オ) 趣 旨

いわき市在住の永山亘氏から寄贈された300件におよぶ常磐炭田の資料をもとに、平成23年3月5日～5月15日に福島県立博物館で特集展を開催した。そのダイジェスト版を、いわき市石炭・化石館の協力を得て、常磐炭田の中心地であったいわき市で移動展として開催した。この展示会を通して、常磐炭田の採炭技術、および炭鉱に生きた人々の生活を中心に紹介し、戦後、日本の経済復興に常磐炭田が果たした役割や、一山一家といわれた炭鉱社会の特徴について考える機会とした。

(カ) 展示資料

永山亘氏寄贈常磐炭田関係資料 81点
常磐炭田産業遺跡写真

(5) 展示解説

ア. 展示解説員

平成23年度の展示解説員は13名で、前年度1名いた臨時職員の展示解説員がいなくなり、実質1名の減となった。また前年度と同様に監視員2名分の委託ができる予算がついた。23年度の展覧会のうち、秋の企画展は社会教育総務費からの支出であり、十分な予算が使えたので1名の監視員配置の処置ができたが、その他の展覧会ではこうした配備も望めない状態なので、なんとか解説員と補助としての学芸員により乗り切るしかなかった。たとえば、秋の企画展の場合、132コマもの学芸員による展示室での当番が発生した。これらは主として展示解説員の昼食休憩時の対応のためであった。このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などの開催を中止せざるをえないようになった。

(ア) やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催する

ことになっている。1回の所要時間は約30分。23年度は4月12日より通常通り開館しやさしい展示解説は5月14日からはじめた。

実施状況

開催日数：80日 実施日数：47日
開催回数：157回 実施回数：62回
総参加人数：206人 1日当たりの平均人数：2.58人 1回当たりの平均人数：1.31人

(イ) 通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：21回

(ウ) 部屋送り解説

非定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：252回

(エ) 体験講座

22年度末の3月13日（日）に開催予定であった体験講座「時代衣装で解説会－親子で楽しむ衣装講座－」が6月18日（土）の午後ようやく開催することができた。参加者は11名で、対象は小学生。このような体験講座は以前は準備する時間も取れたのだが、減員のため余裕の時間を捻出することが困難になったので、今後は難しいだろう。



体験講座「時代衣装で解説会」

イ. 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に

立つポストが増えることになり、解説員だけでは昼休みに対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。23年度は年間で258回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった冬の企画展では回数を抑制するため、解説員に人員の配置を工夫してもらった。もちろん、学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多いと思えた。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が33団体に対して38回の展示解説を実施した。

ウ. 展示解説のための印刷物

①福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106 p.

②福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28 p.

③Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14 p.

(6) 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちやが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

ア. 衣装

(ア) 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思われる、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。23年度は合計518回行った。しかし前年度は891回で、来館者数の減少が反映しているかもしれない

①衣装着付け件数 518件

②着付けた衣装 春：半袴、打掛 夏：
水干（子供用）、直垂
秋：推古朝の男子、天
武朝の女子 冬：山
伏、白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くなるし、多人数の要望には一度に答え難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

(イ) 衣装展示

春：大鎧／夏：古墳男子、小袖／秋：武士旅姿、壺装束／冬：大鎧

イ. 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り／12月：クリスマスツリー／1月：団子さし／3月：手作り雛人形



手作り七夕飾り

ウ. おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：123件

エ. ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

①平成23年4月～平成23年9月「雪国のはきもの」(民俗分野)

②平成23年10月～平成24年4月「原始・古代の土器にさわってみよう」(考古分野)



雪国のはきもの



土器にさわってみよう

4. 調査研究事業

(1) 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。

ア. 考古資料の材質・製作技法に関する研究

(ア) 趣旨

出土した状態の考古資料は、そのままでは当時の姿を理解することが難しい。また、製作技術の分析にはその材質や技術的な特徴を把握することが必要である。本研究では展示資料を復元するためのバックデータ収集、および資料から導き出される歴史的意義について明らかにすることを目的とする。

(イ) 調査概要

平成23年度は、福島市高森古墳群（梅本古墳）出土鉄製刀装具の調査研究を行った。当該資料は、柄頭と鏝からなり、昭和44年発行の福島市史第6巻には実測図の掲載があり、象嵌を有するとされる資料である。象嵌については既にエックス線撮影で銀象嵌による細密で複雑な文様が柄頭に施されていること、鏝は八窓鏝で、渦巻き文と円文が配置されていることが判明していた。どちらも遺存状況は不良である。

今年度は、今後の保存処理および復元作業を考え、同一個体資料の分別作業、文様復元のために象嵌立体視用のエックス線によるステレオ写真撮影、現況実測図の作成を行った。

福島県は古墳時代象嵌資料の多出する地域として知られるが、その中でも本資料は非常に優品であり、今後保存処理および分析復元を経た段階で展示等によりその成果を公表する予定である。

イ. 展示室における効果的な歴史理解に資する歴史資料の研究

(ア) 趣旨

(内容)

この調査研究は、県内外の観覧者が、展示室において効果的に福島県の歴史に関する理解を深めることができるように、各時代のさまざまな様相を象徴的に示すことができる実物資料について、歴史事象を多角的にとらえることができるような周辺資料も含めて、調査研究することを目的とする。その成果は、当館の常設展示の展示替

えにおける歴史関係展示資料の候補や複製資料を製作する候補を選定する際に活用する。

(対象)

- ①古代資料：本県に関わる出土文字資料
地名（郡郷名）や人名・寺社名・歌語が記載されている典籍
- ②中世資料：国家の変動と本県の武士の動向がわかる歴史資料
（蘆名氏関係資料・伊達氏関係資料・蒲生氏関係資料）
- ③近世資料：幕藩制下における支配形態と民衆の動向がわかる歴史資料
（県内諸大名関係資料・幕府代官関係資料）
- ④近・現代資料：国家の動向と本県の役割がわかる歴史資料
（戊辰戦争関係資料・自由民権関係資料）

(イ) 調査概要

- ①古代 福島県関係の地名、人名、社寺名が見られる古代史資料（典籍、古辞書など）の所在調査および写真複製作成候補の選定。とくに恵日寺関係資料の調査。
- ②中世 福島県ゆかりの武将関係資料および絵図類の所在調査、特に新規の県外所在資料の情報収集および所在確認と調査。
- ③近世 福島県ゆかりの大名関係資料や地方関係資料の新規所在確認と調査。古文書資料の製作道具など成立に関わる資料の所在調査。戊辰戦争に至る幕末資料の所在調査。
- ④近代 世界的、全国的に著名になった福島県出身者の動向を示す資料情報の収集と資料調査。明治維新期の県内の行政文書など政治史関係資料や県内の教育史資料の所在調査。西南戦争から第二次世界大戦にかかる県内の戦争関係資料の所在調査。
- ⑤現代 戦後復興期の資料所在調査。日本の高度経済成長期の資料所在調査。
- ⑥その他 資料所在情報調査にあたっては、各時代の担当者が主体性をもってあたるが、資料調査にあたっては、調査先の資料所蔵状況に応

じて、相互に協力して調査を推進する。

(ウ) 成果の公表

調査研究の成果は、テーマ展とポイント展の展示の中で公表した。

テーマ展 「松平定信編集『集古十種』刊本のいろいろ」

平成24年1月28日(土)～2月26日(日)

ポイント展 「葦名亀若丸朱印状」

平成23年4月16日(日)～6月3日(水)

ポイント展 「飯豊山道絵図」

平成23年5月28日(土)～6月24日(金)

ポイント展 「風船爆弾関係資料」

平成23年7月9日(土)～9月2日(金)

ポイント展 「ふくしまの教育資料」

平成23年10月22日(土)～11月25日(金)

ポイント展 「番付で再発見！若松城下のくらし」

平成24年1月28日(土)～3月2日(金)

ポイント展 「近代化遺産－旧南会津郡役所－」

平成24年1月28日(土)～3月2日(金)

ウ. 福島県における衣生活文化の研究

(ア) 趣旨

福島県内の衣類とその周辺で展開してきた習俗を記録、整理し明らかにしようとするものである。麻やカラムシの栽培もおこなわれており、現在もカラムシ栽培はユネスコの無形遺産の表に登録された越後上布を原材料として支えており、県内のみにとどまるものではない。また、シナもしくはマダなどとよばれる樹皮繊維の利用などもある。一方衣類を仕立てる習俗についても調査する余地はまだ残されている。

(イ) 調査概要

平成21年に寄贈されたワンピースはゼンマイの綿を使ったものであり、その製作の経緯を聞き書きし、平成22年度夏の企画展で展示することができた。県内でもかつてはゼンマイの綿を利用することがあったが、現在聞くことができるのは手毬の芯などに限られている。また、第二次世界大戦後に会津田島から柳津の虚空蔵尊に一泊二

日でお参りに行った女性がそのときに着ていた着物と羽織の寄贈もあった。母親が繭から糸をとって織りあげたもので、寄贈にともないその女性が裁縫の私塾に通った後に仕立ての仕事につく過程や巡回して注文をとる呉服屋などについての話も聞いた。このように、私的な事象を堆積させることを当面続けることになる。

エ. 福島県域の大名文化に関する研究

(ア) 趣旨

戦国時代末から江戸時代にかけて、福島県域には多くの領主、大名の支配地が存在した。本研究では、関連諸大名を取り巻く文化の様相を、大名自身の作品、彼らが養成した学者、画家、工人らの資料、学問に関わる資料を通して明らかにする。さらに、調査活動を通して発見される周辺諸資料にも配慮する。

(イ) 調査概要

22年度に引き続き調査を予定していた郡山市個人、いわき市個人宅での調査が東日本大震災の影響により中止・延期となった。喜多方市の個人コレクションを調査・整理し、歴史美術テーマ展示「大和川酒造コレクション展Ⅰ・Ⅱ」を開催した。また、以前に調査を完了していた南会津町個人のコレクションを紹介するテーマ展示「旧家の美術」を開催した。

オ. 恐竜時代のふくしまに関する研究

(ア) 趣旨

本県に分布する中生代のジュラ紀～白亜紀の地層は、本県の大地の基盤をなす重要な位置を占めている。特に最近、本県浜通りに分布する相馬およびいわき地域の中生代の地層から、恐竜をはじめとする脊椎動物、植物化石など、重要な化石の発見が相次ぎ、これらをもとに、地史や古環境を再考することが必要となってきた。本研究では、本県中生代の岩石・化石資料を収集し、調査を進め、東アジア全体の形成史を背景としながら、当時の生物相および古環境がどのようなものであったかを明らかにする。調査にあたっては、大学等の研究機関はもちろんのこと、地域の研究団体との共同研究・情報交換を積極的に進める。

(イ) 調査概要

(1) 標本調査(平成23年12月12日～13日)

①横田昭彦氏収集の相馬中村層群桁窪層産植物化石

②八巻安夫氏収集の相馬中村層群および

双葉層群の化石

③南相馬市博物館収蔵の桁窪層産の植物化石

④鹿島歴史民俗資料館収蔵の相馬中村層群産化石

(2) 堆積環境調査 (平成24年3月19日～22日)

ジュラ紀中期～白亜紀初期の相馬中村層群について、シーケンス層序学による層相ごとの詳細な分析をもとに、本層群の堆積環境の変遷を解明することを試みた。調査指導は、シーケンス層序学を専門に研究している千葉大学教授の伊藤慎氏に依頼した。この成果は、平成24年度夏の企画展「恐竜時代のふくしま」で反映する。本調査には、相馬中村層群研究会の八巻安夫氏、荒好氏、平宗雄氏および南相馬市博物館の二上文彦氏が同行し、彼らの協力を得た。

(2) その他の調査研究事業

ア. 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成23年度は、「大澤基宏家文書」「山本重義家文書」「福嶋義子家文書」「中央病院寄託資料」「佐藤正夫家寄託資料」「築田則光家寄託資料」を中心に、館蔵及び寄託資料の整理や登録データの見直し作業を実施した。マイクロ撮影は、昨年度に引き続き「土津神社寄託資料」の撮影を行い、新たに「融通寺寄託資料」「佐々木峯子家寄託資料」「上総国飯野藩保科家文書」「森俊一家文書」の撮影を行った。

(3) 職員の研究活動

ア. 研究成果の公表 (職員の氏名あいうえお順)

(ア) 印刷物 (単行本・自治体史・図録・報告書・紀要・学術雑誌)

阿部綾子, 2011. 4, 歴史文化講演録保科正之とその時代. 歴史春秋, 第73号, p. 4-22,

会津史学会.

阿部綾子・佐藤洋一・高橋 充ほか, 2011. 10, 平成23年度福島県立博物館企画展図録「生誕400年記念 保科正之の時代」. 158p., 福島県立博物館.

阿部綾子, 2011. 12, 第四章第二節 南山御蔵入と村役人について. 伊南村史, 第一巻(通史編), p. 536-554, 伊南村史編さん室, 南会津町.

内山大介, 2012. 3, 須賀川市朝日稲荷神社の奉納絵馬 —文化財レスキュー活動の一事例—. 福島県立博物館紀要, 第26号, p. 34-48, 福島県立博物館.

内山大介, 2012. 3, 野田の籠職人—野菜籠の復元製作と技術の調査から—. 足立区立郷土博物館紀要, 第33号, p. 29-41, 足立区立郷土博物館

福田アジオ・内山大介ほか編, 2012. 1, 図解案内日本の民俗. 352p., 吉川弘文館.
荻原ちとせ・内山大介ほか, 2012. 3, 千住生活史調査報告書. 足立区立郷土博物館.
川延安直, 2011. 4, 研究資料 松平定信の肖像画について. 國華, 第1386号, p. 32-38, 國華社.

川延安直, 2012. 1, 原発震災後に思う白虎隊と会津. 季刊東北学, 第30号, p. 31-39, 柏書房.

川延安直, 2012. 2, 福島県立博物館の「漆の芸術祭」は、なぜ…。今を生きるためのミュージアムだから、博物館は、現代アートと出会う 対談柳沢秀行 (大原美術館学芸課長). ミュゼ, 第99号, p. 10-16, (株) アム・プロモーション.

佐々木長生, 2012. 3, 『会津農書』にみる民俗知識. 福島県立博物館紀要, 第26号, p. 50-62, 福島県立博物館.

高橋 充, 2012. 3, 地域学の第一歩. 地域を知る地域に学ぶ—「福島学」総論一, p. 80-84, アカデミア・コンソーシアムふくしま.

時枝 務・高橋 充, 2012. 3, 信夫山頂遺跡出土品の研究(2). 福島県立博物館紀要, 第26号, p. 1-20, 福島県立博物館.

竹谷陽二郎, 2011. 5, 化石は語る. 歴春ふくしま文庫⑩, 194p., 歴史春秋出版.

芳賀拓真・平 宗雄・竹谷陽二郎・二上文彦・加瀬友喜, 2012. 3, 相馬中村層群の上部ジュラ系から産出した世界最古級のニオガイ科穿孔性二枚貝 *Opertochasma somaensis* (オオノガイ目) の産出. 福島県立博物館

紀要, 第26号, p. 21-33, 福島県立博物館.
田中 敏, 2012. 3, 墓制から探る古墳時代
への胎動. 石川町史 第1巻 通史編1,
石川町史編纂室.

(イ) 学会発表

内山大介, 2011. 8, 関東の伝統都市と民俗
— 鳶と商家の生活史 —. 福島県民俗学会
平成23年度研究発表会.

竹谷陽二郎・佐藤 公・小椋敏一, 2011. 5,
磐梯山地域 (日本ジオパーク委員会公開
審査). 日本地球惑星科学連合2010年度
連合大会 (千葉市幕張メッセ).

竹谷陽二郎・岩田雅光, 2011. 7, 福島県に
おける自然標本の被災状況. 日本古生物
学会2011年年会・総会 (金沢) 緊急ポス
ターセッション: 東北大地震による博物
館被災状況の報告.

佐藤 正・竹谷陽二郎・八巻安夫・栃久保
廣恭・荒 好・平 宗雄・岸崎晃一郎・
二上文彦・田村 翼・松岡 篤, 2011. 9,
南相馬市の相馬中村層群小山田層の新産
地から得られた白亜紀初期のアンモナイト
およびオウイムガイ群集. 日本地質学
会第118年学術大会 (水戸).

竹谷陽二郎・佐藤 公, 2011. 9, 1888年の
磐梯山噴火による災害と恩恵. 日本地質
学会第118年学術大会 (水戸).

竹谷陽二郎・佐藤 正, 2011. 10, 南部北
上帯最下部白亜系の放散虫化石群集.
2011年放散虫研究集会松山大会.

イ. 他団体による委嘱等

阿部綾子: 青森県史編纂委員 青森県

阿部綾子: 伊南村史編纂委員 南会津町教育
委員会

阿部綾子: 塩川町史編纂委員 喜多方市教育
委員会

阿部綾子: 相馬市史編纂調査執筆委員 相馬
市教育委員会

内山大介: 足立区文化遺産調査 足立区立郷
土博物館

榎 陽介: 相馬市史編纂委員 相馬市教育委
員会

川延安直: 喜多方市美術品収集委員 喜多方
市教育委員会

川延安直: いわき市文化財保護審議委員会委
員 いわき市教育委員会

川延安直: 会津俊英美術展委員 会津俊英美
術展運営委員会

川延安直: 芸術による地域活性化検討委員
福島大学

川延安直: 須賀川市文化財保護審議委員会委
員 須賀川市教育委員会

川延安直: 白河市文化財保護審議委員会委員
白河市教育委員会

小林めぐみ: 伊南村史編纂委員 南会津町教
育委員会

佐々木長生: 研究プロジェクト「焼畑文化研
究」 総合地球環境学研究所

佐々木長生: 相馬市史執筆委員 相馬市教育
委員会

佐々木長生: 小高町史編纂委員 南相馬市教
育委員会

佐々木長生: 民具名称の研究 神奈川大学国
際常民文化機構

佐治 靖: 環境と開発に関する調査 平安座
自治会

佐治 靖: 郡山市文化財保護審議委員会委員
郡山市教育委員会

佐治 靖: 檜枝岐民俗誌編纂事業委員 檜枝
岐村教育委員会

佐治 靖: マイクロサッカーとしての在来
知に関する人類学的研究調査委員 日本学
術振興会

佐治 靖: おしら様信仰の研究 青森県教育
文化助成

佐藤洋一: 前沢曲屋集落伝統的建造物群保存
地区対策調査・保存計画策定委員 南会津
町

佐藤洋一: 福島県文学賞審査委員会委員 福
島県文化スポーツ局

高橋 充: 塩川町史編纂委員 喜多方市教育
委員会

高橋 充: 二本松城跡整備検証委員会委員
二本松市教育委員会

高橋 充: 向羽黒山城跡整備委員会委員 会
津美里町教育委員会

高橋 充: 原町市史編纂委員 南相馬市教育
委員会

高橋 充: 相馬市史編纂委員 相馬市教育委
員会

高橋 充: 会津藩主松平家墓所及び松平氏庭
園指導会議委員 会津若松市教育委員会

高橋 充: 会津藩主松平家墓所保存修理検討
委員会委員 猪苗代町教育委員会

高橋 充: 阿津賀志山防塁発掘調査及び整備
指導委員会委員 国見町教育委員会

高橋 充: 宮脇遺跡調査指導委員会委員 伊
達市教育委員会

高橋 充: 会津坂下町史編纂委員 会津坂下
教育委員会

高橋 充：福島県指定史跡保存対策検討委員会委員 南会津町教育委員会
 高橋 充：城館等保存・整備・活用検討委員会委員 北塩原村教育委員会
 竹谷陽二郎：相馬市史執筆委員 相馬市教育委員会
 竹谷陽二郎：ジオパーク協議会運営部会長 磐梯山ジオパーク協議会
 竹谷陽二郎：ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム連携コーディネーター ふくしまサイエンスぷらっとフォーラム運営協議会
 藤原妃敏：会津若松市文化財保護審議委員会 会津若松市教育委員会
 藤原妃敏：郷土研究奨励賞選考委員 会津若松市教育委員会
 藤原妃敏：塩川町史編纂委員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：原町市史編纂専門研究員 南相馬市教育委員会
 藤原妃敏：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育委員会
 藤原妃敏：新鶴民俗資料館運営委員 会津美里町教育委員会

藤原妃敏：喜多方市立美術館運営協議会委員 喜多方市教育委員会
 藤原妃敏：文化遺産オンライン検討委員会委員 文化庁伝統文化課
 藤原妃敏：笹山原No.16遺跡調査指導委員 郡山女子短期大学
 藤原妃敏：福島県考古学会副会長 福島県考古学会
 松田隆嗣：会津藩松平家墓所保存整備指導会議委員 会津若松市教育委員会
 松田隆嗣：会津藩主松平家墓所保存修理検討委員会委員 猪苗代町教育委員会
 松田隆嗣：北海道・東北保存科学研究会代表 北海道・東北保存科学研究会
 松田隆嗣：文化財保存修復学会会誌編纂委員 文化財保存修復学会
 森幸彦：原町市史編纂専門研究員 南相馬市教育委員会
 森 幸彦：鹿島町史編纂委員 南相馬市教育委員会
 森 幸彦：三島町歴史文化基本構想策定委員会文化財調査部会委員 三島町

5. 教育普及事業

(1) 講座・講演会

当館では館長と学芸員による各種講座を開催しているが、そのほかにも、外部に講師を依頼し、さまざまな講座・講演会を実施している。

平成23年度講座・講演会等行事一覧

(1) 木曜の広場

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
『遠野物語』	を	読む13	佐々木	長生	専門員	4月2日	(土)	17
『遠野物語』	を	読む14	赤坂憲	雄	館長	5月19日	(木)	83
『遠野物語』	を	読む15	赤坂憲	雄	館長	6月16日	(木)	80
『遠野物語』	を	読む16	赤坂憲	雄	館長	7月21日	(木)	64
『遠野物語』	を	読む17	赤坂憲	雄	館長	8月18日	(木)	67
『遠野物語』	を	読む18	赤坂憲	雄	館長	9月15日	(木)	70
『遠野物語』	を	読む19	赤坂憲	雄	館長	10月20日	(木)	51
『遠野物語』	を	読む20	赤坂憲	雄	館長	11月17日	(木)	53
『遠野物語』	を	読む21	赤坂憲	雄	館長	12月15日	(木)	51
『遠野物語』	を	読む22	赤坂憲	雄	館長	1月19日	(木)	57
『遠野物語』	を	読む23	赤坂憲	雄	館長	2月16日	(木)	68
『遠野物語』	を	読む24	赤坂憲	雄	館長	3月15日	(木)	72

(2) 考古学講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
土器作り	1		大竹正	浩ほか	学芸員	7月23日	(土)	26
土器作り	2		大竹正	浩ほか	学芸員	7月24日	(日)	26

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
土器の野焼き			大竹正浩	ほか	学芸員	9月25日	(日)	26
はじまりの考古学1	「縄文時代研究のはじまり」		藤原妃敏		学芸員	9月10日	(土)	22
はじまりの考古学2	「注口土器のはじまり」		森 幸彦		学芸員	10月15日	(土)	20
はじまりの考古学3	「米作りと石の道具」		田中 敏		学芸員	11月26日	(土)	14
はじまりの考古学4	「塩づくりのはじまり」		高橋 満		学芸員	12月10日	(土)	22
はじまりの考古学5	「埋められたお経—会津の経塚」		大竹正浩		学芸員	1月14日	(土)	20
勾玉・ガラス玉を作ろう			高橋 満	ほか	学芸員	3月4日	(日)	23

(3) 民俗講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
映画会	「遠野物語」		佐々木長生		専門員	5月7日	(土)	35
企画展図録で学ぶ民俗学1	「稲とくらし」		佐々木長生		専門員	6月11日	(土)	17
企画展図録で学ぶ民俗学2	「豊かなる世界」		榎 陽介		学芸員	7月9日	(土)	10
企画展図録で学ぶ民俗学3	「英雄たちの系譜」		二瓶浩伸		学芸員	9月17日	(土)	9
企画展図録で学ぶ民俗学4	「村芝居の世界」		内山大介		学芸員	10月8日	(土)	11
企画展図録で学ぶ民俗学5	「染める」		佐々木長生		専門員	11月12日	(土)	10

(4) 歴史講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
保科正之シリーズ1	「交際からたどる人物像」		阿部綾子		学芸員	5月14日	(土)	100
保科正之シリーズ2	「会津五街道の整備」		高橋 充		学芸員	5月28日	(土)	122
保科正之シリーズ3	「『日本書紀』の研究」		佐藤洋一		学芸員	6月18日	(土)	92
保科正之シリーズ4	「会津慶長地震を乗り越えて」		高橋 充		学芸員	6月25日	(土)	125
歴史シリーズ1	「松平定信と会津の古文化財」		佐藤洋一		学芸員	2月11日	(土)	120
歴史シリーズ2	「山本八重の人物像をさぐる」		古山智行		学芸員	2月25日	(土)	240
歴史シリーズ3	「保科正之と家訓」		阿部綾子		学芸員	3月10日	(土)	209
歴史シリーズ4	「蘆名盛氏と子どもたち」		高橋 充		学芸員	3月24日	(土)	178

(5) 美術講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
実技講座	「描こう・作ろう はりはりアート」		金澤文利		学芸員	2月5日	(日)	10

(6) 自然史講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
鶴ヶ城の野鳥			古川裕司		鳥類研究家	11月13日	(日)	7

(7) 体験講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
時代衣装で解説会			佐藤彩美	ほか	展示解説員	6月18日	(土)	8

(8) 指導者向け研修

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
博物館利用指導者研修会			二瓶浩伸	ほか	学芸員	8月19日	(金)	8

(9) 実技講座

テ	ー	マ	講	師	講師所属	期	日	参加人数
小旗をつくろう			大野青峯・大野久子		伝統技術保持者	5月5日	(木・祝)	3
マタタビ蔓の蕎麦ざる作り1			菅家藤一	ほか	伝統技術保持者	7月2日	(土)	12
マタタビ蔓の蕎麦ざる作り2			菅家藤一	ほか	伝統技術保持者	7月3日	(日)	12

(10) 実 演

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
昔語り 1	横山幸子	語り部	5月1日(日)	25
昔語り 2	山田登志美	語り部	9月4日(日)	19
からむし織り	酒井モト子	伝統技術保持者	10月16日(日)	15
檜枝岐の曲物作り	星 長一	伝統技術保持者	11月6日(日)	17

(11) 企画展関連行事(記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等)

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
保科正之展リレー解説会	中岡 進 阿部綾子	若松城天守閣郷土博物館学芸員 学芸員	10月9日(日)	64
企画展記念講演会 1 「保科正之とその同志たち～江戸儒学の黎明期」	小島 毅	東京大学人文社会系研究科准教授	10月16日(日)	104
保科正之展リレー解説会	中岡 進 阿部綾子	若松城天守閣郷土博物館学芸員 学芸員	10月22日(土)	54
企画展記念シンポジウム「保科正之とその時代－ゆかりの大家からさぐる」	菊池紳一 角屋由美子 野田浩子	前田育徳会理事 米沢市上杉博物館学芸員 彦根城博物館学芸員	11月6日(日)	113
企画展関連シンポジウム「会津慶長地震」	鈴木尉元 堀 健彦	元通産省地質調査所地質情報センター長 新潟大学人文学部准教授	11月19日(土)	128
企画展記念講演会 2「保科正之はなぜ神に祀られたか」	真壁俊信	歴史学博士	11月27日(日)	121
企画展「小さなもの集まれ！」展示解説会	榎 陽介	学芸員	2月18日(土)	28
企画展記念講演会「茅葺屋根の古民家に魅せられて」	菅野清八		3月18日(日)	52
企画展「小さなもの集まれ！」展示解説会	榎 陽介	学芸員	3月20日(火)	15

(12) 特集展・テーマ展関連行事

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
テーマ展「大和川酒造コレクション展Ⅰ」展示解説会	佐藤弥右衛門	大和川酒造社長	4月23日(土)	11
テーマ展「大和川酒造コレクション展Ⅰ」展示解説会	佐藤弥右衛門 川延安直	大和川酒造社長 学芸員	4月29日(金)	28
特集展「永山亘コレクション展」展示解説会	野木和夫 熊沢幹雄	常磐炭田史研究会 いわきヘリテージ・ツーリズム協議会	4月30日(土)	25
テーマ展「大和川酒造コレクション展Ⅰ」展示解説会	川延安直・小林めぐみ	学芸員	5月8日(日)	15
テーマ展「大和川酒造コレクション展Ⅱ」展示解説会	佐藤弥右衛門 川延安直	大和川酒造社長 学芸員	6月11日(土)	20
テーマ展「ふるさとの考古資料2【会津美里町】遺跡探訪」講演会&報告会	梶原圭介・阿部健太郎 森 幸彦	会津美里町教育委員会 学芸員	6月19日(日)	54
特集展「災厄退散(わざわいくるな) 福運招来(ふくよこい)」展示解説会	榎 陽介	学芸員	7月9日(土)	7
テーマ展「けんぱくの宝2011」ギャラリートーク	川延安直・小林めぐみ	学芸員	9月11日(日)	15
特集展「喜多方100年カエル館コレクション展」ギャラリートーク	高山ビッキ	喜多方100年カエル館学芸員	9月18日(日)	50

(13) ミュージアムイベント

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
ふくしま応援自由演奏会	杉山 淳ほか	「上野の森ブラ ス」チューバ奏者	5月3日(火・ 祝)	590
玄如節と会津の民謡	玄如節顕彰会の皆さん	玄如節顕彰会	5月21日(土)	85
Soft Voice アカペラコンサート～ハーモニーに 笑顔と希望をのせて	アカペラユニット Soft Voice		6月26日(日)	105
けんぱく大茶会	裏千家淡交会会津支部 学校茶道連絡協議会の みなさん		7月16日(土)	250
野外映画会「長編 ジャングル大帝 (1966年公 開)」			8月20日(土)	50
「ナイトミュージアム for Kids」	各分野学芸員		9月17日(土)	57
クリスマスコンサート 「ライブでたどるジャ ズの歴史」	ジャズバンド ハート ランド		12月17日(土)	166
館長サタデープロジェクト1 「東北復興シンポジウム『フクシマ』と共に～海 やまのあいだに生きる～」	山折哲雄 山田恭暉 川勝平太 安田喜憲 河本英典 赤坂憲雄	宗教学者 福島原発行動隊 理事長 静岡県知事 国際日本文化研 究センター教授 NPO法人アスクネ イチャー・ジャパ ン副理事長 館長	3月3日(土)	
館長サタデープロジェクト2 「ジオパークが目指すもの～東日本大震災から の復興～」	大石雅之 竹谷陽二郎 赤坂憲雄	岩手県立博物館 首席専門学芸員 兼学芸第一課長 学芸員 館長	3月17日(土)	

(14) 共催事業

タ イ ト ル	講 師	講師所属	期 日	参加人数
全国高等学校総合文化祭			8月3日(水) ～8月7日(日)	
移動展実技講座「化石のクリーニング体験講座」	竹谷陽二郎 相田 優 船尾武彦	学芸員	10月9日(日)	30
移動展体験講座	榎 陽介	学芸員	10月13日(木)	90
移動展展示解説会	相田 優	学芸員	10月13日(木)	90
サイエンス屋台村 in 会津若松	ふくしまサイエンスぷ らっとフォーム運営協 議会のみなさん		12月23日(金・ 祝)	360

(15) 後援事業

テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
会津史学会歴史文化講演会 「相津国」誕生の由 来	鈴木 啓	福島県考古学会 顧問	10月23日(日)	180
会津史談会公開文化史講座「二つの保科家」	阿部綾子	学芸員	11月10日(木)	161
福島県考古学会大会			12月3日(土) 4日(日)	125
はるなか歴史講演会「幕末のヒロインたち」	中村彰彦	歴史小説家	2月12日(日)	260
はるなか「棉繰り・糸紡ぎ講習会」	榎 陽介	学芸員	2月26日(日)	15
福島子どもみらい映画祭 移動映画上映会			3月4日(日)	42
3.11ふくしま復興の誓い2012 in あいづ			3月11日(日)	100

(16) 会津・漆の芸術祭関連事業

主 催 事 業				
テ ー マ	講 師	講師所属	期 日	参加人数
シンポジウム 「ふくしまで語るFUKUSHIMA」	やなぎみわ 港 千尋 三瀬夏之介	美術家・神戸芸術 工科大学准教授 美術評論家・写真 家・多摩美術大学 教授 美術家・東北芸術 工科大学准教授	7月2日(土)	76
ワークショップ「縄縷い井戸端会議」「縄縷わ ない井戸端会議」	山本あまよかしむ	アーティスト	8月27日(土) 11月3日(木・ 祝)	39 13
ワークショップ「縁がわプロジェクト」	広島市立大学『縁がわ』 プロジェクト	アーティスト	8月27日(土) 9月4日(日)	95 83
ワークショップ「想い浮かべる空」	林剛人丸	アーティスト	9月10日(土) 11月19日(土)	55 56
オープニングセレモニー			10月2日(日)	89
パフォーマンス「かぶせられた石の声に」	宇佐美陽一 加藤治男	パフォーマー 演奏者	10月2日(日)	23
公開修復「転生-変わりながら続いていくも のたち-3月11日を経て-」	青野文昭 山内泰次	アーティスト	10月9日(日)	28
CINE上映+トークイベント「REQUIEM」	吉増剛造 赤坂憲雄	現代詩人 ディレクター/福 島県立博物館長	10月15日(土)	64
トークイベント「残せるかふくしまの未来~ 絵本の力~」	飯野和好 ささめやゆき あべ弘士 佐藤彌右衛門	絵本作家 絵本作家 絵本作家・元旭山 動物園飼育係 大和川酒造9代目 当主・までい大使	10月23日(日)	38
ワークショップ「ハートマークビューイ ング福島」	ハートマークビューイ ング福島		10月29日(土) 10月30日(日) 11月5日(土) 11月6日(日)	2 36 8 23
ワークショップ「うるしのこぼしさんぬりぬ り会」	はと	アーティスト	10月29日(土) 10月30日(日) 11月5日(土) 11月6日(日)	24 47 38 27
ワークショップ「ハンドツリーアートプロ ジェクト」	酒井 正	アーティスト	10月29日(土) 10月30日(日)	28 35
「しでかす!つながるTシャツプロジェクト」	しでかすおともだち	アーティスト	11月3日(木・ 祝)	68
ワークショップ「未来を願うだんごさしころ ころだんごワークショップ」	上越教育大学伊藤研究 室		11月3日(木・ 祝)	10
コンサート「祈りの歌声 ソフトボイスアカ ペラコンサート」	アカペラユニット Soft Voice	アカペラユニット	11月6日(日)	58
シンポジウム「アートにできること、できた こと」	吉田重信 渡邊晃一 北澤 潤	アーティスト アーティスト・福 島大学准教授 アーティスト	11月19日(土)	27
シンポジウム「会津・漆・アートⅡ~鎮魂と 再生へ~」	北川フラム 樋田豊次郎 山下裕二	越後妻有大地の芸 術祭総合ディレク ター 秋田公立美術工芸 短期大学学長 明治学院大学教授	11月23日(水・ 祝)	89
ワークショップ「使い捨てスプーンが咲く」	河合晋平	アーティスト	12月10日(土) 12月11日(日)	30 29
ワークショップ「ハートマークビューイ ング」	日比野克彦	アーティスト	2月16日(木)	18
ワークショップ「2011年、東北の記憶を千年 まで残すために」	千葉奈穂子	アーティスト	3月4日(日)	14

後 援 事 業				
テ ー マ	講師・主催	講師所属	期 日	参加人数
「鎮魂」	坂田 明	サククス奏者	6月11日(土)	50
「しでかす!つながるTシャツプロジェクト」	しでかすおともだち	アーティスト	6月19日(日)	89
ワークショップ「ハートマークビューイング」	日比野克彦 ハートマークビューイ ング実行委員会	アーティスト	6月25日(土) 6月26日(日)	72 48
ワークショップ「起き上がる!東北こぼしさん うるしのこぼしさんぬりぬり会」	はと	アーティスト	6月25日(土) 6月26日(日)	137
ワークショップ「起き上がる!東北こぼしさん うるしのこぼしさんぬりぬり会」 in 東京	はと	アーティスト	7月9日(土) 7月10日(日)	63
ワークショップ「起き上がる!東北こぼしさん うるしのこぼしさんぬりぬり会」 in 広島	はと	アーティスト	8月5日(土) 8月6日(日)	56
ワークショップ「起き上がる!東北こぼしさん うるしのこぼしさんぬりぬり会」 in 京都	はと	アーティスト	8月10日(水)	12
詩画家ひろさんの原画展	ひろ	詩画家	7月30日(土) ~8月21日(日)	1,500
二日展 ~9 days version ~	丸山弘樹 高橋克行 金澤文利	アーティスト アーティスト アーティスト	8月13日(土) ~8月21日(日)	249
かえっこバザール@あいづ	かえっこバザール@あ いづ実行委員会		8月28日(日)	800
ワークショップ「漆絵で繋ごうお箸リレー」	めしもり山工房		9月19日(月・ 祝) 10月22日(土)	13 9
漆芸工房 角田展	漆芸工房 角田		10月1日(土) ~11月23日(水・ 祝)の金・土・日・ 祝	50
漆芸工房 角田展@裏磐梯サイトステーション	漆芸工房 角田		10月1日(土) ~11月23日(水・ 祝)	不明
城下町ぶらり探訪・うるし逸品ギャラリー展	会津漆器協同組合		10月1日(土) ~11月23日(水・ 祝)	460
ワークショップ「漆折り紙 ワークショップ」	会津漆器協同組合青年 部		10月1日(土) 10月2日(日) 10月16日(日) 10月29日(土) 10月30日(日) 11月13日(日) 11月23日(水・ 祝)	
ワークショップ「レトロ建築撮影術-喜多方の古い建物をめぐる-」	島村美紀 喜多方交響曲実行委員会	写真家	10月9日(日)	12
ワークショップ「喜多方名水撮影紀行-蔵と「水」をたどる旅-」	篠原誠司 喜多方交響曲実行委員 会	写真家	10月10日(月・ 祝)	9
ワークショップ「喜多方ぶらぶらショット-蔵の街の撮影散歩-」	白石ちえこ 喜多方交響曲実行委員 会	写真家	10月22日(土)	13
LIFE!まつり	筑波大学LIFE!		11月19日(土) 11月20日(日)	400
東北画は可能か?喜多方・クロージング・ライブ	狐火 モリト VJkasa 中塩健吾 佐藤那美 高橋克幸	アーティスト アーティスト アーティスト アーティスト アーティスト	11月23日(水・ 祝)	30

協 賛 事 業				
テ ー マ	主 催	会 場	期 日	参加人数
きたかた喜楽里博	きたかた喜楽里博運営委員会	喜多方市全域	9月17日(土)～11月19日(土)	131,000
『人と木』新しい仲間展	スペース・アルテマイスター	スペース・アルテマイスター	9月23日(金・祝)～10月10日(月・祝)	630
白木屋漆器店所蔵名品展	白木屋漆器店	白木屋漆器店資料展示室	10月1日(土)～11月23日(水・木)	
鈴善漆器店所蔵名品展	鈴善漆器店	鈴善漆器店店舗2階客間	10月1日(土)～11月23日(水・木)	
NPO法人はるなか漆部会活動報告展	NPO法人はるなか漆部会	スペース・アルテマイスター	10月1日(土)～11月23日(水・木)	800
蔵のまちアートぶらりー 2011	蔵のまちアートぶらりー実行委員会	喜多方市内、北塩原村、西会津町の各所	10月7日(金)～10月16日(日)	19,329
「漆と木のぬくもり展」(拭き漆体験教室)	佐藤達夫拭き漆体験教室	マルサ漆器製造所	10月7日(金)～10月16日(日)	120
会津伝統工芸・民芸お祭り広場	会津伝統工芸後継者交流広場協議会	鈴善漆器店・漆の蔵1階	10月19日(水)～10月26日(水)	
伊藤将和現代アート展	喜多方市美術館	喜多方市美術館	10月22日(土)～11月23日(水・木)	628
イタダキモノ～縄文の記憶を呼び覚ます漆で描く空間壁画～	三島町交流センター「山びこ」	三島町交流センター「山びこ」	10月25日(火)～11月27日(日)	119
二瓶和男 漆芸展	ギャラリー杏屋	ギャラリー杏屋	10月22日(土)～10月30日(日)	200
「伝統工芸ふれあい広場」「くらしの工芸展」「日本伝統工芸士会作品展」	一般財団法人伝統的工芸品産業振興協会 日本伝統工芸士会	会津アピオスペース	10月28日(金)～10月30日(日)	19,000
会津ブランドものづくりフェア2011	会津ブランドものづくりフェア実行委員会	あいづドーム及びドーム周辺	10月29日(土)～10月30日(日)	27,150
第24回会津塗伝統工芸士会 作品展	会津塗伝統工芸士会	会津町方伝承館	10月31日(月)～11月6日(日)	250
井波純 漆芸展－漆の可能性－	アートギャラリー三遊	アートギャラリー三遊	11月2日(水)～11月14日(月)	230
漆に関わる人材育成シンポジウム	会津漆器協同組合	会津若松技術支援センター交流スペース	11月8日(火)	61
会津漆器技術後継者訓練校 修了生との交流展	会津漆器協同組合	会津若松技術支援センター多目的ホール	11月8日(火)～11月11日(金)	80
小林徹男 漆展	ギャラリー喫茶 和	ギャラリー喫茶 和	11月13日(日)～11月22日(火)	
秋の会津工芸新生会展	会津工芸新生会	会津町方伝承館	11月23日(水・祝)～11月27日(日)	198



木曜の広場「遠野物語を読む」



民俗講座 企画展図録で学ぶ民俗学4
「村芝居の世界」



考古学講座「土器作り」



歴史講座 歴史シリーズ1
「松平定信と会津の古文化財」



考古学講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」



歴史講座 歴史シリーズ2
「山本八重の人物像をさぐる」



民俗講座 企画展図録で学ぶ民俗学3
「英雄たちの系譜」



テーマ展関連「けんぱくの宝2011」ギャラリートーク



美術講座 実技講座
「描こう・作ろう はりはりアート」



実技講座「マタタビ蔓のざる作り」



自然史講座 「鶴ヶ城の野鳥」 1



実演「檜枝岐の曲物作り」



自然史講座 「鶴ヶ城の野鳥」 2



実演「昔語り 2」



実技講座「小旗をつくろう」



ワークショップ「ハートマークビューイング」



サイエンス屋台村 in 会津若松

(2) 学校・文化施設との連携

各種学校および文化施設との連携を図りながら、次の事業を展開した。

ア. 展示室での自主学习

常設展示室における児童・生徒の学習活動が有意義なものとなるように、発達段階や学習の目的などに応じた2種類のワークシートを準備している。

(ア) 博物館見学のしおり (小・中学生用)

常設展示室の展示資料を見る際の視点を与える内容となっており、書き込みながら学べるように構成されている。児童・生徒は自分のペースで見学し、自由な考察や整理ができる。小・中学生の個人および団体系来館者に対して入館時に配布している。



博物館見学のしおり

(イ) ワークシート

小学校高学年から中学生向けに作成されており、常設展示室を構成する6つの大テーマに沿うかたちで主要な展示品を題材として取り上げている。ホームページからダウンロードすることにより、学習の目的に合わせて選んで利用できる。



ワークシート

イ. 団体体験学習プログラム

児童・生徒が博物館資料を用いながら体験をすることは、多様なものの見方や考え方を育む上で有効であり、当館では入館団体の多様なニーズに対応すべく、「原始・古代のワザに挑戦 (考古分野)」「化石にふれてみよう (自然分野)」「糸紡ぎ (民俗分野)」「特別授業! 昔の道具 (民俗分野)」「度量衡の統一と農民の暮らし (歴史分野)」の5つの団体体験学習プログラムを、事前申し込み制で用意している。平成23年度は、東日本大震災の影響で当初利用団体数が減少していたが、9月以降は回復傾向を示し、前年度 (33回) とほぼ同数となった。中でも「特別授業! 昔の道具」は、小学3年生の授業と連動した内容となっており、前年度から実施回数が大きく増加した。

○体験学習プログラム実施状況

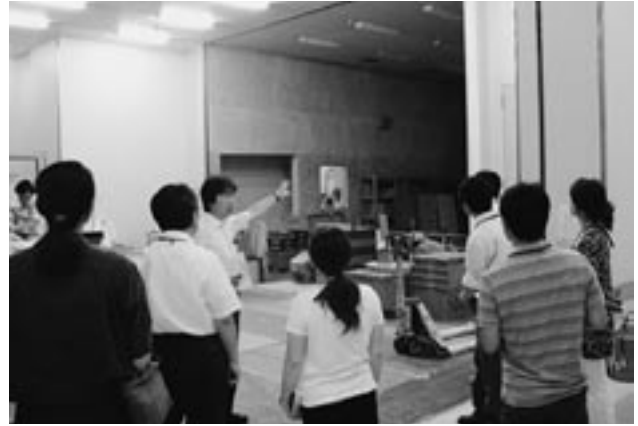
4月 考古分野1回

5月	考古分野 4回	
6月	考古分野 1回	学習支援班 1回
7月	考古分野 3回	
9月	考古分野 5回	民俗分野 3回
	自然分野 1回	
10月	考古分野 2回	歴史分野 1回
11月	考古分野 2回	歴史分野 1回
12月	考古分野 1回	
1月	民俗分野 1回	
2月	民俗分野 4回	合計 32回

館利用指導者研修会を実施し、当館の団体体験プログラムを実体験することを通して、当館の学習支援活動への理解を深め、学校並びに公民館等の諸活動への活用の推進を図った。
平成23年 8月19日（金） 参加者 8名
（小学校教員 1名・中学校教員 1名・高校教員 1名・博物館 1名・公民館他 4名）



原始・古代のワザに挑戦 勾玉づくり



バックヤードの見学

エ. 学習用具・教材等の貸出

学校での授業づくりや生涯教育関連施設における活動等を支援するため、考古・歴史・民俗・自然の各分野で体験的な学習用具・教材等の貸出を行っている。平成23年度の貸出実績は以下の通りである。

○学習用具・教材等の貸出実績

- ・舞いぎり式発火具セット10点 会津若松市南公民館
- ・化石・岩石採集用ハンマーほか42点 会津若松市立第二中学校

オ. ゲストティーチャー

当館学芸員がもつ専門知識や経験を館外で有効に活用してもらうため、博物館の予算で学校や公民館等の要請に応じて現地に赴き、体験学習や講話を中心とした授業を担当した。

ウ. 指導者向け研修

学校教育・生涯教育の関係者を対象に博物



特別授業！昔の道具

ゲストティーチャー実施一覧

月 日	講 師	分野	内 容	実 施 先	科 目
9月19日	大竹正浩・高橋 満	考古	火おこし体験	会津美里町立本郷中学校	行事
10月21日	相田 優	自然	会津の自然	学校法人慈光学園	行事
10月27日	相田 優	自然	会津の自然	学校法人慈光学園	行事
12月 7日	大竹正浩	考古	大戸の焼きもの	会津若松市立大戸中学校	総合的な学習の時間
2月17日	森 幸彦	考古	一箕の大むかし	会津若松市立一箕小学校	社会
2月22日	小林めぐみ	美術	職業人に学ぶ	会津若松市立第五中学校	総合的な学習の時間
3月17日	古山智行	歴史	会津の偉人 山本（新島）八重について学ぼう	会津若松市立第四中学校	総合的な学習の時間

カ. 職場体験

児童・生徒の進路意識の向上や職業観・勤労観の育成に寄与すべく、職場体験を受け入れている。平成23年度は4校からの要請があり、当館における業務を幅広く体験させた。

○職場体験受け入れ実績

- ・福島県立若松商業高等学校（2年生：5名） 2日間
- ・喜多方市立塩川中学校（2年生：1名） 2日間
- ・会津若松市立第六中学校（3年生：5名） 2日間
- ・昭和村立昭和中学校（2年生：2名） 2日間



職場体験「自然分野・化石の整理作業」

キ. 博物館実習

学芸員資格取得のための博物館実習を実施し、県内所在の大学に在籍する学生および県内出身の学生を受け入れた。

人数 10名

実習期間 8月23日（火）～8月28日（日）

実習生所属大学一覧

No	大 学 名	人 数
1	東北生活文化大学	1
2	宮城学院女子大学	1
3	東北芸術工科大学	1
4	福島大学	1
5	新潟大学	2
6	群馬県立女子大学	1
7	専修大学	1
8	中央大学	1
9	東洋大学	1
	合 計	10

博物館実習プログラム

月 日	時 間	内 容	担 当	場 所
8月 23日 (火)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（田中）	第2会議室 事務室 第2会議室 第2会議室 館内 総合展示室 第2会議室 第2会議室 第2会議室
	9:00～9:10	実習生紹介	学習支援班（田中）	
	9:10～9:40	オリエンテーション	学習支援班（田中）	
	9:50～10:50	福島県立博物館の概要	藤原学芸課長	
	11:00～12:00	博物館の設備（館内施設見学） －昼食－	学習支援班（田中）	
	13:00～14:00	常設展・フロントヤード自由観覧	学習支援班（田中）	
	14:00～14:50	博物館の展示	展示班（榎）	
15:00～16:00	自己紹介 観覧の感想・ 質疑応答	学習支援班（田中・古山）		
16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（田中・古山）		
24日 (水)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（田中）	第2会議室 第2会議室 第2会議室 第2会議室 実習室
	9:10～10:00	博物館の企画・運営	企画運営班（竹谷）	
	10:10～11:00	博物館の広報普及活動	広報班（佐藤）	
	11:10～12:00	考古資料について －昼食－	考古分野（田中）	
	13:00～16:00	考古資料の取り扱い	考古分野（田中・森・大竹・高橋満・藤原）	
16:10～17:00	実習日誌の作成提出	学習支援班（田中・古山）		
25日 (木)	8:50～9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班（田中）	第2会議室 実習室 実習室 第2会議室 第2会議室 第2会議室
	9:10～10:00	資料保存について	保存科学分野（松田）	
	10:10～11:00	資料保存の実際	保存科学分野（松田）	
	11:10～12:00	美術資料について －昼食－	美術分野（川延）	
	13:00～16:00	美術資料の取り扱い	美術分野（川延・金澤・小林）	
	16:10～17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班（田中・古山）	

月日	時間	内容	担当	場所
8月 26日 (金)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中)	第2会議室 図書室 図書室
	9:10~10:00	図書資料の整理・登録・管理	資料整理班 (相田・山中)	
	10:10~11:00	図書資料の整理・登録・管理 (続き)	資料整理班 (相田・山中)	
	11:10~12:00 -昼食-	自然資料について	自然分野 (竹谷)	第2会議室
	13:00~16:00 16:10~17:00	自然資料の取り扱い 実習日誌の作成・提出	自然分野 (竹谷・相田・船尾) 学習支援班 (田中・古山)	第2収蔵庫 第2会議室
27日 (土)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中)	第2会議室 視聴覚室
	9:10~10:00	博物館の学習支援活動	学習支援班 (田中)	
	10:10~11:00	博物館の資料と調査研究	資料整理班 (相田)	第2会議室
	11:10~12:00 -昼食-	民俗資料について	民俗分野 (榎)	第2会議室
	13:00~16:00	民俗資料の取り扱い	民俗分野 (榎・佐治・二瓶・内山)	第1収蔵庫 ほか
16:10~17:00	実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室	
28日 (日)	8:50~9:00	出席確認・諸連絡	学習支援班 (田中)	第2会議室 第2会議室
	9:10~10:00	歴史資料について	歴史分野 (高橋)	
	10:10~12:00 -昼食-	歴史資料の取り扱い	歴史分野 (高橋)	第2会議室
	13:00~14:30	歴史資料の取り扱い (午前の続き)	歴史分野 (高橋)	第2会議室
	14:40~15:40	実習を終えて(レポート作成)	学習支援班 (田中・古山)	第2会議室
	15:40~16:00 16:00~17:00	実習を終えて(感想・意見交換) 実習日誌の作成・提出	学習支援班 (田中・古山) 学習支援班 (田中・古山)	第2会議室 第2会議室



博物館実習「美術資料の取り扱い」



博物館実習「民俗資料の取り扱い」

(3) 生涯学習・研究支援

ア. 相談コーナー

エントランスホール内に配置された無料空間。展示図録・報告書・紀要など博物館の刊行物の他、博物館資料に関連した一般図書や図鑑・辞書など2,669冊を配架。入館者が自由に閲覧できる。平成23年度は175冊増加した。書架の空きが少なくなったため2連増設するとともに、奥行きがなく設置が不安定と思われた書架2連を背の低いタイプのもとのと交換した。

また相談コーナーは、入館者の展示や資料に関する質問や相談の求めに応じて、入館者と学芸員が面談する場でもある。



相談コーナー

イ. 資料の特別観覧

個人や研究機関による研究活動を支援するため、博物館資料の閲覧や撮影を許可し実施している。

分野別特別観覧件数：

考古：1件10点 歴史：29件135点 自然：

2件2点 合計：32件147点

ウ. 講師派遣

大学や公民館、研究団体などからの依頼に応じて学芸員を講師として派遣した。

講師派遣一覧

月日	講師	分野	演題・内容等	主催
5月17日	川延安直・小林めぐみ	美術	日本文様概論・器物図案デザイン概論	会津漆器共同組合
5月19日	川延安直・小林めぐみ	美術	日本文様概論・器物図案デザイン概論	会津漆器共同組合
5月24日	川延安直・小林めぐみ	美術	日本文様概論・器物図案デザイン概論	会津漆器共同組合
5月26日	川延安直・小林めぐみ	美術	日本文様概論・器物図案デザイン概論	会津漆器共同組合
5月28日	竹谷陽二郎	自然	来て見て感じて磐梯山ジオパーク構想	磐梯山ジオパーク協議会
6月1日	二瓶浩伸	民俗	映像から学ぶ民俗学	会津美里町公民館
6月9日	高橋 充	歴史	知る・見る・学ぶ天海僧正	会津美里町教育委員会
6月10日	竹谷陽二郎	自然	磐梯山ジオパークガイド研修(第1回)	磐梯山ジオパーク協議会
6月15日	竹谷陽二郎	自然	磐梯山ジオパーク構想と猪苗代エリアのジオサイトについて	磐梯山ジオパーク協議会
6月20日	竹谷陽二郎	自然	磐梯山ジオパークガイド研修(第2回)	磐梯山ジオパーク協議会
6月23日	藤原妃敏	考古	石器から古墳の時代へ	会津若松市生涯学習総合センター
7月17日	大竹正浩	考古	会津と奈良の古墳時代と文化	歴史ウォーキングサークル
7月26日	小林めぐみ	美術	会津の漆器・漆文化	会津若松市一箕公民館
8月6日 ～7日	竹谷陽二郎	自然	地震火山こどもサマースクール	地震火山こどもサマースクール実行委員会
8月28日	大竹正浩	考古	会津と奈良の古墳時代と文化	歴史ウォーキングサークル
9月13日	森 幸彦	考古	柳津町の縄文時代	柳津町西山公民館
10月7日	佐々木長生	民俗	「会津農書」にみる稲と藁の暮らし	会津若松市北公民館
10月8日	竹谷陽二郎	自然	第2回磐梯山ジオパークフォーラムin猪苗代	磐梯山ジオパーク協議会
11月7日	川延安直・小林めぐみ	美術	古美術品の見方、取り扱い方	福島県中教研耶麻支部社会部
11月10日	阿部綾子	歴史	二つの保科家	会津史談会
11月17日	森 幸彦	考古	柳津町の縄文時代	柳津中央公民館
11月22日	高橋 充	歴史	土津霊神碑を読む	猪苗代町教育委員会
11月24日	川延安直	美術	遠藤香村の世界	会津若松市生涯学習総合センター
11月30日	竹谷陽二郎	自然	磐梯山ジオパークガイド研修(第3回)	磐梯山ジオパーク協議会
12月12日	古山智行	学習	地理歴史科授業研究	福島大学
12月16日	竹谷陽二郎	自然	磐梯山ジオパークガイド研修(補講)	磐梯山ジオパーク協議会
12月22日	高橋 充	歴史	会津の葦名時代(南北朝・室町時代)	会津若松市生涯学習総合センター
1月26日	高橋 充	歴史	会津の葦名時代(戦国時代の会津)	会津若松市生涯学習総合センター
2月23日	小林めぐみ	美術	歴史の中の会津漆工	会津若松市生涯学習総合センター
2月26日	榎 陽介	民俗	棉操り・糸紡ぎ講習会	NPOはるなか 藍・棉・綿部会
3月18日	阿部綾子	歴史	保科正之の遺したもの	会津美里町本郷公民館

6. 広報公聴活動および出版事業

(1) 広報活動

ア. 広報用印刷物

博物館の広報を目的とする印刷物として次のものを発行している。

広報用印刷物の印刷部数と送付先

種類	サイズ	印刷数	主な送付先
ポスター	B 2	企画展「保科正之の時代」 3,000枚 企画展「小さなもの集まれ！」 2,500枚	県内小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
リーフレット	A 4	企画展「保科正之の時代」 50,000枚 企画展「小さなもの集まれ！」 30,000枚	県内および近県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 博物館友の会会員(町貼り協力者) 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
博物館だより (博物館の広報誌)	A 4 8頁	3,500冊×4回=14,000冊	県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の国立・県立図書館・大学図書館 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
年間催し物案内	20×39.4cm 四つ折り	45,000枚×1回=45,000枚	県内の放送局 県内タウン情報誌 県内公立小・中・高校 県内私立小・中・高校 県内博物館・美術館・図書館・公民館・文化施設・教育施設 県外主要博物館 東北・関東地方の県立図書館・大学図書館 会津地域の銀行・病院・JA・道の駅・旅館・ホテル・保養施設・その他店頭 南東北・関東・新潟旅行代理店 県内市町村教育委員会 会津方部県出先機関 県教育事務所
はくぶつかん ニュース	A 4 両面 (館内印刷)	12,600枚×12回=151,200枚	県内公立小・中・高校 県内私立小・中学校 県内図書館・公民館・教育施設 県内市町村教育委員会 県教育事務所
月行事予定表	A 4 (館内印刷)	1,400枚×12回=16,800枚	県内および新潟県の新聞社・放送局 県内タウン情報誌 会津若松市記者クラブ 会津若松市・周辺市町村の観光・広報係 県内主要文化施設
投げ込み(企画展の記者発表などマスコミ向けイベント情報の提供)	A 4 (館内印刷)	随時	県内新聞社・放送局・タウン情報誌 場合により近県のマスコミに提供 県政記者クラブ 会津若松市記者クラブ

イ. 広告

特に企画展等の広報を目的とする広告を次のとおり実施した。

広告掲載一覧

展 示 会	看板（駅前・博物館周り）	新 聞
秋の企画展「生誕400年記念 保科正之の時代」	○	
冬の企画展「小さなもの集まれ！」	○	福島民報社・福島民友新聞社

ウ. ホームページ

当館ではホームページを開設し、館の紹介およびイベントなどの各種情報を発信している。

ホームページアクセス件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
福島県立博物館	リクエスト件数	536,507	539,633	299,507	375,255	450,096	406,679	377,697	347,578	246,341	293,639	326,680	355,320	4,554,932
	ページ数	34,962	35,770	21,773	29,065	32,044	28,837	25,930	21,348	17,781	20,545	21,195	25,436	314,686
会津・漆の芸術祭	リクエスト件数		78,297	126,982	157,093	199,476	381,656	536,874	371,775	183,544	149,885	147,317	142,691	2,475,590
	ページ数		3,615	7,355	8,471	9,409	16,275	21,411	14,089	7,041	7,861	9,003	7,471	112,001
総 計	リクエスト件数	536,507	617,930	426,489	532,348	649,572	788,335	914,571	719,353	429,885	443,524	473,997	498,011	7,030,522
	ページ数	34,962	39,385	29,128	37,536	41,453	45,112	47,341	35,437	24,822	28,406	30,198	32,907	426,687

*「会津・漆の芸術祭」のページは、平成23年5月に個別のドメイン名を持つまで「福島県立博物館」のサイト内にあったため、4月のアクセス件数は博物館に含まれる。



博物館だより第103号

エ. ニュースメール

当館ではニュースメールを作成し、企画展、テーマ展示、講座、講演会などの催し物の情報などを、マスコミ向けに発信している。

平成23年度：Vol 113～Vol 122

オ. 取材・報道・記事

(ア) 夏の特集展Ⅰ「災厄退散（わざわいくるな）福運招来（ふくよこい）」

・福島民報「厄災防ぐ民具並ぶ 若松 県立博物館で特集展」（7月1日記事）

(イ) 夏の特集展Ⅱ「喜多方「100年カエル館」コレクション展」

・福島民友「カエルグッズ2,300点 きょうからコレクション展 県立博物館展」（8月13日記事）

・福島民友「きょう『カエル展』開幕 若松」（8月13日記事）



「喜多方「100年カエル館」コレクション展」内覧会

(ウ) 「会津・漆の芸術祭2011」

・福島民報「2日漆の芸術祭シンポ 若松」（6月29日記事）

- ・福島民報「きょうから漆の芸術祭 作品通じ東北にエール」(10月1日記事)
- ・福島民報「前夜祭、作家や市民交流深める 喜多方」(10月1日記事)
- ・福島民友「漆の独創的作品紹介 若松、喜多方きょう芸術祭が開幕」(10月2日記事)
- ・福島民友「漆の芸術祭成功誓う」(10月2日記事)
- ・福島民報「折り鶴に祈り込め「会津漆の芸術祭」開幕若松と喜多方38会場に作品」(10月3日記事)
- ・福島民友「芸術論熱く語る 県立博物館長と詩人・吉増さん 震災後の生き方も若松」(10月17日記事)
- ・福島民友「蒔絵作品50点 若松・二瓶さん漆芸展」(10月24日記事)
- ・福島民友「スプーンを使いフラワーアート 若松 漆の芸術祭イベント」(12月14日記事)
- ・福島民報「地域創造大賞に県立博物館など「会津・漆の芸術祭」評価」(12月15日記事)

(エ) 秋の企画展「生誕400年記念 保科正之の時代」

- ・福島民友「保科正之の資料紹介 9日から鶴ヶ城で展示会」(9月6日記事)
- ・福島民報「保科正之展同時開催 若松会津藩祖生誕400年」(9月6日記事)
- ・福島民報「県立博物館 きょうから保科正之展国宝、国重文など100点」(10月8日記事)
- ・福島民友「保科正之展きょう開幕 県立博物館人物画、書状など展示」(10月8日記事)
- ・福島民友「保科正之の人物像解説 県立



「生誕400年記念 保科正之の時代」内覧会

- 博物館と鶴ヶ城合同」(10月12日記事)
 - ・福島民友「県立博物館でシンポ 保科正之の人物像迫る」(11月8日記事)
- (オ) 冬の企画展「小さなもの集まれ！—雑道具から古民家模型まで—」
- ・福島民友「雑道具から古民家模型 18日から県立博物館企画展」(2月7日記事)
 - ・福島民報「若松の県立博物館 「小さなもの」集合 きょうから企画展」(2月18日記事)
 - ・福島民友「古民家模型や雛人形 きょうから県立博物館企画展」(2月18日記事)
 - ・福島民友「本物そっくり 古民家「かやぶき屋根」を再現 むかしの人の生活が分かる 県立博物館で企画展」(3月15日記事)



「小さなもの集まれ！」内覧会

(カ) 第35回全国高等学校総合文化祭

- ・福島民友「生徒の熱意受け止め 秋篠宮夫妻、佳子さま」(8月6日記事)
- ・福島民報「高校生に励ましのお言葉 秋篠宮ご夫妻佳子さま 写真展や合唱鑑賞」(8月6日記事)
- ・福島民報「写真 県立博物館 会津若松市文化センター 市民や愛好家見入る」(8月8日記事)

(キ) 催し物

- ・福島民報「復興へ音色一つに 若松 誰でも参加自由演奏会」(5月5日記事)
- ・福島民報「藩祖・保科正之公四つの視点で解説 県立博物館生誕400年で講座」(5月16日記事)
- ・福島民報「本県復興への思い熱く 県立博物館赤坂館長若松で講演」(5月30日記事)
- ・福島民報「歌で被災者励ます 東京のアカペラグループ 若松」(7月2日記事)

- ・福島民報「高校生や児童和のもてなし 県立博物館で大茶会」(7月17日記事)
- ・福島民友「ジャズの音色楽しむ 県立博物館でコンサート」(12月19日記事)
- ・福島民報「科学屋台に夢中 福島大などが実験ブース 若松」(12月25日記事)
- ・福島民報「人物シリーズ」始まる 県立博物館歴史講座」(2月5日記事)
- ・福島民報「オリジナル赤べこ制作 県立博物館で講座」(2月7日記事)
- ・福島民報「県立博物館の歴史講座 「人物シリーズ」始まる」(2月15日記事)
- ・福島民報「山本八重の人物像理解 県立博

物館講座 会津時代中心に」(2月27日記事)

- ・福島民報「復興への道筋探る 県立博物館でシンポジウム 山折哲雄さんら講演」(3月4日記事)
- ・福島民友「本県復興の方策探る 若松でシンポ」(3月4日記事)

(2) 公聴活動

次の行事について利用者に対するアンケート調査を実施した。この結果を中期目標の平成23年度達成度評価の資料とすると同時に、データを分析し、館の事業の改善に努めた。

平成23年度アンケート実施行事

No.	分類	行事	開催日
1	常設展	常設展ほか博物館全般	通年
2	常設展	無料開放日「子どもの日」	平成23年5月5日
3	常設展	無料開放日「県民の日」	平成23年8月21日
4	常設展	無料開放日「敬老の日」	平成23年9月19日
5	常設展	無料開放日「文化の日」	平成23年11月3日
6	企画展	保科正之の時代	平成23年10月8日～11月27日
7	企画展「保科正之の時代」関連行事	シンポジウム「会津慶長地震」	平成23年11月19日
8	特集展	永山巨コレクション展	平成23年3月5日～5月15日
9	特集展	喜多方「100年カエル館」コレクション展	平成23年8月13日～9月19日
10	テーマ展	ふくしまの大地を作る石たち	平成23年12月10日～平成24年1月29日
11	ミュージアムイベント	玄如節と会津の民謡	平成22年5月21日
12	ミュージアムイベント	クリスマスコンサート「ライブでたどるジャズの歴史」	平成22年12月17日
13	ミュージアムイベント	Soft Voice アカペラコンサート	平成23年6月26日
14	館長サタデープロジェクト	東北復興シンポジウム『フクシマ』と共に	平成24年3月3日
15	館長サタデープロジェクト	ジオパークが目指すもの	平成24年3月17日
16	会津・漆の芸術祭シンポジウム	福島で語る	平成23年7月2日
17	その他	博物館利用指導者研修会	平成23年8月19日

(3) 出版事業

平成23年度は次の出版物を刊行した。

ア. 企画展図録

- 福島県立博物館平成23年度企画展図録「保科正之の時代」 2,000冊
- 「小さなもの集まれ！」 1,500冊

イ. 紀要

福島県立博物館紀要 第26号 600冊

ウ. 年報

福島県立博物館年報 第25号 600冊



「保科正之の時代」図録



「小さなもの集まれ！」図録

7. 博物館友の会活動への支援

(1) 友の会活動への支援

当館は、福島県立博物館友の会の活動を支援するため、共催事業などの実施、行事に対する講師の派遣、サークル活動への協力、各会員に対して博物館だよりの送付、展示観覧への便宜、資料や文献の閲覧等、研究活動の支援などを行っている。

(2) 友の会の活動状況

ア. 友の会の概要

①発足 平成元年3月10日

②設立の目的

博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

③総会の開催

平成24年3月15日に開催した。平成23年度の事業・会務・会計決算等の報告と平成24年度の計画を協議し、承認された。また、各サークルの活動・会計の報告が行われた。

④平成23年度会員数

個人会員：241 家族会員：115

高校生会員：0 賛助会員：4

合計：360名



平成23年度友の会総会

イ. 平成23年度事業概要

(ア) 春の研修旅行（歴史の街・酒田と鶴岡の旅）

研修先：本間家旧本邸・別邸、山居倉庫、土門拳記念館、湯野浜温泉、鶴岡

カトリック教会、風間家旧別邸、
庄内藩校・致道館、藤沢周平記念
館など

期 日：平成23年5月25日～26日（1泊2日）

参加者：45名



春の研修旅行（酒田・山居倉庫にて）



春の研修旅行（鶴岡カトリック教会）

(イ) 秋の研修旅行（新潟を訪ねる旅）

研修先：新発田城、清水園、足軽長屋、新
潟ふるさと村、新潟市歴史博物
館、新潟市美術館など

期 日：平成23年10月16日

参加者：37名



秋の研修旅行（新発田城にて）



秋の研修旅行（新発田城で案内を受ける）



秋の研修旅行（清水園の説明）



秋の研修旅行（新潟市歴史博物館にて）



秋の研修旅行（新潟市歴史博物館を見学）

(ウ) 会報の発行

年4回(季刊)、会報を発行し会員に配布した。会員の文化活動を紹介する記事を充実させ、会員の顔が見える紙面作りに努めた。

(エ) 博物館事業への協力

○博物館展示観覧

平成23年度友の会会員入館者数 常設展865件 企画展313件

○博物館講座への協力

博物館講座へ多くの会員が参加した。

ウ. サークル活動

古文書愛好会、化石・鉱物探検隊、道ばた文化財研究会の3サークルが、それぞれの目的に向かって積極的に活動している。サークルごとに主体的に計画し、自立した活動となっている。

(ア) 化石・鉱物探検隊

化石や鉱物に興味をもつ研究サークルで、自然史に関する研鑽と会員相互の親睦を深めることを目的とし、平成11年に設立された。会員数35名。野外での巡検や化石・鉱物の採集、研修会等の活動を行っており、博物館の行事にも随時協力している。平成23年度は次の活動を行った。

- ①平成23年4月17日 朝日鉱山・八重松採石場での鉱物採集
- ②6月5日 新潟県三川鉱山での鉱物採集
- ③7月10日 西会津町縄沢、奥川での貝化石採集

石採集

- ④8月7日 北塩原村桧原金山、蘭峠での鉱物採集
- ⑤9月11日 南会津町真米鉱山での鉱物採集
- ⑥10月23日 郡山市鬼ヶ城での鉱物採集
- ⑦12月23日 博物館共催事業「サイエンス屋台村 in 会津若松」での協力
- ⑧平成24年1月22日 鉱物学習会
- ⑨3月4日 総会ならびに講演会「東日本大震災と会津の地震」(講師：小林昭二氏)

(イ) 古文書愛好会

平成14年度に発足した古文書愛好会は、随時20~30名が参加し、活動が続けてきた。メンバーはそれぞれ5つの班に分かれ、チームを組んで古文書の解説・考察にあたっている。平成23年度は前年度に引き続き月1回・第2土曜日の午前中に開催し、班ごとに順番に発表を行い、毎回最後に全員で文字・内容の検討を行った。テキストには当初から県指定文化財の築田家文書(福島県立博物館寄託)を用いている。築田家は江戸時代には一貫して若松城下の検断(町役人)をつとめた家で、その文書は城下の諸相を伝える良質な資料であるため、解説を通して少しずつ会津藩の歴史についての知見を深めている。

8. 連携事業

(1) 会津・漆の芸術祭

ア. 会期：平成23年10月1日(土)~11月23日(水・祝)

イ. 主催：福島県教育庁／福島県立博物館／会津・漆の芸術祭2011プロジェクト委員会
プロジェクト委員会構成団体(福島県立博物館／福島県観光交流局／福島県会津地方振興局／福島県会津教育事務所／福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター／福島県観光物産交流協会／会津若松市／会津若松市教育委員会／喜多方市／喜多方市教育委員会／喜多方市美術館／会津大学／会津大学短期大学部／会津若松商工会議所／会津喜多方商工会議所／会津漆器協同組合／会津喜多方漆器商工協同組合／会津塗伝統工芸士会／会津工芸新生会／東日本旅客鉄道株式会社／財団法人会津若松市観光

公社／会津若松観光物産協会／喜多方観光協会／福島県教育庁)

ウ. 会場：会津若松市(野口英世青春通り、七日町通りなど)24箇所 喜多方市(中央通り、小田付通り、岩月地区)14箇所

エ. ディレクター：当館館長 赤坂憲雄

オ. 参加アーティスト：96組

ART SPACE／相田啓介／相田雄一郎／会津大学短大プロジェクト／会津短大プロジェクト2010／青野文昭 吾子可苗／秋田公立美術工芸短大熊谷研究室／安部泰輔／荒井勝祐／アンティエ・グメルス／飯塚佐喜子／石川美奈子／石原晋／市川陽子／井波純／井波純+吾子可苗／乾久子／いらはらみつみ／岩田俊彦／岩渕浩之／鶴川清一／内倉ひとみ／宇都宮大学松島研究室／大竹信一／大塚隆／大森茂光／小沢剛／加

藤悦朗／金沢美術工芸大学田中研究室／金子清美／河合晋平／河井菜摘／継プロジェクト／城戸みゆき／儀同哲夫／木下晋／木村義雄／来島友幸／小泉雅代／小林徹男／小林雅子／小日向千秋／小松茂夫／酒井正／佐藤達夫／佐野暁／塩谷良太／しでかすおともだち／白岩準市／白岩有美／上越教育大学伊藤研究室／杉原信幸／須藤としを／曾根英昭／染谷聡／高橋理加／塚田尚三／筑波大学LIFE！／土屋多加史／角田純一／角田弘司／出町光識／照井克彦／照井克弘／照井邦彦／東京藝術大学漆芸専攻3年有志／東北画は可能か？／東北芸術工科大学辻研究室／中島靖高／並木恒延／西出毬子／沼田英恵／ハザマヨウイチ／はと／林剛人丸／坂内憲勝／坂内まゆこ／広島市立大学大塚研究室／FUKUSHIMA ARTプロジェクト／古川弓子／三瀬夏之介／三好かがり／松島さくら子／三浦圭一／村上修一／山内泰次／山口朋子／山中早苗／山本あまよかしむ／吉田重信／渡邊希／渡部秀昭

カ. 出品作品数：96点

キ. 来場者数：93,000人

ク. 作品選考委員：北川フラム（越後妻有大地の芸術祭総合ディレクター）
樋田豊次郎（秋田公立美術工芸短期大学学長）
山下裕二（明治学院大学教授）
赤坂憲雄（会津・漆の芸術祭ディレクター・福島県立博物館長）

ケ. イベント：主催：31件 参加人数：929人
後援：32件 参加人数：4,072人
協賛：19件 参加人数：199,795人

コ. ボランティアスタッフ（カキコ隊）登録人数：40名

サ. 内容：

平成22年度から開催している会津・漆の芸術祭は、会津の文化資源である「漆」をテーマに、博物館の研究成果を活かした芸術作品を空き店舗や伝統的な建造物で展示することで、博物館活動の新たな展開と会津地域の文化への理解を深めることを目的にスタートした。平成23年度は東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故を受けて「東北へのエール」というサブテーマを掲げ開催した。

全国からの96組の参加者の作品を通して、また会期前から会期後にかけて開催したイベントを通して、東北や福島へのメッセージや応援を伝えるハブとしての役割を担うことを試みた。

シ. 成果と課題：

- ① 予算が限られた中でできるだけ多くの方のメッセージを届けるため、参加作家には多大な負担をかけることとなった。
- ② 事業の実施決定が5月半であったため、準備期間が短く広報や作品制作に十分に時間をかけることができなかった。
- ③ 作品を通して、県内外から福島や東北への思いを形にすることができ、被災者を含めたくさんの方に精神的な支援をすることができたと思われる。
- ④ 震災と事故の影響が著しく状況も刻一刻と変容する中で、文化事業を実施したことで福島の文化、歴史、伝統などの大切さ、それを伝えて行くことの重要性を改めて訴えることができたと思われる。
- ⑤ 博物館が地域の文化施設として、人と人、人と地域を結ぶハブの役割を担うことの意義を再確認することができた。



展示作品・三瀬夏之介「島台月見桃源郷」



展示作品・いらはらみつき「キオクノタネ2011」



避難所でのワークショップ「ハートマークビューイング」



他地域の大学生と地元漆職人の交流



地域の幼稚園との協働・ワークショップ実施



アーティストと地元漆職人の交流



ボランティアスタッフの活動（作品制作）



ボランティアスタッフの活動（会場清掃）

(2) 福島の映像文化アーカイブ事業

ア. 事業の趣旨

平成22年度に続いての事業。震災の影響で予算がそのとおり執行されるのかどうか不安であったが、当初の予算案のとおり事業を継続することができた。本年度は、昨年度収集ができなかったものも含めた。その結果、富岡町教育委員会所蔵の昭和9年の夜の森公園の花見の様子を記録した16ミリフィルムも対象として加えることができた。また、事業の予算で映像を編集することができるパソコンを購入した。

イ. デジタル化したフィルム

23年度にデジタル化したフィルムは合計248本になった。昨年度と同様、miniDVのテープへの収録と、dvコーデックのaviファイルのもの、それから各所蔵者に渡すDVDに焼いたものの3種類となった。今年度の対象となったフィルムには郡山市のシネクラブの代表をなさっていた方のものがあった。8ミリフィルムが現役であった時代には各地に愛好者の集まりがあり映像を制作していた。たとえば郡山市シネクラブのUさんの作品には「ずりひきさん」といって山から間伐材を馬

櫓にのせておろしてくる仕事を描いたものや、「広瀬座」という伊達市柳川町にあった芝居小屋（現在は福島市民家園に移築）が映画館として活動していた時代に取材した作品など、すでに完成した映像記録となっているものが多くあり、いわゆる家庭の記録としての映像とは異なる作家の作品といえるものであった。

ウ. デジタル化した映像の活用

デジタル化した映像については、二次的な使用を許諾する文書をほとんどの方からいただいた。実はフィルムの所有者が映像を撮影した本人ではない場合もある。結婚式を友人や親せきに撮影してもらい、そのフィルムをデジタル化した場合などである。共同で撮影した場合もあるだろう。しかし、提供されたフィルムは「動画記録の文化財」というとらえ方ができるだろう。そうした観点からも積極的に使用していきたい。利用方法には、動画の内容自体への関心（時代を映している・すでに失われた建物などが映っているなど）のほか、映像を使用しての作家による新しい作品創造ということへの使用も考えられる。その点では、この事業を企画し予算化した福島県生涯学習課で作成した「福島8mmキネマ劇場」などは、22年度にデジタル化した素材をもとに時代を表す部分と、まったく別の観点から編集した部分の両方の性格を併せ持つ作品となっている。

エ. 今後のとりくみ

23年度に購入したパソコンを使って、今回2年間にデジタル化した作品とともに、「福島民友ニュース」という映画館で上映したニュース映像をデジタル化したものも含めて、使いやすいように内容の簡単な解説付きのインデックスを作成していきたい。また保存という観点から、複数のハードディスクに格納したり、ブルーレイやDVDのディスクに焼いておくなどにより安全に保管することも継続する。

(3) 磐梯山ジオパーク構想推進事業

ア. 事業の趣旨

ジオパークとはヨーロッパで始まった地質や地形を見どころとする大地の公園。ユネスコが支援する活動となり、平成16年に世界ジオパークネットワーク（GGN）が設立。平成24年8月現在、ヨーロッパと中国を中心に88地域が加盟。世界遺産は条約に基づいて保全・保護を重要視するのに対して、ジオパー

クは保全はもとより、資源の活用による地域の振興を図ることを目標にしている。また、地質遺産だけではなく、それを背景とした考古資料、生態学的もしくは文化的に価値のあるものも含む。日本では平成24年8月現在、20地域が日本ジオパークとして認定されており、そのうち5地域が世界ジオパークに認定されている。

平成20年から有志により磐梯山地域をジオパークにしようとする運動が始まり、平成22年3月に磐梯山周辺の3町村と関係機関を中心に、磐梯山ジオパーク協議会が設立された。当館も協議会に加入し、この運動に積極的に取り組んでいる。平成23年9月に、日本ジオパーク委員会により、磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。将来的には磐梯山地域が世界ジオパークに認定され、ジオパークとしての活動を継続していくことを目指している。

イ. 組織

磐梯山ジオパーク協議会は、行政団体として磐梯山周辺の猪苗代町・磐梯町・北塩原村が中心となり運営し、福島県が支援している。これに3町村の商工団体と観光協会、及び民間団体として文化施設およびツーリズム協会が加わっている。事務局は北塩原村観光政策課に置かれている。

磐梯山ジオパーク協議会組織

区分	機関・団体名
学 識 経 験 者	福島県立博物館
	福島県野生動植物保護アドバイザー
	猪苗代町体験交流協会
行 政 団 体	会津森林管理署
	福島県企画調整部企画調整課
	福島県会津地方振興局
	猪苗代町
	磐梯町
商 工 団 体	北塩原村
	猪苗代町商工会
	磐梯町商工会
観 光 協 会	北塩原村商工会
	社団法人猪苗代観光協会
	磐梯町観光協会
民 間 団 体	裏磐梯観光協会
	野口英世記念館
	磐梯山噴火記念館
	猪苗代伝保人会
	猪苗代山岳会
裏磐梯エコツーリズム協会	

区 分	機関・団体名
オブザーバ	裏磐梯自然保護官事務所
	福島県喜多方建設事務所
事務局	猪苗代町商工観光課
	磐梯町産業課
	北塩原村観光政策課

ウ. 活 動

平成23年度は次の事業を実施した。

(ア) 日本ジオパークネットワーク加盟申請

- ①申請書提出
- ②日本地球惑星科学連合2011年度大会ジオパーク関係セッション（千葉市）での、日本ジオパーク認定の公開プレゼン 5月23日
- ③日本ジオパーク委員会現地審査 8月20日～21日

(イ) ジオパーク先進地視察、大会参加

- ①先進地視察
世界ジオパークである室戸ジオパーク視察研修を実施 8月30日～31日
- ②大会参加
 - (1) 日本ジオパークネットワーク総会（東京）5月24日
 - (2) 第2回日本ジオパーク全国大会（洞爺湖・有珠山）9月28日～10月1日

(ウ) 普及活動

- ①フォーラム・シンポジウムほか
 - (1) 「第2回磐梯山ジオパークフォーラム in 猪苗代」 10月8日
 - (2) 地震火山こどもサマースクール 国立磐梯青少年交流の家 8月6日～7日
- ②ジオツアー
 - (1) 「来て見て感じて磐梯山ジオパーク構想」 5月28日
 - (2) 「絵画ジオツアー」 11月12日
 - (3) 「東北初！日本ジオパーク認定記念 冬の幻想美を巡るジオツアー」 2月28日～29日
- ③ジオサイト解説看板設置
猪苗代町2ヶ所、磐梯町1ヶ所
- ④出前授業
 - (1) 「磐梯山ジオパーク構想と猪苗代エリアのジオサイトについて」 猪苗代町上ノ上地区 6月15日

- (2) 「防災授業」 北塩原村立裏磐梯中学校 7月13日
- (3) 「ジオパークについてのお話」 北塩原村立さくら小学校 11月6日
- (4) 「日本ジオパークと磐梯山ジオパーク」 裏磐梯ロイヤルホテル 12月12日
- (5) 「ジオパーク学習会」 磐梯町立第二小学校 平成24年2月7日
- (6) 「ジオパーク学習会」 磐梯町立第一小学校 2月9日
- (7) 「日本ジオパークと磐梯山ジオパーク」 裏磐梯休暇村 3月13日
- (8) ジオパークの説明 猪苗代観光協会総会 3月27日

⑤展示会

- (1) 東北地方ジオパークポスター展参加 仙台市青葉通り地下ギャラリー 平成24年2月15日～29日

(エ) ガイド養成

①ガイド研修

- (1) 第1回「1888年の磐梯山噴火に伴う地形の変化と植物相について」 北塩原村エリア 6月10日
- (2) 第2回「猪苗代湖の成因に関係のある「翁島岩なだれ」と「川桁断層」と磐梯山麓の歴史と文化について」 猪苗代町エリア 6月20日
- (3) 第3回「翁島岩なだれの堆積物の観察及び会津仏教文化発祥の地「慧日寺」と「高僧徳一」について 磐梯町エリア 11月30日、12月16日

②ガイド養成事業

- (1) 下仁田ジオパーク巡検 12月3日～4日
- (2) ジオガイド認定証交付式・特別講演 平成24年3月26日

(オ) 新土産・新メニュー開発事業

①ジオグルメ開発

- (1) モニタリングツアー 会津大学短期学部食物栄養学科ゼミの学生 11月13日
- (2) 第2回試食会 平成24年3月28日

9. 東日本大震災からの復興支援

平成23年3月11日午後2時46分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード9.0の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約500km、東西約200kmの広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度5強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成23年4月12日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。平成23年度は東日本大震災からの復興を支援するためいくつかの活動を行った。

(1) 被災者のための部分開館

震災、特に福島第一原子力発電所の事故により、周辺市町村の住民の方々が会津地域にも避難してきた。この被災された方々に対して、文化施設である福島県立博物館の展示等を通して、文化的な刺激および憩いの場を提供するため、施設の一部を次の通り無料開放した。期間は、平成23年3月26日（土）～4月10日（日）までである。この部分開館中の入館者数は758人であった。

ア. 展示室

展示室の一部を被災された方々に無料開放した。対象とした展示は以下のふたつである。

①特集展「永山巨コレクション展」

会場：企画展示室

②テーマ展「天神さま」

会場：部門展示室「歴史美術」

また、ビデオブースで既成のプログラムを上映した。

イ. エントランスホール

エントランスホールの大型映写装置で本県の歴史・文化・自然に関する映像を上映した。また、お茶の無料サービスを行った。

ウ. 視聴覚室

大型液晶テレビを使いニュースを中心としたテレビ番組を放映した。

エ. 体験学習室

昔のおもちゃを使った遊戯、昔の衣装の着付け、化石にさわるハンズオンなどを体験してもらった。

なお、部分開館について、被災者が避難している会津若松市内の各避難所にポスター・ちらし等の配布。博物館ホームページに掲

載。マスコミへのニュースメールなどを使って広報した。



エントランスホールでのお茶の提供



視聴覚室でのテレビ放映



展示室の修繕風景

(2) Fukushima 応援ミュージアムイベント

従来行ってきたミュージアムイベントを、「 Fukushima 応援ミュージアムイベント」と名付け、

被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

ア. Fukushima 応援自由演奏会

(ア) 主催

Fukushima 応援自由演奏会実行委員会・福島県立博物館

主宰者：上野の森プラス チューバ奏者
杉山 淳氏 (自由演奏会発起人)

(イ) 趣旨

震災復興支援演奏会。余震・原発のため、福島では演奏会や練習活動が中止せざるを得ない状況にある。演奏できるという喜びやありがたみを再確認し、会津から元気を出していこうという意図のもと開催した。

(ウ) 日時 平成23年5月3日(火) 14時～15時30分

(エ) 会場 福島県立博物館正面入口前

(オ) 出演 指揮者：杉山 淳氏
演奏者：一般から募集、計200人が参加。

(カ) 内容

楽器による演奏会。当日午前中に練習して午後合同で演奏した。



自由演奏会



杉山 淳氏による指揮

曲目：陽はまた昇る(東日本大震災復興応援のために、フィリップ・スパーク氏より贈られた曲)、ありがとう、桜の木になろう、上を向いて歩こう、宝島 他。

(キ) 観客数 590人

イ. 玄如節と会津の民謡

(ア) 日時 平成23年5月21日(土) 13時30分～15時

(イ) 会場 福島県立博物館 エントランスホール

(ウ) 参加者数 85人

(エ) 出演 玄如節顕彰会の皆さん

(カ) 内容

玄如節は、即興の掛合で歌うのを基本とする会津の民謡の源流でもある。玄如節を中心に会津の民謡と東日本大震災の被災地の岩手・宮城県と本県浜通りの民謡や踊りの公演を実施した。

(キ) 成果と課題

- ①玄如節の民俗学的価値を県民に紹介できた。
- ②被災地の民謡や踊りが好評であった。
- ③マイクおよびスピーカー等の音響機材の改良が必要である。

ウ. Soft Voice アカペラコンサート

(ア) 日時 平成23年6月26日(日) 13時30分～15時

(イ) 会場 福島県立博物館 エントランスホール

(ウ) 参加者数 105人

(エ) 出演 アカペラユニット Soft Voice

(カ) 内容

歌声で被災者の心を癒したいというアカペラユニットSoft Voiceからの申し出により実現したチャリティコンサート。Soft Voiceは幼少の頃から活動を共にしている4人のハーモニーと清らかな声に定評があるグループ。童謡や唱歌を中心とした歌が来場者の心を潤した。

(キ) 成果と課題

- ①当日は年配者を中心に105名が来場した。避難してこられた方の来場もあり、懐かしい日本のメロディや元気がでる応援歌を聞いたり、共に歌うことで精神的なケアにつなげることが多少なりともできたのではないと思われる。
- ②一次避難所、二次避難所での広報を行ったが、避難者全体にまで情報を行きわたらせることはできなかった。
- ③避難所から福島県立博物館までの交通手

段の手配ができればより成果に結び付いたのではないかとと思われる。



Soft Voice アカベラコンサート

エ. けんぱく大茶会

- (ア) 日時 平成23年7月16日(土) 13時30分～15時
- (イ) 会場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 250人
- (エ) 出演 裏千家淡交会会津支部学校茶道連絡協議会のみなさん
- (カ) 内容

茶道を通して日本の文化に親しんでもらうこと、また会津地域に避難している方々に一時の安らぎの時間を持っていただくことを目的に開催した。裏千家淡交会会津支部学校茶道連絡協議会に所属する高校生が主体となって立礼席を設け、多数の来場者をもてなした。また抹茶を点てることのできる体験コーナーも設け、気軽に楽しんでいただいた。裏千家淡交会会津支部と会津地域の菓子司の協力により、避難してこられた方には無料で茶菓を提供した。

(キ) 成果と課題

- ①当日は子どもから年配者まで幅広い年代の参加者名が来場した。避難してこられた方の来場もあり、文化的な事業に参加することで、精神的なケアにつなげることが多少なりともできたのではないかとと思われる。
- ②一次避難所、二次避難所での広報を行ったが、避難者全体にまで情報を行きわたらせることはできなかった。
- ③避難所から福島県立博物館までの交通手段の手配ができればより成果に結び付いたのではないかとと思われる。



けんぱく大茶会 1



けんぱく大茶会 2

オ. 野外映画会

- (ア) 日時 平成23年8月20日(土) 19時～
- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
- (ウ) 参加者数 52人
- (エ) 内容

当初、正面入口前の広場で開催する予定であったが、雨天のため、講堂で行うこととなった。上映したのは、手塚治虫原作で1966年に公開された『長編 ジャングル大帝』。上映時間は75分であった。参加者のアンケートをみると、「野外での上映会を楽しみにしていたので残念だった。」という意見がある一方、「室内でゆっくり見ることができよかった。」という意見もあった。また、参加者のなかには、大熊町から避難されている方もいらっしゃった。



野外映画会の広報用垂幕



ナイトミュージアム 1



ナイトミュージアム 2

カ. ナイトミュージアム for Kids

- (ア) 日 時 平成23年 9月17日(土)
- (イ) 会 場 福島県立博物館常設展示室
- (ウ) 参加者数 57人
- (エ) 講 師 各分野学芸員
- (オ) 内 容

館内常設展示室に4つのコーナー（竪穴式住居前、板碑前、木炭バス、フタバズキリュウ骨格標本）に学芸員を配置し、真っ暗闇の館内を懐中電灯の光を頼りに参加者が巡回し各コーナーで展示解説を聞くことができる。普段の館内と異なりポイントごとに詳しく解説ができる。館内にある資料を活用し学芸員が変装し解説するのも参加者には喜ばれている。

(カ) 成果と課題

参加者の多くは「満足」という感想であった。毎年人気のある子どものためのイベントなので、開催時期は長期休業中（夏休み・冬休み・春休み）が望ましいと思われる。昨年は夏休み中だったため募集開始2日後で締め切った。今年は募集11日目で締め切った。実施時期を調整すると参加希望者は増加すると考えられる。なぜこのイベントに人気が集まるのか協議し今後の常設展示の方向性（リニューアルも踏まえ）も検討したい。

キ. ライブでたどるジャズの歴史

- (ア) 日 時 平成23年12月17日(土) 13時30分～15時
- (イ) 会 場 福島県立博物館 エントランスホール
- (ウ) 参加者数 166人
- (エ) 出 演 ジャズバンド ハートランド
[Gt.石原晋、Key.飯盛正徳、B.五十嵐智一、Drs.増子雄二、Vo. Kei (友情出演)]
- (オ) 内 容

2部構成とし、第1部「リズムの歴史」では、増子雄二氏の解説で、ジャズの歴史を学びながらのライブ演奏を行った。2ビートから16ビートに至るジャズの流れ、ブルースやロック、歌謡曲やR&Bが生まれる背景なども世界と日本を比較しながら楽しく学べた。また、手拍子の仕方などノリ方のレクチャーも行われた。

第2部は「ハートランド・ライブ」で、聖者の行進、スイートメモリー、ザ・クリスマスソングなど、得意のジャズナンバーとクリスマスソングを交えながら演奏が行われた。エンディングはKeiさんがボーカ

ルとして加わって「Sunny」が演奏され、ジャズ調「ふるさと」の合唱で締めくくられた。

(カ) 成果と課題

来場者からは、8割方「面白かった」という反応を得ることができた。12月のクリスマスライブは5年間続けてきたが、音楽と歴史のコラボレーションが博物館に定着してきた感があり、来場者からは「毎年この時期のライブを楽しみにしている」という声も聞かれた。

ただ、第1部のジャズの歴史学習では、「勉強になった」「ためになった」という声がある一方で、「前半が長すぎた」「子供には理解できない」「音楽を聴きに来たのに」という声も多く聞かれた。今後、音楽イベントでのトークのバランスや各年齢層への配慮も考えて行く必要がある。

また、予算面ではかなり削減されたことに加え、グループでの演奏だったことから、1人当たりの謝金を少なくせざるを得なかった。今後、このような状況下ではイベント自体を継続していくことが難しくなると予想される。



ライブでたどるジャズの歴史

(3) 館長サタデープロジェクト

平成20年度から、ミュージアムイベントの新企画として、「館長サタデープロジェクト 真冬の学習」を実施している。それぞれの年度に、福島県の歴史・文化・自然に関するタイムリーなテーマを設けて、そのテーマに精通したゲストを招き、館長との対談を交えて来場者とともに考えようとするものである。平成23年度の館長サタデープロジェクトは、「震災を考える」というテーマで、東日本大震災からの復興への取り組みに焦点をあてて2回開催した。

ア. 東北復興シンポジウム『フクシマ』と共に～海やまのあいだに生きる～

(ア) 日時 平成24年3月3日(土) 13時～16時50分

(イ) 会場 福島県立博物館 講堂

(ウ) 参加者数 212人

(エ) 出演 宗教学者 山折哲雄氏、福島原発行動隊理事長 山田恭暉氏、静岡県知事 川勝平太氏、国際日本文化研究センター教授 安田喜憲氏、NPO法人アスクネイチャー・ジャパン 副理事長 河本英典氏、福島県立博物館長 赤坂憲雄

(オ) 内容

震災後の東北復興の方向性を模索するため設立されたNPO法人アスクネイチャー・ジャパン(事務局は滋賀県近江八幡商工会議所内)との共催事業である。

細野豪志環境大臣が聴講者として参加したことから、シンポジウムに先がけて、大臣から挨拶が行われた。

基調講演にて山折哲雄氏から、日本列島が1万年間災害に見舞われ続け、日本人はこれを克服してきたこと、被災地の瓦礫受け入れ問題が孕む日本人の内面的問題、福島原発行動隊に見られる倫理に対する着たいなどの話があった。

また、山田恭暉氏から福島第一原子力発電所が直面している「事故処理」の状況と、廃炉への道のりと課題について詳細な報告があった。

上記を受けて、シンポジウムでは「事故収束の体制」「人の心と自然の関係」「倫理」などをキーワードに、原発事故の厳しい状況の共有、そして福島の再出発と新しい文明への期待、またそれは他でもない東北の人々の心がつくるものであることなどについて、各パネラーの間で議論が交わされた。

パネラーは日本を代表するメジャーな学者達であるため、全国各地から聴講者が訪れ、マスコミ関係者も多く訪れた。

(カ) 成果と課題

聴講者からの感想

- ・新聞・テレビではわからない所まで原発の事を知り、大変ためになりました。
- ・私たちは人間以外のすべての命、未来の世代、子供達に本当に申し訳ないことをしてしまったと思います。でも人間の心

のあり方や本当に大事なものは何か、今まであまりにメジャーにならなかった声がたくさん出てきています。少しでも日本の方向を変え、新しい価値観（もともと日本人が持っていた価値観）で生きていけるように、私はふくしま県人として役に立ちたい。みんな「役に立ちたい」と思っていると思います。

- ・涙が出る程、感動しました。これからの福島復興は、人生にも、会津にも、東北にも、日本にも、世界にも、大きな力になると思います。この度のシンポジウムが会津で開催されましたことに感謝いたします。
- ・タイトルの「フクシマ」について。地元であるならカタカナではなく、せめてひらがなでありたいと思う。世界に知られた地名となったけど。愛情こめた言い方として「ふくしま」でありたいと思う。



東北復興シンポジウム『フクシマ』と共に1



東北復興シンポジウム『フクシマ』と共に2

イ. ジオパークが目指すもの—東日本大震災からの復興—

(ア) 日時 平成24年3月17日(土) 13時30分～15時30分

- (イ) 会場 福島県立博物館 講堂
 (ウ) 参加者数 76人
 (エ) 出演 岩手県立博物館首席専門学芸員 大石雅之氏、福島県立博物館専門学芸員 竹谷陽二郎、福島県立博物館長 赤坂憲雄

(オ) 内容

ジオパークとは、大地の成り立ちと人間の生活との関係を、楽しみながら学習できる自然公園。平成23年9月に磐梯山地域が日本ジオパークとして認定された。また、東日本大震災で被災した三陸海岸をジオパークにしようという構想が提唱されている。災害に対してジオパークは何かができるか。復興支援、防災意識の普及、災害遺構の保存、文化財レスキューなど、多角的な視野からジオパークの果たすべき役割を考えた。

(カ) 成果と課題

- ・震災からの復興にジオパークがどのように関わるかということを考えるという講演会の意図は理解されたようだ。ただ、問題が多岐にわたり、もう少しテーマを絞るべきだったかも知れない。
- ・宮城県から来た被災者は、特に今回のテーマに興味を持ちわざわざ遠方から参加してくれた。来年の館長サタデープロジェクトでも、引き続き震災からの復興をテーマに県内外に情報を発信していきたい。



ジオパークが目指すもの

(4) 被災文化財・資料への対応

ア. 福島県内の概況

(ア) 文化財・資料や収蔵施設の被害状況

平成23年3月11日に発生した地震と津波、その後の余震などによって、福島県内の機関や個人が所有する文化財や資料の被

害が発生した。指定文化財については、県・市町村の教育委員会が被害状況をほぼ把握しているが、それ以外の個人所有の資料についてはいまだ被害の全容は明らかになっていない。

公的な収蔵施設では、アクアマリンふくしまが津波の被害を受け、また須賀川市長沼の文化財収蔵庫が藤沼湖（ダム）の決壊によって被災した。浜通り・中通りの収蔵施設の多くも地震による建物の被害があり、被害の大きかった施設は現在でも建物の修繕などのため休館しているところもある。地震発生後の原発事故のために警戒区域となった双葉町・大熊町・富岡町・楡葉町などの収蔵施設には、現在も立ち入りができず、文化財や資料が取り残されたままの状態になっている。

イ) 被災文化財・資料救出の体制

県内では、平成22年11月に発足した「ふくしま歴史資料保存ネットワーク」（ふくしま史料ネット）が、震災後の初期の救出活動を主導した。組織として立ち上がったばかりで、十分な準備はなかったが、震災の起きた直後にブログサイトを開設し、被災情報を集約・発信しながら対応を開始した。ふくしま史料ネットを構成する福島県文化振興事業団（福島県歴史資料館）・福島大学・福島県立博物館・福島史学会が連絡を取り合いながら、被災資料の避難や応急処置に当たった。

震災発生から数ヶ月間は、被災者・避難者への対応が優先され、文化財や資料に関する対応は進まなかった。7月に文化庁の実施する「東北地方太平洋沖地震被災文化財等救援事業」（通称「文化財レスキュー事業」）に福島県教育庁文化財課が協力を要請した。要請のおもな内容は、須賀川市長沼の文化財収蔵庫の被災資料の救出と警戒区域からの文化財の救出であった。前者については9月から現地作業が開始された。後者については、平成23年度内に準備が進められ、実施は平成24年度に持ち越された。

イ. 当館の対応

ア) 受け入れの準備

当館は、県内でも比較的被害の少なかった会津に立地する収蔵施設であるため、震災後には資料の受け入れが急増することが予想された。そのため、以下のような準備

を行った。

①一時保管場所

通常時の一時保管場所である一時収蔵庫は、すでに多くの資料が入っていたため、考古作業室を臨時の一時保管場所として使用できるようにした。

②文化財等レスキュー担当者

平成23年度の事務分掌の中で、文化財等レスキューの担当者（松田・竹谷・榎・高橋）が決められた。

③一時保管

通常の受け入れ手続きとは別に、一時保管として預かり書を発行した。期限は平成24年3月末とした。

イ) 受け入れ状況

当館では、ふくしま史料ネット事務局と連絡をとりながら、基本的には文化財・資料の救出の依頼（通報）があった場合に、その対応に当たった。震災直後は、他の施設が対応できない状況であったため、積極的に受け入れを進めたが、他の施設が復旧し始めた頃からは、緊急度や資料の性質などを考慮して受け入れを行うようにした。

受け入れ状況は《表1》に整理した通り、17件であった。ただし、この中には、当館における通常の資料収集活動（受贈・受託・借用）として受け入れたものも一部含まれている。被災を契機に資料を手放さざるを得なくなったケースや、避難が長期に及ぶことが予想されたため寄託を選択（あるいは途中で変更）したケースなどがある。一般的にいわれるレスキュー事業とは異なるところもあるが、博物館としての被災文化財・資料への対応であることには変わりはない。

ウ) 受け入れ後の作業

受け入れ後には、①クリーニング、②整理・撮影、③くんじょう、④修復などの作業を順次行った（ただし③④は必要な場合のみに実施）。

③くんじょうについては、くんじょう庫の容量が限られており、またガス抜きまで含めると3ヶ月程かかるため、しばらくはくんじょう待ちの状態で一時的保管される状態が続いた。

①クリーニングと②整理・撮影は、初期にはボランティアを募集して実施することを試みた。5月7日（土）・8日（日）には、ふくしま史料ネットを通じて募集したボランティア（11名）が当館職員とともに、集

中してクリーニングと整理・撮影などの作業を行った。7月以降は、臨時労務員が④修復作業と合わせて行なうようになった。

一時保管の状態が長期化する中で、⑤保管場所の温湿度の調整や、⑥放射線量の測定なども実施された。平成23年度末には、一時保管場所となっていた考古作業室の資料の大部分は一時収蔵庫へ移動させることができた。

(エ) その他の活動

文化財・資料の受け入れや保管以外では、以下のような活動を行った。《表2》参照

- ①被害状況の確認・調査
- ②須賀川市長沼文化財収蔵庫レスキューへの参加
- ③関係機関との連絡会議への出席
- ④福島県博物館連絡協議会研修会（いわき市）の実施
- ⑤南相馬市博物館「ふるさと再発見 私たちのたからもの」展への協力

ウ. 今後の見通しと課題

平成23年度末段階で、以下の点は完了しておらず、平成24年度へ持ち越されることになっている。

- ①すでに受け入れた文化財・資料への対応（継続）
- ②新たに警戒区域・警戒解除区域から搬出される文化財・資料への対応（継続）
- ③その他、市町村教育委員会・収蔵施設でカバーできない資料への対応

以上のような文化財・資料に関する作業は継続される一方で、次のような点は今後の課題になるであろう。

- ①救出された文化財・資料の展示公開
- ②災害対応のしくみの見直し

例えば、緊急時の保管スペースの確保や、管理責任の問題点の整理など

《表1》受け入れ状況

No.	所有者	資料概要	数量	要因	現状(平成23年度末)
1	旧相馬女子高校	土器片等	195点	旧校舎収蔵施設の損壊	一時保管
2	いわき市の個人	古文書・祭礼道具等	13件(1509点)	地震による蔵の損壊	一時保管→受託 整理作業中
3	南相馬市の個人	野馬追甲冑等	12件(16点)	原発事故避難により管理不能	一時保管→受託
4	南相馬市の個人	文書	1点	原発事故避難により管理不能	一時保管
5	双葉町教育委員会	古文書(整理済)	253点	原発事故避難により管理不能	一時保管
6	南相馬市の神社	棟札・像・文書等	22点	津波による神社の損壊	一時保管
7	須賀川市の神社	絵馬・文書	109点	地震による神社の損壊	受託
8	須賀川市の個人	雛人形・五月人形等	4点	地震による建家の損壊	受贈
9	双葉町教育委員会	刀剣・火縄銃	7点	原発事故避難により管理不能	一時保管
10	郡山市の個人	近代史料・書籍等	961点	地震による蔵の損壊	整理終了 返還済み
11	双葉町教育委員会(寄託)	大刀・十三仏画	2点	原発事故避難により管理不能	一時保管
12	浪江町の寺院	両界種子曼荼羅(県重文)	1点	原発事故避難により管理不能	一時保管→受託
13	福島市の個人	雛人形等・古写真等	17件(22点)	地震による建家の損壊	受託・受贈
14	伊達市の個人	土器・石器・凶書・地図	3件(1647点)	地震による蔵の損壊	受贈
15	南相馬市の寺院	膳椀漆器(県重文)	48件(79点)	原発事故避難により管理不能	受託 整理作業中
16	会津工業高校	陶磁器	8点	地震による損壊	修復終了 返還済み
17	南相馬市歴史民俗資料館	植物化石標本	62件(66点)	地震による展示施設の損壊	借用 整理作業中

《表2》その他の活動

時期	内容	担当
平成23年 3月	当館展示資料(旧福島中学鬼瓦)の修復	保存分野
4月	会津周辺の被害状況調査	歴史分野
5月	福島資料ネットボランティアによるクリーニング作業(2日間)	歴史・民俗分野
	県文化財課等との連絡会議(第1回 於福島市)	レスキュー担当

時 期	内 容	担 当
平成23年 7月	臨時労務員によるクリーニング・修復作業開始 (24年3月まで)	保存分野ほか
	いわき市の博物館の被災状況調査	自然分野
	県文化財課等との連絡会議 (第2回 於福島市)	レスキュー担当
9月	須賀川市長沼の文化財収蔵庫レスキューへの参加	考古分野
10月	当館展示資料(土器類)の修復	保存分野
	県文化財課等との連絡会議 (第3回 於福島市)	レスキュー担当
	福島県博物館連絡協議会研修会 (於いわき市)	
平成24年 1月	南相馬市博「ふるさと再発見 私たちのたからもの」展の協力	考古分野
2月	県文化財課等との連絡会議 (第4回 於福島市)	レスキュー担当
3月	一時保管資料の再手続き 考古作業室の復旧	レスキュー担当



古文書整理作業



絵馬搬出作業②



祭礼道具クリーニング作業



漆器類搬出作業①



絵馬搬出作業①



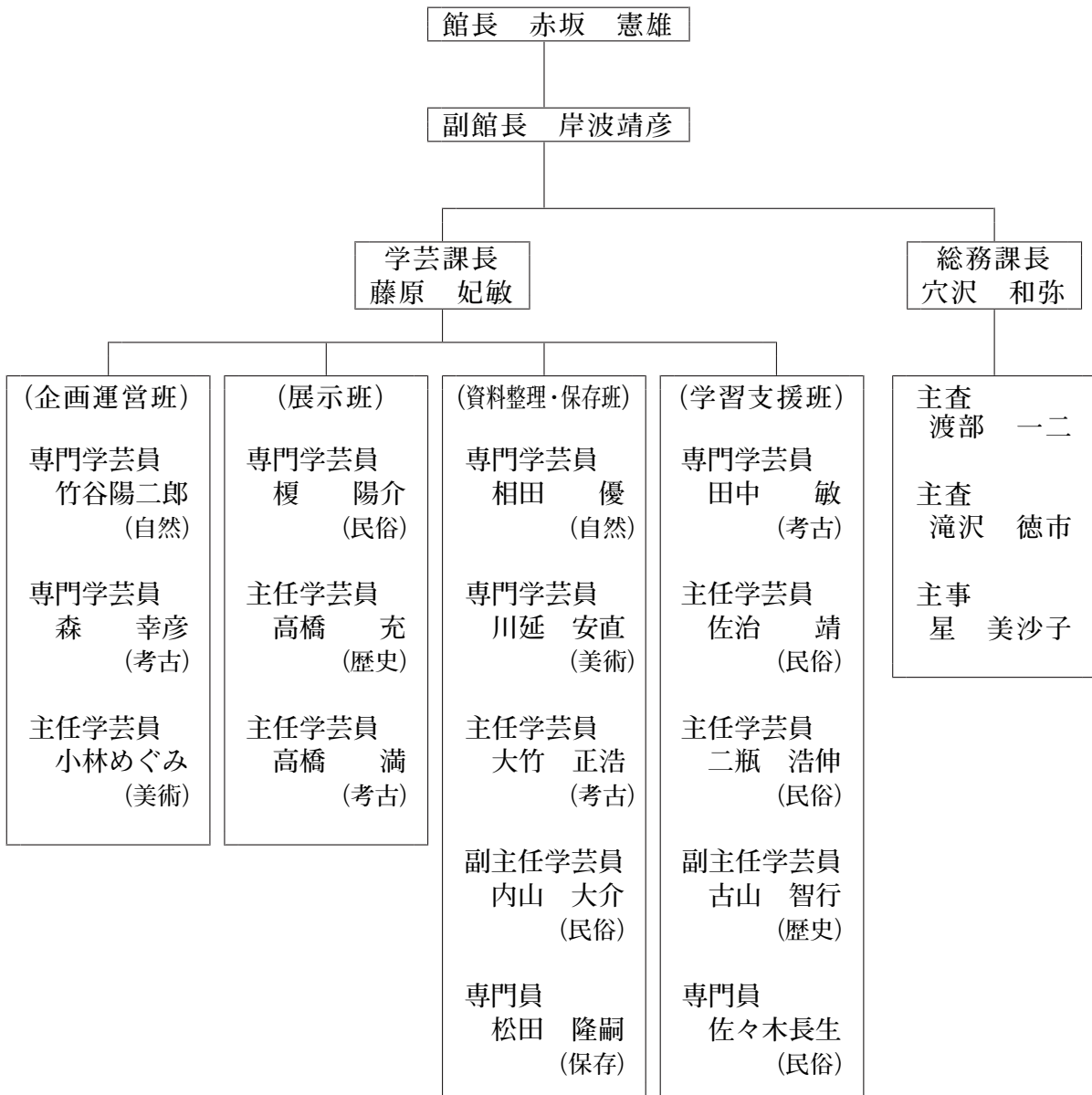
漆器類搬出作業②

III 管理運営

1. 組織・職員

福島県立博物館の組織

(平成23年 8月1日現在)



(定数外)

- 展示解説員 (嘱託) 13名
- 資料整理員 (嘱託) 2名

嘱託員等名簿

職名	氏名	職名	氏名
展示解説員	赤羽 愛	展示解説員	後藤 詩織
	五十嵐 早苗		工藤 日花里
	大坪 千絵美		五十嵐 汐里
	伊関 めぐみ		長谷川 亜樹
	佐藤 彩美		加藤 倫子
	篠原 詩子	資料整理員	竹内 咲
	増井 文夏		山中 綾子
一条 稚子			

2. 予 算

平成23年度は、下表のとおり予算を執行した。

予算執行状況

歳 入

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
使用料及び手数料			7,341
	使 用 料		7,341
		行政財産使用料	426
		建 物 使 用 料	426
		教 育 使 用 料	6,915
		博 物 館 使 用 料	6,915
財 産 収 入			3,343
	財 産 売 払 収 入		3,343
		物 品 売 払 収 入	3,343
		そ の 他 物 品 売 払 代 金	3,343
諸 収 入			920
	雑 入		920
		雑 入	920
		雑 入	920
合 計			11,604

歳 出

(単位：千円)

科 目 (款・項・目・節)			金 額
総 務 費			628
	県 民 生 活 費		628
		県 民 生 活 対 策 費	628
		需 用 費	628
労 働 費			11,756
	雇 用 対 策 費		11,756
		緊 急 雇 用 対 策 費	11,756
		共 済 費	1,485
		賃 金	9,654
		需 用 費	398
		役 務 費	219
教 育 費			180,258
	教 育 総 務 費		3,708
		事 務 局 費	3,708
		報 酬	2,400
		職 員 手 当	1,260
		共 済 費	48
	社 会 教 育 費		176,550
		社 会 教 育 総 務 費	29,477
		報 償 費	6,533
		旅 費	2,336
		需 用 費	7,425
		需 用 費 (食 糧 費)	140
		役 務 費	6,250
		委 託 料	5,663
		使 用 料 及 び 賃 借 料	1,130
	博 物 館 費		147,073
		報 酬	24,461
		共 済 費	3,698
		賃 金	1,478
		報 償 費	444
		旅 費	1,993
		需 用 費	43,558
		需 用 費 (食 糧 費)	14

		役 務 費	3,232
		委 託 料	49,101
		使用料及び賃借料	752
		工事請負費	17,194
		備品購入費	1,021
		負担金、補助及び交付金	61
		公 課 費	66
合 計			192,642

3. 委員会の開催

(1) 運営協議会

ア. 運営協議会委員

博物館の運営に関し館長の諮問に応ずるとともに、館長に対して意見を述べる機関であり、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから10名に委嘱している。また、平成13年1月からは、委員の選考に一部公募方式を導入した。

イ. 会 議

第1回 平成23年6月17日（金）

議題

- ① 会長及び副会長の選出について
- ② 平成23年度事業計画等について
- ③ 県立博物館中期目標の達成状況について

第2回 平成24年2月15日（水）

議題

- ① 平成23年度事業実施概要について
- ② 平成24年度事業計画について

運営協議会委員名簿

区 分	氏 名	役 職 名
学 校 教 育	丹 美 枝	いわき市立泉北小学校長
	滝 沢 玲 子	会津若松市立第六中学校長
	荒 井 光 廣	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社 会 教 育	会 長 富 田 孝 志	(財)福島県文化振興事業団理事長
	五十嵐 純 子	会津若松市南公民館長
学 識 経 験 者	副会長 井 上 禮 子	会津若松市教育委員会委員長
	佐藤 彌右衛門	合資会社 大和川酒造店 代表社員
	長 尾 修	公立大学法人会津大学短期大学部社会福祉学科 非常勤講師
	千 葉 喜久子	公募委員
	半 田 真 仁	公募委員

IV 利用状況

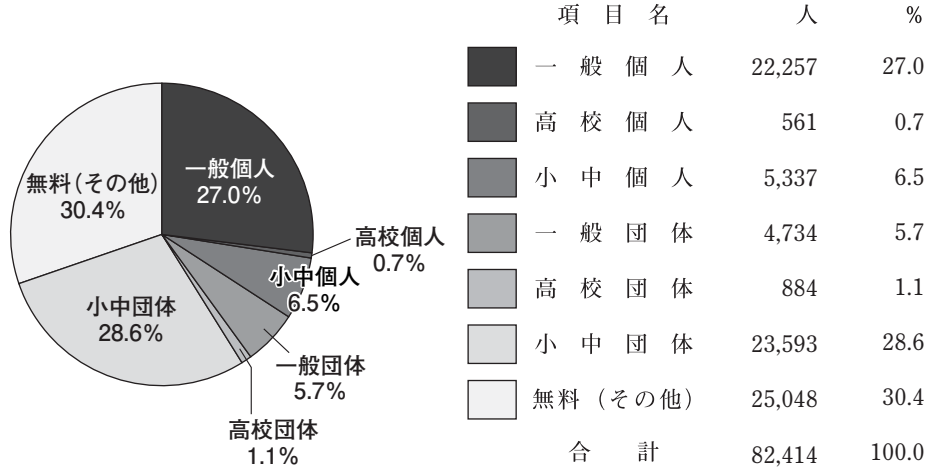
1. 入館者統計

(1) 平成23年度入館者統計

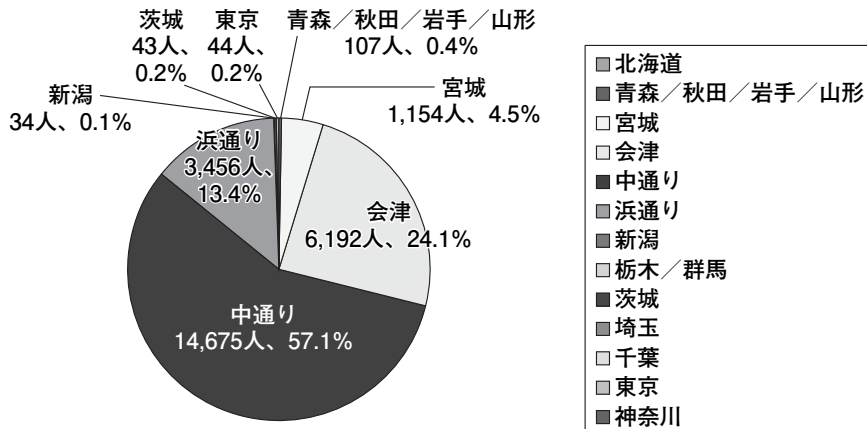
月別区分別入館者数

月別	常設展				企画展			合計		構成比
	日数	有料 人数	無料		日数	有料 人数	無料 人数	日数	人数	
			小中高校生 人数	その他 人数						
4	26	716	810	772				26	2,298	2.8%
5	27	1,548	3,098	1,936				27	6,582	7.9%
6	25	1,117	2,817	1,056				25	4,990	6.1%
7	27	1,326	3,268	963				27	5,557	6.7%
8	27	2,559	1,712	6,776				27	11,047	13.4%
9	25	2,277	12,272	1,423				25	15,972	19.3%
10	26	1,919	3,413	1,428	20	2,564	141	26	9,465	11.5%
11	25	1,462	986	1,277	23	2,560	114	25	6,399	7.8%
12	23	665	322	2,172				23	3,159	3.8%
1	23	554	395	3,331				23	4,280	5.2%
2	25	572	472	5,212	10	667	164	25	7,087	8.6%
3	26	1,236	280	1,490	26	2,148	424	26	5,578	6.8%
合計	305	15,951	29,845	27,836	79	7,939	843	305	82,414	100.0%

入館者内訳



地域別学校団体入館申込者数



(2) 入館者の推移

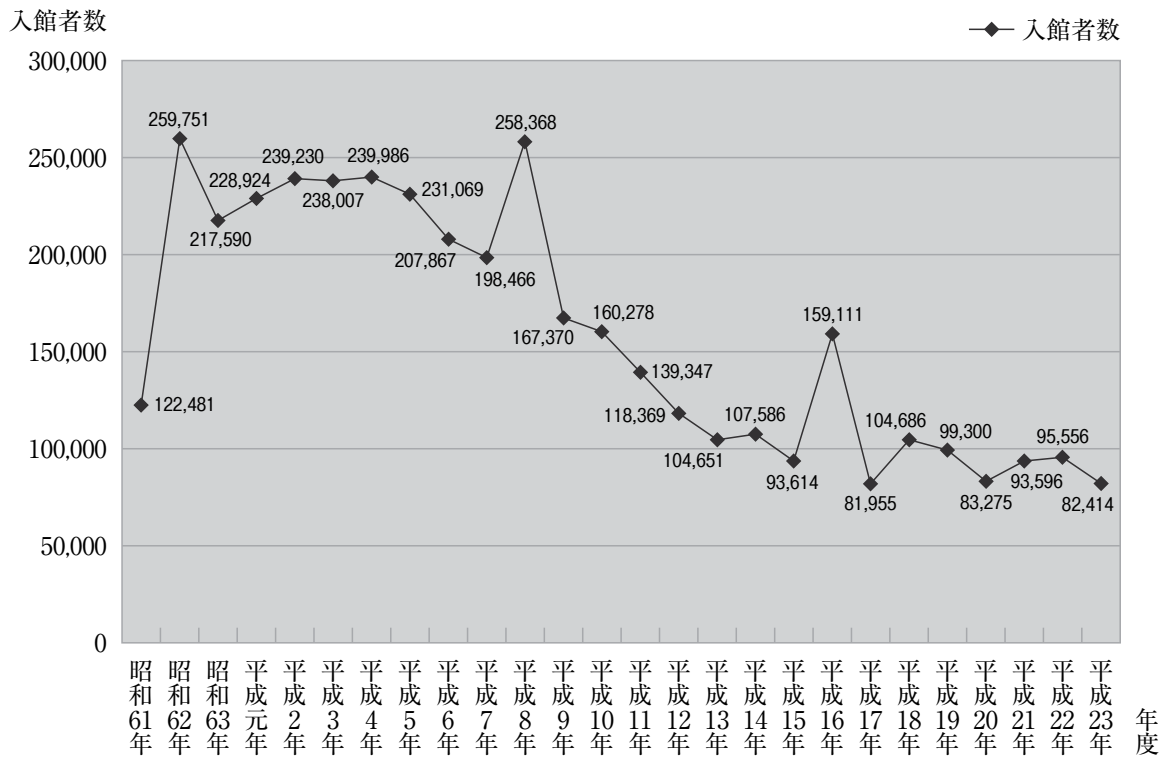
(単位：人)

入館者の推移 (年度別・月別)

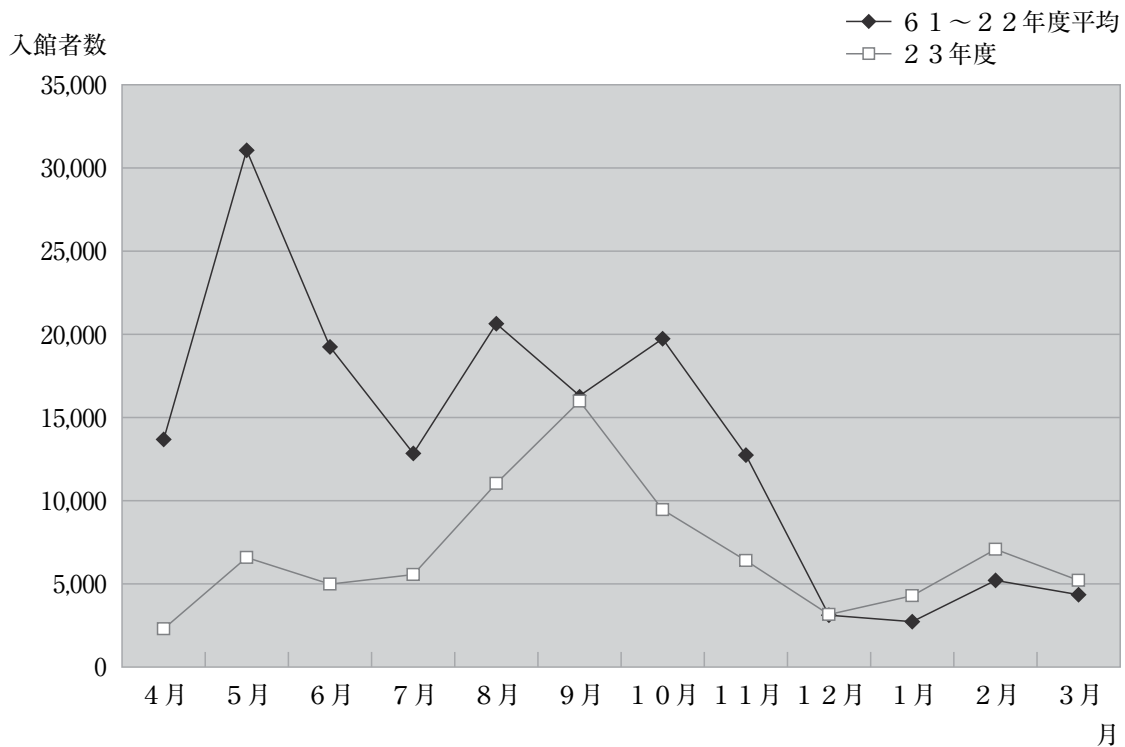
区分	61年	62年	63年	元	2年	3年	4年	5年	6年	7年	8年	9年	10年	11年
4月		25,919	20,561	25,699	22,750	22,851	16,637	17,975	15,320	16,571	12,433	13,521	14,922	13,456
5月		48,367	35,853	52,872	50,265	52,723	56,983	50,452	38,693	42,832	40,138	39,844	34,430	30,999
6月		17,831	14,823	20,356	19,043	23,592	23,841	29,319	20,737	28,622	18,185	22,279	24,933	23,659
7月		23,356	22,651	18,456	24,050	20,340	22,800	21,138	12,328	15,340	9,725	8,036	9,541	9,051
8月		40,749	32,396	31,127	34,218	33,257	37,431	28,490	25,837	23,785	21,495	15,803	16,208	13,607
9月		24,259	20,198	18,248	17,008	21,882	20,334	18,285	16,551	16,428	15,879	13,082	13,794	12,175
10月	31,758	27,099	29,648	26,832	34,201	21,851	18,565	20,022	28,034	20,252	64,772	26,015	18,431	15,696
11月	49,868	27,082	21,234	16,058	18,482	15,682	17,592	15,629	19,857	15,096	50,811	10,290	9,061	7,937
12月	8,860	5,548	4,512	3,369	2,303	3,618	4,028	6,989	7,839	2,048	9,473	2,125	2,395	1,582
1月	6,531	4,010	4,959	4,048	3,813	8,675	5,073	4,993	4,732	2,701	3,141	2,111	3,218	2,714
2月	13,614	7,653	6,350	6,986	5,982	7,006	9,096	9,137	9,197	7,631	6,700	7,578	9,770	4,795
3月	11,850	7,878	4,405	4,873	7,115	6,530	7,606	8,640	8,742	7,160	5,616	6,686	3,575	3,676
合計	122,481	259,751	217,590	228,924	239,230	238,007	239,986	231,069	207,867	198,466	258,368	167,370	160,278	139,347
日数	133	297	296	299	299	298	297	293	296	298	294	295	295	294
日平均	921	875	735	766	800	799	808	789	702	666	879	567	474	393
月平均	20,414	21,646	18,133	19,077	19,936	19,834	19,999	19,256	17,322	16,539	21,531	13,948	13,357	11,612
累計	122,481	382,232	599,822	828,746	1,067,976	1,305,983	1,545,969	1,777,038	1,984,905	2,183,371	2,441,739	2,609,109	2,769,387	2,908,734
区分	12年	13年	14年	15年	16年	17年	18年	19年	20年	21年	22年	23年	平均	
4月	10,539	8,473	8,028	4,899	8,770	8,440	7,019	7,419	6,521	7,977	11,669	2,298	13,227	
5月	21,341	20,267	19,242	13,884	19,287	14,548	11,381	12,271	10,730	13,060	15,085	6,582	30,085	
6月	18,775	16,475	17,211	12,884	16,768	12,008	14,151	25,016	13,011	11,912	16,283	4,990	18,668	
7月	7,127	5,682	4,706	8,732	20,318	7,507	5,246	6,808	7,401	7,356	10,472	5,557	12,549	
8月	13,184	8,451	14,702	10,630	34,732	7,157	10,548	7,148	8,582	14,280	11,658	11,047	20,261	
9月	12,794	13,423	19,901	12,525	35,813	8,787	13,405	10,084	10,326	16,864	9,513	15,972	16,301	
10月	15,609	12,192	10,688	13,000	11,227	11,972	25,464	12,495	11,388	9,211	8,522	9,465	20,554	
11月	8,120	5,825	5,265	7,693	5,440	4,374	9,029	8,261	6,798	6,761	6,280	6,399	14,420	
12月	1,801	5,797	1,078	1,665	2,192	926	1,989	1,938	1,558	1,383	1,637	3,159	3,454	
1月	829	1,412	1,196	1,235	855	1,159	1,468	1,627	1,037	1,127	1,947	4,280	3,034	
2月	5,353	3,836	3,183	3,733	2,019	2,815	2,928	2,943	2,193	1,815	1,796	7,087	5,815	
3月	2,897	2,818	2,386	2,734	1,690	2,262	2,058	3,290	3,730	1,850	694	5,578	4,859	
合計	118,369	104,651	107,586	93,614	159,111	81,955	104,686	99,300	83,275	93,596	95,556	82,414	158,956	
日数	301	303	306	302	302	305	310	306	306	306	293	305		
日平均	393	345	352	310	527	269	338	325	272	306	326	270		
月平均	9,864	8,721	8,966	7,801	13,259	6,830	8,724	8,275	6,940	7,800	7,963	6,868		
累計	3,027,103	3,131,754	3,239,340	3,332,954	3,492,065	3,574,020	3,678,706	3,778,006	3,861,281	3,954,877	4,050,433	4,132,847		

入館者数の推移グラフ（年度別月別）

入館者数の推移 年度別



月別入館状況



(3) 企画展入館者統計

企画展入館者数

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
61	武 家 の 文 化	61.10.18~61.11.16	27日	18,806人	1,967人	4,474人	25,247人
	福 島 の ま つ り	62. 1.17~62. 3. 1	37	6,302	456	755	7,513
	計		64	25,108	2,423	5,229	32,760
62	福 島 の 顔	62. 4.18~62. 6.14	48	13,008	510	7,077	20,595
	植 物 化 石 展	62. 7.18~62. 9.15	51	14,116	1,267	7,149	22,532
	会 津 の 仏 像	62.10.17~62.12.13	49	14,670	440	904	16,014
	陸 奥 の 古 瓦	63. 1.23~63. 3.21	50	4,069	151	291	4,511
	計		198	45,863	2,368	15,421	63,652
63	境 の 神 ・ 風 の 神	63. 4.16~63. 6.12	49	9,804	1,046	5,668	16,518
	江 戸 時 代 の 流 通 路	63. 7.16~63. 9.11	50	16,240	1,502	5,729	23,471
	東 国 の 埴 輪	63.10. 8~63.12.11	54	15,585	1,472	4,702	21,759
	鉱 物 の 世 界	元. 1.21~元. 3.19	49	4,160	470	2,653	7,283
	計		202	45,789	4,490	18,752	69,031
元	縄 文 の 四 季	元. 4.18~元. 6.11	48	13,246	2,293	27,743	43,282
	町 の 成 立 と に ぎ わ い	元. 7. 4~元. 9. 3	54	16,611	1,151	8,120	25,882
	中 通 り の 仏 像	元. 9.22~元.11.26	55	15,356	1,895	6,486	23,737
	東 北 の 陶 磁 史	2. 1.20~ 2. 3.18	50	5,058	151	1,532	6,741
	計		207	50,271	5,490	43,881	99,642
2	垂 欧 堂 田 善 と そ の 系 譜	2. 4.21~ 2. 6.10	44	12,274	2,507	22,522	37,303
	太 古 の 生 き も の た ち	2. 7. 6~ 2. 9. 2	51	17,519	1,407	10,681	29,607
	秀 吉 ・ 氏 郷 ・ 政 宗	2. 9.22~ 2.11.25	55	18,273	2,481	8,516	29,270
	日 本 の 音 色	3. 1.19~ 3. 3.21	53	5,567	149	1,731	7,447
	計		203	53,633	6,544	43,450	103,627
3	シルクロード紀行	3. 4.16~ 3. 6. 9	48	13,878	3,319	27,384	44,581
	縄 文 絵 巻	3. 7.20~ 3. 9.23	57	21,276	1,734	10,548	33,558
	浜 通 り の 仏 像	3.10.10~ 3.12. 8	51	12,293	1,030	3,528	16,851
	ふくしま鉱山のあゆみ	4. 1.18~ 4. 3.15	49	7,626	138	2,043	9,807
	計		205	55,073	6,221	43,503	104,797
4	マンガ文化の源流	4. 4.18~ 4. 6. 4	49	12,151	2,192	27,981	42,324
	恐竜のあるいた道	4. 7.18~ 4. 9.23	57	22,049	1,459	11,772	35,280
	定 信 と 文 晁	4.10.17~ 4.12. 6	43	10,333	1,083	2,549	13,965
	発 掘 ふ く し ま	5. 1.16~ 5. 3.21	55	7,004	338	1,831	9,173
	計		204	51,537	5,072	44,133	100,742
5	明治はじめて物語	5. 4.17~ 5. 6.13	48	12,810	1,542	28,085	42,437
	稲 と く ら し	5. 7.17~ 5. 9.23	58	19,467	1,195	8,349	29,011
	東北からの弥生文化	5.10.16~ 5.12. 5	42	12,436	936	3,178	16,550
	会 津 の 自 然 史	6. 1.22~ 6. 3.21	51	6,928	418	2,350	9,696
	計		199	51,641	4,091	41,962	97,694
6	玉堂と春琴・秋琴	6. 4.23~ 6. 6. 5	37	8,816	346	16,330	25,492
	げんき・病・元気	6. 7.23~ 6. 9.18	49	14,075	1,027	6,232	21,334
	会津大塚山古墳の時代	6.10. 8~ 6.12. 4	48	18,285	751	7,095	26,131
	村 芝 居 の 世 界	7. 1.21~ 7. 3.26	55	7,676	268	2,445	10,389
	計		189	48,852	2,392	32,102	83,346
7	探検員化石ワールド	7. 4.22~ 7. 6.11	44	9,187	1,608	26,208	37,003
	海 の ま く あ け	7. 7.22~ 7. 9.17	50	14,101	1,003	5,889	20,993
	福島1000年時のかたち	7.10. 7~ 7.11.26	43	9,379	1,342	3,417	14,138
	いにしえの木匠	8. 1.20~ 8. 3.24	55	5,760	74	1,907	7,741
	計		192	38,427	4,027	37,421	79,875

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	合 計
8	福島 の 山 岳 信 仰	8. 4.20～ 8. 6. 9	44日	8,931人	976人	12,432人	22,339人
	地震・火山・津波	8. 7.20～ 7. 9.16	51	11,671	443	6,176	18,290
	秀吉と桃山文化	8.10. 5～ 8.11.24	43	45,643	1,583	8,929	56,155
	近代子どもの世界	9. 1.18～ 9. 3.23	54	3,733	130	2,427	6,290
	計		192	69,978	3,132	29,964	103,074
9	縄文たんけん	9. 4.19～ 9. 6. 8	43	5,282	1,164	23,052	29,498
	日本の魚学・水産学事始め	9. 7.19～ 9. 9.15	51	6,396	396	4,082	10,874
	染める	9.10.10～ 9.12.7	51	6,165	118	7,372	13,655
	遠澤と探幽	10. 1.24～10. 3.15	43	5,854	433	775	7,062
	計		188	23,697	2,111	35,281	61,089
10	戦国の城	10. 4.18～10. 6.14	49	8,731	600	19,452	28,783
	発掘ふくしま2	10. 7.18～10. 9.13	50	7,930	484	5,954	14,368
	天の絹糸	10.10.10～10.12.13	55	6,521	133	3,009	9,663
	日本の美	11. 1.26～11. 2.21	23	5,055	101	567	5,723
	計		177	28,237	1,318	28,982	58,537
11	氷河時代	11. 4.17～11. 6.13	49	6,351	680	20,052	27,083
	新弥生紀行	11. 7.17～11. 9.15	43	6,128	409	3,438	9,975
	生の中の死	11.10. 9～11.12.12	54	5,826	225	2,103	8,154
	豊かなる世界へ	12. 1.22～12. 3.20	51	3,426	103	448	3,977
	計		197	21,731	1,417	26,041	49,189
12	集古十種	12. 4.22～12. 6.11	44	4,843	81	7,960	12,884
	海獣パレオパラドキシア	12. 7.15～12. 9.10	49	6,013	363	4,074	10,450
	英雄たちの系譜	12.10. 7～12.12.10	55	5,838	139	3,326	9,303
	安積良斎と門人たち	13. 1.20～13. 3.20	51	2,963	73	115	3,151
	計		199	19,657	656	15,475	35,788
13	食と考古学	13. 4.21～13. 6.10	44	3,330	281	8,964	12,575
	肖像に見る福島を築いた人々	13. 7. 7～13. 8.26	44	3,630	118	1,148	4,896
	武者たちが通る	13. 9.22～13.11.11	44	4,437	385	2,675	7,497
	計		132	11,397	784	12,787	24,968
14	化石芸術	14. 4.27～14. 6.30	56	3,921	552	6,928	11,401
	雪村展	14. 8.10～14. 9.23	39	11,362	169	1,149	12,680
	計		95	15,283	721	8,077	24,081

年度	企画展名	期 間	日 数	一 般	高 校	小 中	無 料	合 計
15	発掘された日本列島2003	15. 7.15～15. 8.13	26日	2,473人	386人	647人	1,424人	4,930人
	発掘ふくしま3	15. 8.20～15. 9.23	30	1,833	40	479	432	2,784
	《笑い》の想像力	15.10.11～15.12. 7	50	3,190	47	456	769	4,462
	計		106	7,496	473	1,582	2,625	12,176
16	戊辰戦争といま	16. 4.17～16. 6.13	49	6,451	190	3,191	1,048	10,880
	アートオブスター・ウォーズ展	16. 7. 3～16. 9.26	75	46,019	5,631	11,234	1,552	64,436
	ふくしまの工芸	16.10.23～16.12. 5	36	2,524	65	182	626	3,397
	計		160	54,994	5,886	14,607	3,226	78,713
17	老い	17. 4.23～17. 6. 5	39	1,732	80	414	814	3,040
	婚 礼	17. 9.23～17.11. 6	39	2,480	45	233	1,020	3,778
	計		78	4,212	125	647	1,834	6,818
18	馬と人との年代記	18. 4.22～18. 6.11	45	1,679	24	801	615	3,119
	布の声をきく	18. 7.22～18. 9. 3	40	2,137	53	284	464	2,938
	徳川将軍家と会津松平家	18. 9.30～18.11. 5	36	14,879	126	1,918	2,560	19,483
	計		121	18,695	203	3,003	3,639	25,540

年度	企画展名	期間	日数	一般	高校	小中	無料	合計
19	樹と竹	19. 7.21~19. 9.17	52日	1,987人	44人	429人	619人	3,079人
	わくわく！化石大集合	19.10. 6~19.11.25	44	2,611	21	1,593	2,233	6,458
	計		96	4,598	65	2,022	2,852	9,537
20	宝の山2008	20. 7.19~20. 9.23	58	3,943	66	1,131	1,070	6,210
	遠藤香山	20.10.11~20.11.24	41	1,619	131	106	973	2,829
	計		99	5,562	197	1,237	2,043	9,039
21	岡本太郎の博物館	21.10.10~21.11.23	40	1,905	9	95	1,371	3,380
	計		40	1,905	9	95	1,371	3,380
22	千少庵と蒲生氏郷	22. 4.17~22. 5.30	39	6,077	27	489	985	7,578
	森に生き山に遊ぶ	22. 6.26~22. 8.22	51	12,588				12,588
	漆のチカラ	22.10. 9~22.11.28	43	2,564	31	159	1,259	4,013
	計		133	21,229	58	648	2,244	24,179
23	保科正之の時代	23.10. 8~23.11.27	43	4,908	28	188	5,124	5,124
	小さなもの集まれ	24. 2.18~24. 3.31	36	2,523	21	271	2,815	2,815
	計		79	7,431	49	459	7,939	7,939

※平成16年度のアート オブ スター・ウォーズ展については高校生の区分は中学生・高校生、小・中学生の区分は小学生と読替え

2. 出版物販売

出版物売上表

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
常設展示図録	1,100	3	4	2	5	10	4	6	8		2	3	8	55	60,500
武家の文化	600	2	1	2					4	4				13	7,800
ふくしまの顔	500									1	1			2	1,000
図陸奥の古瓦	400	1	1		1				3	1	1	1	1	10	4,000
江戸時代の流通路	500	2	6	2		4	1	10	14	1		3	2	45	22,500
鉱物の世界	400	1	2	1	2		2	1		2	2			13	5,200
縄文の四季	500	3	1		1	1	1		1				3	11	5,500
まちの成立とにぎわい	500	1	1	1			2	1					2	8	4,000
垂欧堂田善とその系譜	1,000		1	1			2							4	4,000
太古の生きものたち	500	1	2						1	1				5	2,500
日本の音色	800													0	0
シルクロード紀行	1,000						1							1	1,000
縄文絵巻	800	2				2	4	1	1		1		3	14	11,200
浜通りの仏像	500	1	2				2		3	3	2			13	6,500
ふくしま鉱山のあゆみ	800	5	5				1		1		2	1		15	12,000
マンガ文化の源流	1,000		1				2			1			1	5	5,000
恐竜のあるいた道	500									1				1	500
定信と文晁	1,000	1		1		1	2	3	1		1	3		13	13,000
明治はじめて物語	500	3	2	1	1			1	7					15	7,500
稲とくらし	800	2	1	2		1	2	1	1				2	12	9,600
東北からの弥生文化	800	1	1	1					1				1	5	4,000
会津の自然史	800	2			1	2		1		1	1		1	9	7,200
玉堂と春琴・秋琴	1,100		1	1			1		1					4	4,400
げんき・病・元気	800	1							4	3				8	6,400
村芝居の世界	900	1		1			1			1			1	5	4,500
探検員化石ワールド	800	1	1	1						1			1	5	4,000
海のまくあけ	800													0	0
福島1000年時のかたち	900	1												1	900
いにしえの木の匠	600		1	1	1	1			3					7	4,200
福島の山岳信仰	800	1	1	1	1	1				2			3	10	8,000
地震・火山・津波	500	6	7	3	1	2		1	2	1	2		1	26	13,000

書籍名	単価	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	金額
近代子どもの世界	900	2	1			1		1	3		1	1		10	9,000
縄文たんけん	900			2	3	3	1		1	2			1	13	11,700
日本の魚学・水産学事始め	500						1			1				2	1,000
染める	600	1	1	1					1			1	2	7	4,200
遠澤と探幽	1,300	1	1	1	1									4	5,200
戦国の城	800	1	3	4	2	4	3	8	18			1	1	45	36,000
天の絹糸	1,300	2	1		1				1		11		2	18	23,400
日本の美	800		1					1	1					3	2,400
氷河時代	700	2					2							4	2,800
新弥生紀行	1,100	1			1	2	1							5	5,500
生の中の死	900	1	1	1	2	2	2	3	4	6			5	27	24,300
豊かなる世界へ	600	1	1	3	11	2			4	1		1	5	29	17,400
集古十種	1,100	2	1	2	1			2	3	2		4		17	18,700
海獣パレオパラドキシア	600		1							2	1			4	2,400
英雄たちの系譜	500			1					1	2	1		2	7	3,500
食と考古学	500		1	2	3	6	1	1	1				1	16	8,000
肖像に見る福島を築いた人々	900	1	1	2				1	1					6	5,400
武者たちが通る	400	2	4	1		2		7	11	1	1		1	30	12,000
発掘ふくしま3	1,100	1		2	1	2	1				1			8	8,800
笑いの想像力	2,000			1						1				2	4,000
老い	2,000	1		1						1				3	6,000
婚	1,500	6								2		3	3	14	21,000
馬と人との年代記	1,600	4	1	3		1					1			10	16,000
布の声をきく	1,300	2		3	3	1	1	1	4	1	1	3	4	24	31,200
徳川將軍家と会津松平家	1,200	2		3	2	8	3	42	62	4	1	2	3	132	158,400
樹と竹	1,200		3	58								1	2	64	76,800
わくわく!化石大集合	800	2	3					2	1				1	9	7,200
会津磐梯山	1,000	1		5		2	2	8	10	2	1		1	32	32,000
遠藤香村	1,500	1	1		1			2	1		1	1		8	12,000
岡本太郎の博物館	1,000													0	0
千少庵と蒲生氏郷	500	4	3			3		3	8	1	1	2		25	12,500
漆のチカラ	800	1		1	5	4	1	1	3	1		2	2	21	16,800
福島の土偶	500	3	1	2	3	6	2	6		2	2	1	1	29	14,500
保科正之の時代	1,000							332	292	15	6	11	8	664	664,000
千少庵と蒲生氏郷	500	4	3			3		3	8	1	1	2		25	12,500
漆のチカラ	800	1		1	5	4	1	1	3	1		2	2	21	16,800
福島の土偶	500	3	1	2	3	6	2	6		2	2	1	1	29	14,500
保科正之の時代	1,000							332	292	15	6	11	8	664	664,000
小さなもの集まれ	500											177	262	439	219,500
紀要(数量)		5	17	9	4	3	7	1	22		6	3	4	81	
紀要(金額)		5,500	22,900	16,000	6,300	5,800	10,800	800	34,300		9,500	4,100	4,900		120,900
ふくしまの仏像(仏像図説)	1,300	1		1	1		1		1		1			6	7,800
福島の古墳	1,200	2	5	3	4	3	1	2	3		1		5	29	34,800
福島の化石	1,500	1	2				1	3	1					8	12,000
戦時下の福島	800	2			1	1	2				1			7	5,600
福島の年中行事	1,100	1											2	3	3,300
ガイドブック	300	1	3	2	5	15	5	9	4	4	2	1	3	54	16,200
手引き(小)	700									1				1	700
常世原田遺跡	600	1	1											2	1,200
ふくしまの農具	1,000	2							1		1	1		5	5,000
報告書(数量)		11	12	5	8	11	5	15	9		1	8	4	89	0
報告書(金額)		11,900	11,400	6,800	7,800	10,600	6,200	17,700	8,100		1,500	7,300	3,300	92,600	92,600
絵葉書	50	8	27	49	12	22	18	29	62	1	12			240	12,000
クリアホルダー	200	4	7	2	5	14	14	5	4	3	1	5	2	66	13,200
合計		126	146	192	94	143	103	511	594	80	71	240	357	2,657	2,058,800
各月売り上げ		104,900	99,750	157,450	67,900	90,300	69,000	468,250	518,200	63,150	58,700	146,100	215,100		2,058,800

V 法 規

福島県立博物館条例

(昭和61年3月25日条例第30号)

(設 置)

第1条 博物館法（昭和26年法律第285号）第18条、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第30条及び地方自治法（昭和22年法律第67号）第244条第1項の規定に基づき、県民の教育、学術及び文化の発展に寄与するため、福島県立博物館（以下「博物館」という。）を設置する。

(位 置)

第2条 博物館は、会津若松市城東町8番地に置く。

(業 務)

第3条 博物館において行う業務は、次のとおりとする。

- 1 歴史、考古、民俗、美術工芸、自然等に関する実物、標本、模写、模型、文献、図表、写真、フィルム、レコード等の資料（以下「博物館資料」という。）を収集し、保管し、及び展示すること。
- 2 博物館資料に関する専門的、技術的な調査研究を行うこと。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、研究会等を開催すること。
- 4 博物館資料の利用に関し必要な説明、助言、指導等を行うこと。
- 5 前各号に掲げるもののほか、その設置の目的を達成するために必要な業務を行うこと。

(観覧料)

第4条 博物館の展示品（以下「展示品」という。）を観覧しようとする者は、別表に定める額の観覧料を納めなければならない。

(観覧料の免除)

第5条 知事は、公益上の必要があると認めるときは、規則で定めるところにより、観覧料の全部又は一部を免除することができる。

(観覧料不返還の原則)

第6条 既納の観覧料は、返還しない。ただし、規則で定める場合は、その全部又は一部を返還することができる。

(遵守事項)

第7条 博物館を利用する者は、次に掲げる事項を遵守しなければならない。

- 1 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損しないこと。
- 2 物品を販売し、又は頒布しないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 3 展示品の模写、模造、撮影等を行わないこと（教育委員会の許可を受けた場合を除く。）。
- 4 所定の場所以外において、喫煙及び飲食を行わないこと。
- 5 他の利用者に危害又は迷惑を及ぼす行為をしないこと。
- 6 前各号に掲げるもののほか、管理上教育委員会が指示する事項

(入館の規制等)

第8条 教育委員会は、次の各号のいずれかに該当する者に対し、入館を拒否し、又は退館若しくは退去を命ずることができる。

- 1 前条の規定に違反した者
- 2 博物館の施設若しくは設備、展示品等をき損し、又は汚損するおそれのある者
- 3 館内の秩序を乱し、又はそのおそれのある者

(職 員)

第9条 博物館に事務職員、技術職員その他の所要の職員を置く。

(委 任)

第10条 この条例に定めるもののほか、博物館の管理その他この条例の施行に関して必要な事項は、教育委員会が定める。

附 則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（平成9年3月25日条例第52号）

この条例は、平成9年4月1日から施行する。

附 則（平成11年12月24日条例第93号）

この条例は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日条例第53号）

この条例は、平成15年4月1日から施行する。

別表（第4条関係）

区 分	普通観覧料の額（一人当たり）		特 別 観 覧 料 の 額
	個 人	団 体	
一 般（大 学 生 を 含 む。）	260円	210円	その都度知事が定める額
高 校 生 及 び こ れ に 準 ず る 者	無 料	無 料	その都度知事が定める額
中 学 生 及 び 小 学 生	無 料	無 料	その都度知事が定める額

備考

- 1 「普通観覧料」とあるのは、常設展の展示品のみを観覧する場合の観覧料をいい、「特別観覧料」とあるのは、企画による展示品を観覧する場合の観覧料をいう。
- 2 「団体」とあるのは、20人以上の団体をいう。

福島県立博物館運営協議会条例

(昭和61年3月25日 条例第31号)

(設置)

第1条 博物館法(昭和26年法律第285号)第20条第1項の規定に基づき、福島県立博物館(以下「博物館」という。)の適正な運営を図るため、福島県立博物館運営協議会(以下「協議会」という。)を置く。

(組織)

第2条 協議会の委員(以下「委員」という。)の定数は、10人以内とする。

(委員の任命及び任期)

第3条 委員は、学校教育及び社会教育の関係者並びに学識経験のある者のうちから、教育委員会が任命する。

2 委員の任期は、2年とする。ただし、補欠の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

3 委員は、再任されることができる。

(会長及び副会長)

第4条 協議会に会長及び副会長各1人を置き、委員の互選により定める。

2 会長は、協議会を代表し、会務を総理する。

3 副会長は、会長を補佐し、会長に事故があるとき又は会長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会議)

第5条 協議会の会議は、会長が招集する。

2 協議会の会議は、委員の過半数が出席しなければ開くことができない。

3 協議会の議事は、出席した委員の過半数をもって決し、可否同数のときは、会長の決するところによる。

(庶務)

第6条 協議会の庶務は、博物館において処理する。

(雑則)

第7条 この条例に定めるもののほか、協議会の運営に関し必要な事項は、会長が協議会に諮って定める。

附則

この条例は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例施行規則

(昭和61年3月25日教育委員会規則第5号)

(休館日)

第1条 福島県立博物館(以下「博物館」という。)の定期の休館日は、次のとおりとする。

1 月曜日。ただし、その日が国民の祝日に関する法律(昭和23年法律第178号)に規定する休日(次号において「休日」という。)に当たるときを除く。

2 休日の翌日。ただし、その日が土曜日、日曜日又は休日に当たるときを除く。

3 1月1日から同月4日まで

4 12月28日から同月31日まで

2 博物館の長(以下「館長」という。)は、必要があると認めるときは、臨時に休館し、又は臨時に開館することができる。

(開館時間)

第2条 博物館の開館時間は、午前9時30分から午後5時までとする。ただし、館長は、必要があると認めるときは、これを臨時に変更することができる。

(観覧手続)

第3条 館長は、福島県立博物館条例(昭和61年福島県条例第30号。以下「条例」という。)第4条の規定により観覧料を納入した者に対し、観覧券(様式第1号)を交付するものとする。

(観覧料の免除及びその手続)

第4条 館長は、条例第5条の規定により、次の表の上欄に掲げる場合における普通観覧料について、同表の下欄に掲げる額を免除するものとする。

普通観覧料を免除する場合	免除する額
1 大学生(これに準ずる者として福島県教育委員会教育長(以下「教育長」という。)が別に定める者を含む。)及びその引率者並びに高校生、中学生及び小学生(これらに準ずる者として教育長が別に定める者を含む。)の引率者が、学校教育に基づく活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
2 県、又は市町村が主催する講習会、講座等の活動として観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の100分の50に相当する額(引率者にあつては全額)

3 国民の祝日に関する法律第2条に定めるこどもの日、敬老の日及び文化の日に観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
4 知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証の交付を受けている者が観覧するとき。	条例別表に定める普通観覧料の額の全額
5 その他免除することが公益上適当と認めるとき。	教育長が別に定める額

2 観覧料の免除を受けようとする者（前項の表の第3号又は第4号のいずれかに該当する場合に観覧料の免除を受けようとする者を除く。）は、前項の表の第1号又は第2号に該当する場合にあっては観覧しようとする日の3日前まで、第5号に該当する場合にあっては10日前までに観覧料免除申請書（様式第2号）を館長に提出し、その承認を受けなければならない。

3 館長は、前項の規定により観覧料の免除を承認したときは、観覧料免除承認書（様式第3号）を交付するものとする。
（観覧料の返還）

第5条 館長は、次の各号のいずれかに該当する場合は、それぞれ当該各号に定めるところにより、観覧料の全部又は一部を返還するものとする。

- 1 観覧しようとする者の責めによらない理由により観覧することができなくなったとき。全額
 - 2 その他やむを得ない理由があると認めるとき。教育長が別に定める額
- 2 観覧料の返還を受けようとする者は、観覧料返還申請書（様式第4号）に観覧券を添えて、館長に提出しなければならない。

（博物館資料の特別利用）

第6条 博物館が所蔵し、又は寄託を受けている博物館資料を学術上の研究その他の目的のため特に利用しようとする者は、館長の承認を受けなければならない。

（教育長への委任）

第7条 この規則に定めるもののほか、博物館の管理その他この規則の施行に関し必要な事項は、教育長が定める。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附 則（昭和63年3月25日教育委員会規則第9号）

この規則は、昭和63年4月1日から施行する。

附 則（平成4年7月28日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成4年9月1日から施行する。

附 則（平成7年3月31日教育委員会規則第15号）

この規則は、平成7年4月1日から施行する。

附 則（平成8年3月29日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成8年4月1日から施行する。

附 則（平成8年8月20日教育委員会規則第20号）

この規則は、平成8年10月1日から施行する。

附 則（平成12年3月31日教育委員会規則第16号）

この規則は、平成12年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月26日教育委員会規則第14号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

附 則（平成15年3月24日教育委員会規則第3号）

この規則は、平成15年4月1日から施行する。

様式第1号（第3条関係）

観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館	観 覧 券 （ 観 覧 者 の 区 分 ） （ 金 額 ） 福 島 県 立 博 物 館
--	--

備考 寸法、デザイン等については、その都度定める。

様式第2号(第4条関係)

福島県立博物館長

年 月 日

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者
観覧料免除申請書

印

次の理由により観覧料を免除してください。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
引率者の職及び氏名	職	氏名		
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	免 除 率	免 除 金 額	免 除 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり承認してよろしい。				第 年 月 日
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

様式第3号(第4条関係)

様

第 号
年 月 日

福島県立博物館長

印

観覧料免除承認書

観覧料の免除について、次のとおり承認します。

観覧目的				
観覧日時	年 月 日	時	分から	分まで
観覧者の種別 及び人数	一 般	人	その他()	人
	大 学 生		()	
	高 校 生			
	中 学 生		引 率 者	
	小 学 生		合 計	
免除申請の理由				
注 意 事 項				
観 覧 料	免 除 率	免 除 金 額	円	
円		円		

様式第4号(第5条関係)

福島県立博物館長

年 月 日

住所又は所在地
氏名又は名称及
び代表者の氏名
申請者
観覧料返還申請書

印

次の理由により観覧料を返還してください。

展覧会の名称				
観覧料の納入月日	年 月 日			
既納観覧料の 区分及び金額	区	分	人	金 額
			人	円
	合	計		
返還を申請する理由				
連絡先及び電話番号	電話 ()			
観覧料	返 還 率	返 還 金 額	返 還 の 根 拠	
※ 円 ※		※ 円 ※		
上記のとおり返還してよろしい。				
館 長	副 館 長	総務課長	主 任	
受 付 月 日	・	・	決 裁 月 日	・

(注) ※印の欄は、記入しないこと。

福島県立博物館組織規則

(昭和61年3月25日 教育委員会規則第6号)

(目的)

第1条 この規則は、福島県立博物館（以下「博物館」という。）の組織に関して必要な事項を定めることを目的とする。

(課)

第2条 博物館に次の課を置く。

総務課

学芸課

(事業分掌)

第3条 総務課においては、次の事務を行う。

- 1 館内事務の総合調整及び企画調査に関すること。
- 2 公印の管理に関すること。
- 3 人事に関すること。
- 4 文書の収受、発送、編集及び保存に関すること。
- 5 予算の編成、経理及び執行に関すること。
- 6 物品の調達及び処分に関すること。
- 7 財産の管理に関すること。
- 8 観覧料の徴収に関すること。
- 9 福島県立博物館運営協議会に関すること。
- 10 前各号に掲げるもののほか、他課の所掌に属しない事務に関すること。

2 学芸課においては、次の事務を行う。

- 1 博物館資料の収集、保管、展示及び利用に関すること。
- 2 博物館資料に関する調査及び研究に関すること。
- 3 博物館資料に関する講演会、講習会、映写会、研究会等の開催に関すること。
- 4 博物館資料に関する解説書、年報、調査研究報告書等の作成に関すること。
- 5 博物館資料に関する相談、情報提供その他博物館資料に関する教育の普及に関すること。
- 6 国立博物館、公立博物館その他の教育機関及び関係団体との連絡提携に関すること。
- 7 前各号に掲げるもののほか、博物館資料に関する専門的事項に関すること。

(館長)

第4条 博物館に館長を置く。

- 2 館長は、上司の命を受け、博物館の事務を掌理し、所属職員を指揮監督する。

(副館長)

第5条 博物館に副館長を置く。

- 2 副館長は、館長を補佐し、博物館の事務を整理する。

(課長)

第6条 博物館の課に課長を置く。

- 2 課長は、上司の命を受け、課の事務を処理し、所属職員を指揮監督する。

第7条 削除

(学芸員等)

第8条 博物館に主任専門学芸員、専門学芸員、主任学芸員、副主任学芸員及び学芸員を置く。

- 2 主任専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の高度な学芸事務を処理する。
- 3 専門学芸員は、上司の命を受け、館長が定める特定の学芸事務を処理する。
- 4 主任学芸員は、上司の命を受け、担任の学芸事務を処理する。
- 5 副主任学芸員は、上司の命を受け、高度な学芸事務をつかさどる。
- 6 学芸員は、上司の命を受け、学芸事務をつかさどる。

(主任主査その他の職)

第9条 博物館に、第4条から前条までに規定する職のほか、必要に応じ、次の表の上欄に掲げる職を置き、その職の職務は、それぞれ同表の当該下欄に掲げるとおりとする。

職	職務
主任主査	上司の命を受け、館長が定める特定の事務を処理する。
主査	上司の命を受け、担任の事務を処理する。
副主査	上司の命を受け、高度な事務をつかさどる。
主事	上司の命を受け、事務をつかさどる。
専門員	上司の命を受け、担任の専門的業務に従事する。

附則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

附則(平成6年3月15日教育委員会規則第4号)

この規則は、平成6年4月1日から施行する。

附則(平成13年3月27日教育委員会規則第6号)

この規則は、平成13年4月1日から施行する。

附 則（平成14年3月29日教育委員会規則第18号）

この規則は、平成14年4月1日から施行する。

福島県立博物館条例に基づく知事の権限を福島県教育委員会に委任する規則

（昭和61年3月25日 福島県規則第11号）

福島県立博物館条例（昭和61年福島県条例第30号）第5条、第6条ただし書き及び別表に規定する知事の権限は、福島県教育委員会に委任する。

附 則

この規則は、昭和61年4月1日から施行する。

福島県立博物館収集展示委員会設置要綱

（設 置）

第1条 福島県立博物館に収蔵する博物館資料（以下「資料」という。）の収集並びに展示計画について審議するため、福島県立博物館収集展示委員会（以下「委員会」という。）を設置する。

（組織等）

第2条 委員会は12人以上の委員を持って構成する。

2 委員は学識経験者のうちから福島県立博物館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

3 委員会に委員長及び副委員長を置く。委員長及び副委員長は委員の互選により選出する。

4 委員長は委員会を代表し、会務を掌握する。副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故あるときはその職務を代理する。

（会 議）

第3条 委員会は必要のつど館長が招集する。

2 委員会は資料収集の適否及び展示計画等について審議し、その結果を館長に報告する。

3 委員会は特に必要がある場合、委員以外の専門的分野に関する学識経験者の指導及び助言を求めることができる。

（展示計画作成委員）

第4条 委員会は展示計画原案作成のため、委員のうちから6人の展示計画作成委員（以下「展示委員」という。）を選任する。

2 展示委員は次の任務を遂行する。

（1）展示計画原案の作成

（2）展示計画作成のための基礎的資料の収集

（3）展示計画作成に関する専門的指導

（任 期）

第5条 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

（庶 務）

第6条 委員会の庶務は、福島県立博物館において処理する。

（その他）

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は委員長が定める。

附 則

この要綱は、昭和56年5月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正

福島県立博物館資料所在調査要領

1) 調査の目的

福島県内に散在する考古、歴史、民俗美術工芸等の資料について、その所在及び内容を把握し、県立博物館の活動のための基礎データを得ることを目的とする。

2) 調査の実施

（1）調査員

イ) 調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から館長が委嘱する。

ロ) 委嘱期間は、4月1日から3月31日までの1年間とする。

（2）調査の内容

資料の種類、形状、用途、数量、由来、時代、保存状況、所有者等について調査する。

(3) 調査の時期

4月1日から3月31日とする。

(4) 調査カードの作成・提出

調査員は、調査資料についてカードを作成し、福島県立博物館に提出する。

福島県立博物館資料調査員設置要綱

(設 置)

第1条 福島県立博物館の収集、展示、研究等に関する基礎データを得るため福島県立博物館資料調査員（以下「資料調査員」という。）を置く。

(選 任)

第2条 資料調査員は、各地域の歴史に精通した研究者の中から、福島県立博物館館長（以下「館長」という。）が委嘱する。

(職 務)

第3条 資料調査員は、福島県内に散在する考古、歴史、民俗、美術工芸等の資料について、所在及び内容を調査し、その結果を館長に報告する。

(任 期)

第4条 資料調査員の任期は1年とする。

2 補欠によって選任された委員の任期は、前任者の残任期間とする。

(補 足)

第5条 この要綱に定めるもののほか、必要な事項は別に定める。

附 則

この要綱は、昭和55年4月1日から施行する。

昭和61年4月1日一部改正。

福島県立博物館友の会規約

(名 称)

第1条 本会の名称は、福島県立博物館友の会という。

(目 的)

第2条 本会は、博物館活動に協力するとともに、会員が「福島県の歴史と文化・自然」についての研修を深め、会員相互の親睦をはかり、あわせて博物館活動の普及発展に寄与することを目的とする。

(事 業)

第3条 本会は次の事業を行う。

- 1 広報活動
- 2 講演会・研修会等の開催
- 3 博物館に関連する事業への協力
- 4 図書等の斡旋等の事業
- 5 その他必要な事業

(会員及び会費)

第4条 会員の種類は次のとおりとし、会員には会員証を交付する。

- ① 個人会員 本会の目的に賛同し、年額2,000円を納めた個人。
 - ② 家族会員 本会の目的に賛同し、年額3,000円を納めた生計を一にする家族。
 - ③ 高校生会員 本会の趣旨に賛同し、年額500円を納めた高校生個人。
 - ④ 賛助会員 本会の目的に賛同し、特に会の発展に協力するため、年間10,000円を納めた個人及び団体。
- 2 会員の期間は、入会の年4月1日から翌年の3月31日までの1年間とする。
- 3 会員が退会した場合であっても、既に納入した会費はこれを返還しない。

(会員の特典)

第5条 会員は次の特典を受けることができる。

- 1 博物館の展示を観覧する場合に、特別な便宜を受けることができる。
- 2 会報、博物館だより、博物館の各種催しの案内等の情報の提供を受けることができる。
- 3 会の事業に参加することができる。
- 4 会員が歴史や文化等の研究に際し、指導を受けることができる。

(役 員)

第6条 本会に次の役員を置く

会	長	1名
副	会 長	若干名
幹	事	若干名
監	事	2名

2 幹事のうち1名は、福島県立博物館学芸課長の職にある者を充てる。

(役員の出選及び任期)

第7条 役員は総会において選出し、任期は2年とする。ただし再任は妨げない。

2 補欠のため任ぜられた役員は、前任者の残任期間とする。

(役員職務)

第8条 会長は、本会を代表し、会務を総理する。

2 副会長は、会長を補佐し、会長事故あるときは、その職務を代理する。

3 幹事は、本会の会務を運営し、その実務に携わる。

4 監事は、本会の会計を監査する。

(会議)

第9条 総会は、毎年1回会長が招集し、事業計画、予算、決算、役員選任、その他重要事項をはかるものとする。

2 役員会は、必要のつど会長が招集する。

3 総会及び役員会の議長は、会長があたるものとする。

4 議事は、出席者の過半数により決する。

(顧問)

第10条 本会は、顧問をおくことができる。顧問は、役員会の承認を得て、会長が委嘱する。

(会計年度)

第11条 本会の会計年度は、毎年3月1日に始まり、翌年2月末日に終わるを原則とする。

2 本会の経費は、会費、寄付金、事業収入等をもってあてるものとする。

(事務局)

第12条 本会の事務を処理するための事務局を、福島県立博物館内に置くものとする。

2 本会の事務局員は会長が委嘱する。

(その他)

第13条 本規約に定めるもののほか、本会の運営に関し必要な事項については、会長が別に定める。

附 則

1 この規約は、平成元年4月1日から施行する。

2 この規約は、平成3年4月1日から施行する。(第6条第2項関係)。

3 この規約は、平成5年4月1日から施行する。(第4条第1項②関係)。

4 この規約は、平成7年4月1日から施行する。(第11条第1項、第12条第1項関係)。

5 この規約は、平成8年4月1日から施行する。(第4条第1項③関係)。

6 この規約は、平成11年4月1日から施行する。(第6条第1項関係)。

7 この規約は、平成23年3月1日から施行する。(第11条第1項関係)

VI 施設の概要

1. 建築概要

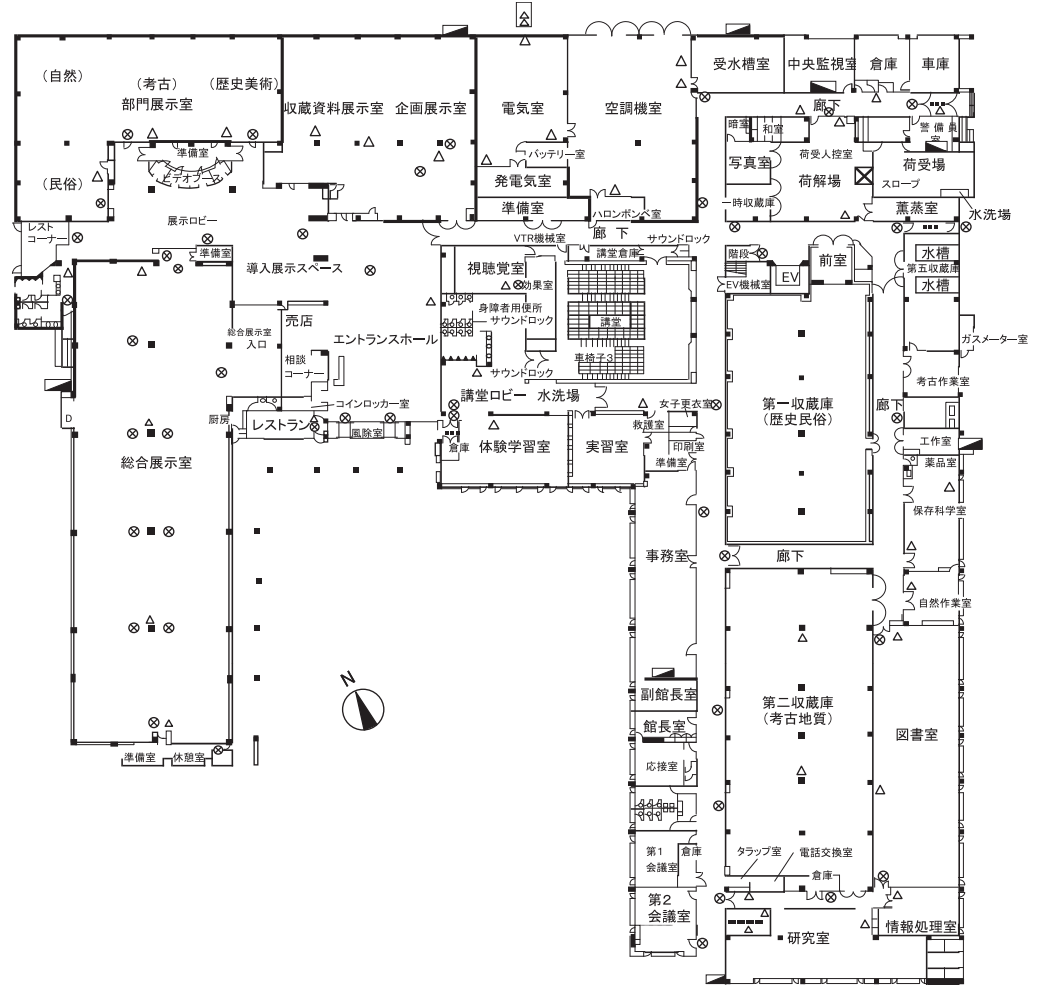
<p>設計者 (株)佐藤武夫設計事務所 工事監理 福島県会津若松建設事務所 (株)佐藤武夫設計事務所 施工者 建築本体工事 福島県立博物館(本体)工事 清水建設(株)・会津土建(株)・秋山建設(株) 共同企業体 電気設備工事 福島県立博物館建設(電気設備)工事 六興電機(株)・吉田電工(株)共同企業体 空気調和設備工事 福島県立博物館建設(空気調和設備) 工事 新日本空調(株)・若松ガス工業(株) 共同企業体 火災報知その他設備工事 福島県立博物館建設(火災報知その他 設備)工事 (株)富士工業商会 給排水衛生設備工事 福島県立博物館建設(給排水衛生設備) 工事 (株)共立配管工業所 昇降機設備工事 福島県立博物館建設(昇降機設備)工事 ダイコー(株)</p>	<p>構造 主体構造 鉄骨鉄筋コンクリート造 一 部鉄骨造 基礎構造 場所打ちコンクリート杭 外部仕上げ 屋根 厚0.6硫化銅板 特殊一文字葺 外壁 特焼磁器質タイル打込プレキャスト コンクリート板 建具 アルミ断熱サッシ電解着色仕上げ 内部仕上げ (エントランスホール・展示ロビー) 床 花崗岩ジェットバーナー仕上げ 壁 凝灰岩リブ付厚40㎜ 天井 練付合板 クリアラッカー仕上げ (総合展示室) 床 カーペットタイル 壁 プラスターボード厚12㎜ 天井 アルミ特殊ルーバー天井 (講 堂) 床 カーペットタイル 壁 凝灰岩 リブ付 天井 練付合板 アクリルラッカー仕上げ (第1・3・6収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12㎜ 壁 杉板厚12㎜ ヒブクラハギ張 天井 杉板厚12㎜ 本実張 (第2収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第4収蔵庫) 床 ブナフローリングボード厚12㎜ 壁 化粧珪酸カルシウム板 天井 化粧珪酸カルシウム板 (第5収蔵庫) 床 コンクリート塗り床 壁 プラスターボード 天井 化粧珪酸カルシウム板</p>
<p>面積 敷地面積 37,269.6㎡ 建築面積 10,986.23㎡ 延面積 11,071.44㎡ 1 階 9,980.45㎡ 2 階 1,090.99㎡</p>	<p>工期 着工 昭和59年7月7日 完成 昭和61年3月25日</p>
<p>建築事業費 6,451,641千円 内訳 建物本体 4,623,714 展示工事 1,257,500 外構工事 368,688 その他庁用備品等 201,739</p>	
<p>規模 地上2階 最高の高さ 20.6m 最高の軒高 13.6m 地域地区 住居地域 風致地区第1種</p>	

2. 設備

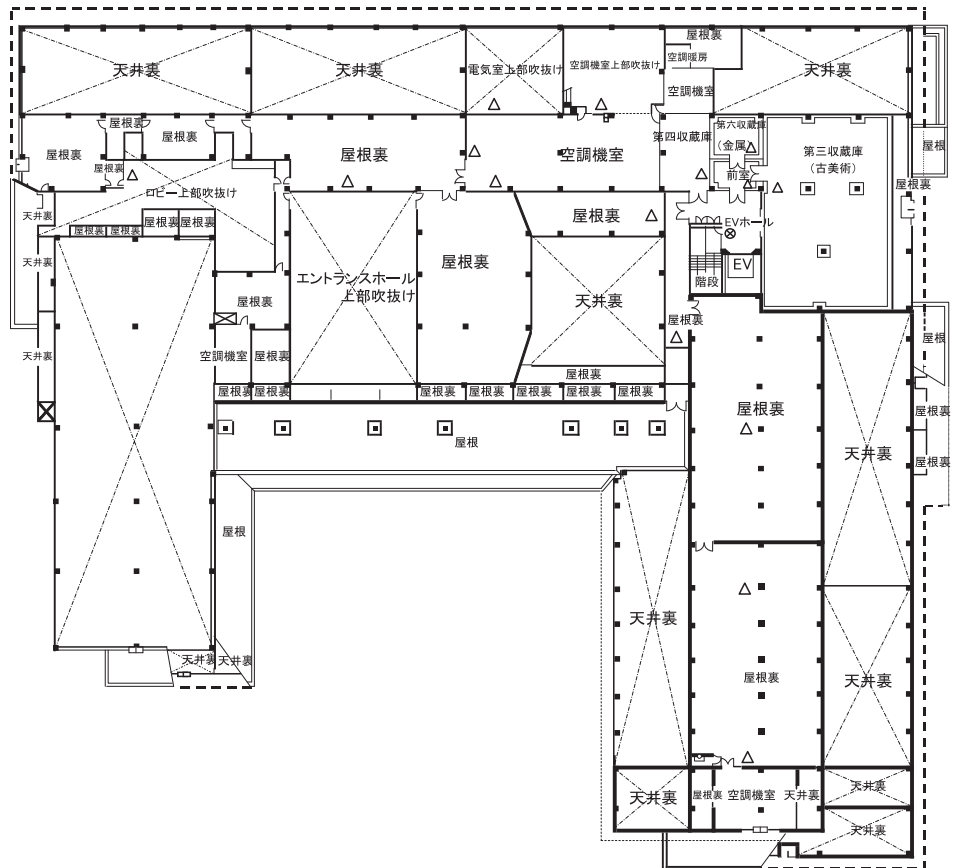
<p>電気設備 1. 電気設備 受電電圧 3相3線式 6.6KV 50Hz 変圧器容量(業務用) 1575KV A (冬季用) 400KV A 2. 非常用電源 発電機 3相3線式 6.6KV 50Hz 400KV A 蓄電池 密閉型アルカリ A H - P E 200 A H 86セル 3. その他 電話設備、インターホン設備、TV共 同視聴設備、自動火災報知器設備、防 火戸等制御設備、ガス漏警報設備、非 常用放送設備、ITV監視設備 4. 視聴設備 TVカメラ、ビデオ調整卓、ビデオダ ッキ、音響総合ラック</p>	<p>2. 消火設備 (屋内) スプリンクラーとハロン消化設 備の併用、(屋外) 野外消火栓 昇降機設備 油圧式エレベーター定格荷重：3t1基 油圧式リフト 定格荷重：2t1基 融雪設備 ロードヒーター・屋根ヒーター、陸屋根 ヒーター・ドレンヒーター、外気温度地 面温度・降雪感知器・乾地面温度・湿地 面温度センサーの組み合わせにより自動 運転または手動運転。 監視設備 分散形総合監視制御システムにより、受 電設備・防災設備・熱源設備・空調設備・ 融雪設備・庭園設備等を遠方発停制御及 び計測監視を行う。 電話設備 電子交換外線3回線 内線64回線 火災報知設備 受信盤P型1級 60回線(自火報)33回 線(防排煙設備)、煙感知機274箇所、熱 感知機93箇所、排煙区画8系統、平面地 図盤(照光式)により表示 防犯設備 電波センサー・電子サイン・ITVを必要 箇所設置し、監視制御システムと併用</p>
<p>空調設備 1. 空調方式 各室ユニット型空調機 17系統ファン コイル ユニット方式 2. 熱源設備 ガス直焚冷温水発生器(150RT)×2 ガス焚鉄セクショナルボイラー (396.00Kcal/H) 水冷式チーリング ユニット(120RT)</p>	
<p>衛生設備 1. 給 水 市水道 受水槽：50㎡</p>	

3. 平面図・各室一覧

1 階平面図



2 階平面図



各室面積表

室名	面積(m ²)	備考	室名	面積(m ²)	備考
収蔵スペース	2,294.8 (m ²)		応接室	36.5	
荷受場	90.5		第1会議室	34.8	
荷解場	164.5		第2会議室	70.7	
荷受人控室	25.1		更衣室	13.2	
一時収蔵庫	30.4		湯沸室	5.0	
燻蒸室	30.7		印刷室	16.2	
工作室	39.6		救護室	13.2	
写真室	57.0	スタジオと暗室	警備員室	30.0	
第1収蔵庫	614.2	歴史・民俗	宿直室	25.1	
第2収蔵庫	617.7	考古・地質	倉庫A	29.4	
第3収蔵庫	393.6	古美術	倉庫B	43.6	収集用(1)
第4収蔵庫	75.6	剥製・植物標本	車庫	55.8	
第5収蔵庫	104.9	液浸	展示準備室(1)(2)	31.7	総合展示室用
第6収蔵庫	51.5	金属	展示準備室(3)(4)	71.1	部門・企画・ 収蔵資料用
研究スペース	788.3 (m ²)		機械スペース	1,253.1 (m ²)	
研究室	238.4		空調機室1F	393.2	
自然作業室	37.6		空調機室2F	479.4	
保存科学室	77.2		電気室	132.5	
考古作業室	72.3		中央監視室	52.8	
薬品庫	8.8		発電気室	50.2	
図書室	300.0		バッテリー室	14.4	
情報処理室	54.0		受水槽室	66.7	
展示スペース	2,815.1 (m ²)		ハロンボンベ室	31.7	
総合展示室	1,536.9		E V 機械室	17.1	
部門展示室	585.8		電話交換機室	6.3	
企画展示室	484.1		V T R 機械室	8.8	
収蔵資料展示室	208.3		サービス・共用スペース	2,507.54 (m ²)	
教育普及スペース	693.1 (m ²)		エントランス・ホール	461.1	
講堂	257.8		レストラン	83.7	厨房含む
講堂倉庫	15.0		売店・相談コーナー	73.3	ロッカー含む
体験学習室	173.5		便所(展示)	32.6	
視聴覚室	65.6		便所(中央)	68.8	
効果室	32.1		便所(管理)	31.3	
実習室	128.3		展示ロビー	513.8	ビデオブース・ワーク ショップを含む
実習準備室	20.8		レストコーナー	40.3	
管理スペース	719.5 (m ²)		その他	1202.64	
事務室	166.1		計	11071.44	
館長室	45.6				
副館長室	31.5				

4. 施設の修理・改築

平成 7年 8月 9日	消防施設整備工事（スプリンクラー設備修繕）（～10.31）
平成 8年10月 1日	博物館地域福祉推進特別対策事業（誘導表示等設置 段差解消スロープ 車椅子 駐車場 2 台分）（～ 9. 3. 19）
平成12年10月27日	給水ポンプ取替工事（～13. 1. 9）
平成14年 9月12日	博物館東・北面外壁タイル補修工事（～12. 16）
平成15年 9月19日	非常用蓄電池取替工事（～11. 20）
10月21日	吸収冷温水機真空部取替工事（～16. 1. 8）
平成16年10月 5日	屋根補修工事（～12. 17）
12月21日	吸収冷温水機真空部取替他工事（～17. 3. 18）
平成17年 7月22日	屋根補修工事（～10. 4）
平成18年 1月 6日	熱源コントローラー交換工事（～18. 3. 17） スプリンクラーヘッド交換工事（～18. 3. 17）
平成19年 1月 5日	スプリンクラー設備修繕工事（～19. 3. 23）
平成19年 2月 1日	1階床張替え補修工事（～19. 3. 23）
平成19年 2月21日	ウォシュレット取付け工事（～19. 3. 19）
平成21年 1月21日	高圧引込設備改修工事（電柱立替外）（～21. 3. 24）
平成21年 6月 3日	冷却塔ヘッダー管交換 2 回（～21. 12. 25）
平成21年12月18日	消防設備修繕（呼水槽、消火栓ホース、ハロゲン非常用電源設備外）（～22. 2. 26）
平成22年 2月17日	企画展示室改修工事（～22. 3. 29）
平成22年11月16日	中央監視システム更新工事（～23. 4. 25）
平成22年11月26日	空調熱源機器改修工事（～23. 4. 22）
平成23年 1月20日	空調設備改修工事（～23. 4. 25）

VII 利用案内

● 開館時間

午前9時30分～午後5時（最終入館は午後4時30分まで）

● 休館日

- ◎毎週月曜日（祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎祝祭日の翌日（土・日・祝祭日にあたる場合は開館）
- ◎年末年始（12月28日～1月4日）
- ◎その他、館内くん蒸などのために臨時に休館することがあります。

● 観覧料

◎常設展（ ）内は、団体20人以上の料金

一般・大学生260円（210円） 高校生以下は無料

◎企画展 そのつど定めます。

★学校の引率者、大学の教育活動、公民館等の団体は申請により減免措置を受けることができます。（常設展のみ）

★身体障害者手帳・療育手帳・精神障害者保健福祉手帳の交付を受けている方は無料
また1種（精神障害者保健福祉手帳にあつては1級）の認定を受けている方に限り、介護者1名が無料。

★知事の発行する外国人留学生文化施設等無料観覧証を交付されている方は無料。（常設展のみ）

★展示室以外の入館は無料。

● 常設展無料開放日

5月5日（子供の日）／9月第3月曜日（敬老の日）／11月3日（文化の日）／8月21日（県民の日）

● 企画展無料開放日（高校生以下のみ）

11月1日～11月7日（ふくしま教育週間）

● 交通案内



◎会津若松駅より約3km

◎市内バス利用の場合

①まちなか周遊バス「ハイカラさん」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

②まちなか周遊バス「あかべえ」鶴ヶ城三ノ丸口下車徒歩1分

③病院循環バス「ひまわり」県立病院前下車徒歩5分

● 体の不自由な方へ スロープ・専用トイレなどを備えたほか、車いすも用意しています。

● 講座・講演など 博物館では講演会・実技講座・実演などを行っています。

福島県立博物館年報 第26号

平成24年12月7日 印刷

平成24年12月7日 発行

編集・発行 福島県立博物館

〒965-0807 会津若松市城東町1-25

TEL (0242) 28-6000

FAX (0242) 28-5986

<http://www.general-museum.fks.ed.jp/>

印刷 株式会社 アポロ

〒965-0044 会津若松市七日町14-7

TEL (0242) 22-5139

この年報の本文は再生紙を使用しています。

福島県立博物館

〒965-0807 福島県会津若松市城東町1-25 TEL0242(28)6000